

第4章 2区の調査成果

表32 2区出土土器・土製品観察表(5)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
491	C18 流路1 中層	3070	第100図 PL74	縄文土器 深鉢	器高: 6.7△	外面: 口縁端部刻目。胴部ケズリ後ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (1~2mm程の長石を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
492	C18 流路1 上層	3002	第100図	縄文土器 深鉢	器高: 5.1△	外面: 口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 灰黄褐色	
493	F18 流路1 中層	2367	第100図	縄文土器 深鉢	器高: 4.9△	外面: ケズリ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良好	外面: にぶい黄~にぶい橙色 内面: 灰黄~にぶい橙色	
494	C18 流路1 1-2~1層	2958	第100図 PL74	縄文土器 浅鉢か	器高: 3.8△	外面: ケズリ後ナデ。頸部指押さえ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (1~4mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄色	
495	E18 流路1 上層	2942	第100図	縄文土器 浅鉢	器高: △4.1	外面: ケズリ後ナデ 内面: ケズリ後ナデ	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: 灰黄褐色	
496	B19 流路1 中層	3001	第100図 PL74	縄文土器 深鉢	器高: 4.1△	外面: 条痕、焼成後穿孔。 内面: ヨコナデ、かすかに条痕あり。	密 (1mm以下の長石、石英を含む)	良好	内外面: 淡黄色	補修孔あり。
497	E18 流路1 埋土	2964	第100図	縄文土器 底部	器高: 2.2△ 底径: 8.0※	外面: ナデ。 内面: ナデ、指おさえ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 灰黄褐色	
498	D18 流路1 埋土	1495	第100図 PL74	縄文土器 底部	器高: △1.9 底径: ※5.2	外面: ケズリ後ナデ。 内面: ナデ。底部指押さえ。	密	良好	外面: 明黄褐色 内面: 褐灰色	
499	D18 流路1 埋土	2959	第100図 PL74	縄文土器 底部	器高: 3.8△ 底径: 7.6※	外面: ケズリ後ナデ。 内面: 下位から上位へのナデ。底部付近指押さえ。	密	良好	内外面: にぶい黄橙色	
500	B19 流路1 2層	2079	第100図 PL74	縄文土器 底部	器高: 3.6△	外面: 胴部下位ナデ。底部よりやや上がった位置に刺突文。底面は、胴部側よりキザミを加え成形した後、中心をひねる。 内面: 胴部下位ケズリ後ナデ。底部に成形時の工具痕あり。	密	良好	外面: 淡黄~黒色 内面: 浅黄色	外面黒斑あり。
501	D18 流路1 埋土	2959	第100図 PL74	縄文土器 底部	器高: 4.1△ 底径: 3.2	外面: 胴部下位ヘラケズリ、高台部ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
502	F18 流路1 4層	2375	第101図 PL75	弥生土器 甕	口径: 29.6※ 器高: 9.4△	外面: 口縁端部下半に刻目。胴部上位ヨコナデ、4条のヘラ描き沈線。下位ミガキ。 内面: 口縁部ヨコナデ。	密 (1mm程の長石、石英を僅かに含む)	良好	外面: にぶい黄橙~黒色 内面: にぶい黄褐色	外面にスス付着。
503	F18 流路1 下層	2355	第101図 PL75	弥生土器 甕	器高: 4.1△	外面: 口縁部に2条の沈線。胴部ケズリ後ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (1~2mm程の長石を多く含む)	良好	内外面: 灰黄褐色	
504	C19 流路1 上層	2944	第101図 PL75	弥生土器 甕	器高: 3.6△	外面: ミガキ、木の葉文。 内面: 剥離のため調整不明。	密 (1~3mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	内面欠損。
505	B19 流路1 中層	3001	第101図 PL75	弥生土器 甕	器高: 6.4△	外面: 胴部上位ナデ後沈線、下位ミガキ。全体的に風化。 内面: ナデ。	密 (1mm程の砂粒を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄橙~明黄褐色	
506	C18 流路1 下層	3019	第101図 PL75	弥生土器 甕	器高: 3.7△	外面: 胴部上半、木葉文。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (1mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 灰黄色	I-3様式。
507	C19 流路1 埋土	2932	第101図 PL75	弥生土器 壺	口径: 9.7※ 器高: 3.5△	外面: 口縁部ヨコナデ、頸部工具による強い押さえ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: 淡黄~黄褐色 内面: 灰黄色	
508	C18 流路1 埋土	2932	第101図	弥生土器 甕	器高: 1.9△ 口径: 16.6※	外面: 口縁部2条の凹線。頸部に工具が指を用いた強い押さえ。 内面: 口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ハケ目。	密	良好	内外面: 浅黄色	
509	C19 流路1 中層	3005	第101図	弥生土器 甕	器高: 2.4△	外面: 口縁部3~4条の凹線。頸部指頭圧痕貼付突帯。口縁~頸部ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
510	E18 流路1 中層	2994	第101図 PL75	弥生土器 甕	口径: 17.0※ 器高: 4.0△	外面: 口縁部3条の凹線。頸部ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 淡黄色	
511	C19 流路1 中層	3005	第101図 PL75	弥生土器 甕	口径: 17.2※ 器高: 2.3△	外面: 口縁部3条の擬凹線。口縁部~頸部ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
512	B19 流路1 下層	3021	第101図 PL75	弥生土器 甕	器高: 3.8△	外面: 口縁部2条の凹線、回転ヨコナデ。頸部に貼付刻目突帯、胴部ヨコナデ。 内面: 口縁部回転ヨコナデ、頸部~胴部ナデ。	密	良好	内外面: 淡黄色	IV-3様式。
513	E18 流路1 埋土	2938	第101図 PL75	弥生土器 高坏	器高: 6.0△	外面: 口縁部ナデ、胴部ミガキ。口縁部に穿孔。内面: 口縁部ナデ、胴部ハケ目後ナデ。	密	良好	内外面: 明黄褐色	
514	B19 流路1 2層	2068	第101図 PL75	弥生土器 底部	器高: 5.0△ 底径: 6.0※	外面: ミガキ。内面: 胴部下位ケズリ。底部指押さえ。	密	良好	外面: 褐灰色 内面: にぶい黄褐色	
515	E18 流路1 埋土	2938	第101図	弥生土器 底部	器高: 4.6△ 底径: 7.4※	外面: ミガキ。底面: ケズリ後ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (1~3mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	外面スス付着。
516	F18 流路1 下層	2329	第101図 PL75	弥生土器 壺	器高: 6.0△ 口径: 12.8※	外面: 口縁部ミガキ、頸部~胴部ハケ目。 内面: 口縁部~頸部ナデ。頸部~胴部単位の短いケズリ。	密 (0.5~2.5mm程の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	外面: にぶい黄橙~灰褐色 内面: 一部にぶい橙~灰褐色	弥生後期。
517	E18 流路1 中層	2994	第101図	土師器 甕	器高: 2.3△	外面: ナデ。 内面: ナデ。	やや密	良好	内外面: 灰黄色	古墳時代前期。
518	B19 流路1 埋土	3016	第101図	土師器 壺	器高: 3.8△	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 浅黄色(25Y7/3) 内面: にぶい黄橙(10YR7/4)	古墳時代前期。
519	B19 流路1 埋土	3016	第101図 PL75	土師器 高坏	口径: 27.0※ 器高: 4.6△	外面: 口縁指押さえ、口縁部~胴部ナデ。胴部下~杯部底面ケズリ。 内面: ナデ。底部付近湾曲部工具によるナデ。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	古墳時代前期。

表 33 2区出土土器・土製品観察表(6)

遺物番号	遺構・層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
520	F18 流路1 2-I層		第101図 PL.75	須恵器 坏身	器高: 3.8 △ 口径: 10.6 ※	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: 褐灰色~暗褐色 内面: 褐灰色	TK47。
521	流路1 石暗渠・攪乱	2734・2742・ 2750・2414・ 1922・2937	第101図 PL.75	須恵器 有蓋高坏	口径: 11.8 ※ 器高: 9.5 △ 基部径: 13.6 立ち上がり高: 0.7	外面: 受け部~体部上位回転ナデ、 体部下位ケズリ後ナデ。脚部 回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	脚部外面自然釉。脚部内面灰面着。TK209。
522	D18 流路1 2-I層他	2909・2769・ 2707・2568・ 2670・2711・ 2720・2765・ 2682・2572	第101図 PL.75	須恵器 提瓶	口径: 7.4 ※ 器高: 12.7 △	外面: 口部ナデ。体部カキ目。把 手ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰色	口部~体部上位にかけての黒~緑色の自然釉付着。TK209。
523	E18 流路1 埋土	2938	第101図 PL.75	土師器 甕	器高: 3.7 △	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mm の石英、砂粒 を含む)	良好	外面: 黄褐色 内面: 橙色	古墳時代後期か。
524	F18グリッド 流路1 2層	2288	第101図 巻頭図版4	土製品 人面土製品	最大長: 6.5 △最大幅: 4.5 △最大厚: 1.9 △重量: 38.064	外面: 人面を作り出す。 内面: 剥離か。	密	良好	内外面: 褐灰色	縄文晩~弥生前期か?
525	F18 流路3-1 下層	2338	第107図 PL.71	土師器 椀	口径: 14.1 ※ 器高: 5.1 △	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部上位 ハケ目。下位ハケ目後ナデ。	密(砂粒を含 む)	良好	内外面: 明黄褐色	天神川IX(八橋Ⅲ)。
526	F18 流路3-1 上層	2205・2337・ 2353	第107図 PL.71	土師器 椀	口径: 16.2 ※ 器高: 4.0 △	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部粗い ハケ目。 内面: ケズリ後ナデ。	密(1mm程の 石英、長石を 多く含む)	良好	内外面: 橙色	
527	D19 流路3 下層	2974	第107図 PL.71	土師器 椀	器高: 3.0 △	外面: ナデ。 内面: ナデ。湾曲部に指押さえ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
528	F18 流路3-1 下層	2337	第107図 PL.71	土師器 低脚坏	口径: 4.0 ※ 器高: 2.0 △	外面: ナデ。 内面: 底部ナデ後ミガキ。脚部ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄色	古墳前期。
529	D19 流路3埋土	2936	第101図 PL.71	土師器 甕	器高: 4.05 △	外面: 口縁部~頸部ナデ。頸部~ 胴部ミガキ。 内面: 口縁部~頸部ナデ。頸部~ 胴部ケズリ。	密(2.0mm以 下の砂粒を含 む)	良好	内外面: 浅黄色	
530	D191-2-II層 流路3 埋土	2951・2962	第107図 PL.75	須恵器 甕	器高: 5.2 △	外面: 体部上位回転ナデ、下位ナ デ後カキ目。 内面: 回転ナデ。	密	良好	外面: 灰白~灰色 内面: 灰色	
531	F18 流路3-1 下層	2337	第107図 PL.93	土製品 土鉢	最大長: 3.5 最大幅: 4.2 最大厚: 4.0 重量: 12.5g	手捏ね成形後一部ミガキ。	密	良好	灰白色	
532	B21 流路2 上層	2203	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 2.8 △	外面: 押型文(山形文)。 内面:	密	良好	外面: 淡黄色 内面: 灰白色	
533	C21.22 流路2 下層	2207	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.3 △	外面: 縄文。 内面: 縄文。	密	良好	外面: 暗褐色 内面: 褐色	菱根式か。
534	B22 流路2 下層	2219	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 4.3 △	外面: RL縄文。 内面: RL縄文。縄文後ナデ。	密(1mm~ 4mm程の石英、 長石を含む)	良好	外面: 橙色 内面: 灰黄褐色	菱根式か。
535	B22 流路2 上層	2218	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.6 △	外面: 3条の沈線。 内面: 条痕後ナデ	密	良好	内外面: 明黄褐色	北白川C式。
536	D20 流路2 下層	3417	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 2.9 △	外面: 1条の沈線、LR縄文。ナデ。 内面: ヨコナデ	密(2mm以下 の石英、長石 含む)	良好	内外面: 灰白色	北白川C式。
537	D20 流路2 下層	3417	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	器高: 2.8 △	外面: 1条の沈線、縄文。ナデ。 内面: ナデ	密(1mm~ 3mm程の砂粒を 含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: 黄灰色	
538	D20 流路2 下層	3417	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢か	器高: 4.6 △	外面: 2条の沈線、連続刺突文、 縄文。 内面: 条痕後ナデ。	密(1mm以下 の長石を置く含 む)	良好	外面: 褐灰~にぶい黄 褐色 内面: 褐灰色	
539	C21 流路2 下層	3415	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.4 △	外面: ハケ目後4条の沈線。 内面: ケズリ後ナデ。	密(1mm~ 3mm程の石英、 長石を含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: 橙色	北白川C式?
540	B21 流路2 上層	2175	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 4.2 △	外面: 磨消縄文(LR縄文)。磨消 部擦痕あり。 内面: ナデ。	密(2mm以下 の石英、長石を 含む)	良好	内外面: 黒褐色~灰白 色	中津新?
541	D20 流路2 下層	3428	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢もしくは 注口土器	器高: 3.1 △	外面: 羽状縄文。 内面: ケズリ後ナデ	密	良好	内外面: 灰白色	縁帯文。
542	B21 流路2 上層	2175	第110図 PL.77	縄文土器 鉢?	器高: 2.5 △	外面: ミガキ。 内面: ナデ。	密(砂粒多く含 む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	縁帯文。沖丈 併行の注口土 器か。
543	C21 流路2 下層	3409	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢もしくは 浅鉢	器高: 3.8 △	外面: 1条の沈線、ケズリ。 内面: ケズリ後ナデ。	密(0.5~2mm 程の長石、石英 の砂粒を含む)	良好	内外面: 黄灰色	内面スス付着。 断面粘土つなぎ 痕。
544	C20 流路2 中層	3098	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.8 △	外面: 条痕後、3条の沈線。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
545	D20 流路2 下層	3417	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 6.0 △	外面: 上位条痕後4条の沈線、下 位板状工具による連続刺突、 ミガキ。 内面: ケズリ後ナデ。	やや密	やや良	内外面: 黒褐色	
546	B21 流路2 上層	2194	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 5.4 △	外面: 口縁部より少し下がった 位置に1条の沈線。口縁部 ~沈線間に縄文。口縁部~胴 部上位ヨコナデ。 内面: 口縁部縄文。口縁部~胴 部上位ヨコナデ。	密	良好	外面: 灰黄色 内面: 浅黄褐色	
547	C21 流路2 中層	3100	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 5.4 △	外面: 口縁部沈線。頸部条痕。 内面: ナデ。	密(細かい輝 石の砂粒を多 く含む)	良好	外面: にぶい黄橙~に ぶい橙色 内面: 灰黄褐色	内面に粘土つ なぎ痕。

第4章 2区の調査成果

表34 2区出土土器・土製品観察表(7)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
548	B21 流路2 上層	2203	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢?	器高: 3.9△	外面: 口縁部磨消縄文、口縁部ナデ。 内面: 口縁部ナデ、口縁部ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	内外面: 灰黄色	内外面とも風化がすすむ。
549	B21 流路2 上層	2175	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢?	器高: 4.0△	外面: 口縁部RL縄文。口縁部ナデ。 内面: 口縁部ナデ。口縁部ケズリ後ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	内外面: 灰黄色	
550	D20 流路2 下層	3417	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢か浅鉢	器高: 4.2△	外面: LR縄文、ケズリ 内面: ケズリ後ナデ	密	良好	内外面: 浅黄色	
551	A21 流路2 下層	2202	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢か浅鉢	器高: 2.9△	外面: 口縁部RL縄文。口縁部ケズリ後ナデ。 内面: 口縁部RL縄文。口縁部ケズリ後ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	内外面: 橙色	
552	B21 流路2 下層	3365	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.5△	外面: 口縁部1条の隆帯、連続刺突文。 内面: ナデ	密(砂粒含む)	良好	内外面: 灰黄褐色	
553	C21 流路2 中層	3094	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	器高: 2.15△	外面: 口縁部1条の沈線、刺突。 内面: ナデ。	やや密(1~2mm程の砂粒を多く含む)	良好	外面: 暗灰黄色 内面: 灰黄褐色	
554	D20 流路2 下層	3428	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢か浅鉢	器高: 2.6△	外面: 口縁部に2条の沈線。口縁部刺突による花卉状文様。 内面: ケズリ後ナデ。	密(1mm程の長石を多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄褐色	
555	D20 流路2 下層	3366	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 7.6△	外面: 口縁部に馬蹄状の突起、突起上に刻目。胴部上位粗いナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: 灰黄褐色	布勢式。
556	C21 流路2 中層	3093	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	器高: 4.2△	外面: 口縁部1条の沈線、ミガキ。 内面: 2条の凹線状の段、ミガキ。	密(1mm程の砂粒を多く含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: 黄灰色	
557	D20 流路2 下層	3428	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	器高: 2.9△	外面: 口縁部1条の沈線、ミガキ。 内面: 2条の凹線状の段、ナデ。	密	良好	内外面: 明黄褐色	晩期前半(Ⅱ~Ⅲ期)の浅鉢口縁部。
558	C21 流路2 中層	3093	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 8.5△	外面: ケズリ 内面: ケズリ後ナデ。	密(長石を多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい橙色	
559	C21 流路2 下層	3415	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.85△	外面: 竹管状工具による刺突、2条以上の沈線、ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 黒褐色	
560	流路2 埋土	3406	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.5△	外面: 棒状工具による3条の押し込み刺突、ナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mm大の砂粒を含む)	良好	内外面: にぶい褐~灰褐色	
561	C20 流路2 中層	3098	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 6.9△	外面: ケズリ。 内面: ケズリ。	密(1~3mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: 黒褐色 内面: 灰黄色	
562	C21 流路2 中層	3100	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.4△	外面: 口縁部竹管状工具による刺突。条痕。 内面: ナデ。	密(0.5~1mm程の長石、石英の砂粒を含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: にぶい黄褐色	外面に黒斑あり。
563	D21 流路2 下層	3240	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 3.3△	外面: 2条の沈線、ミガキ。 内面: ケズリ後ナデ。	密(0.2~0.5mm程の長石、石英の砂粒を含む)	良好	内外面: 灰白色	内面にスス付着。
564	B21 流路2 下層	3365	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	口径: 14.6※ 器高: 4.2△	外面: 口縁部に2条の沈線。ミガキ。 内面: ミガキ。	密	良好	外面: 明赤褐色 内面: 暗赤褐色	
565	B21 流路2 上層	2175	第110図 PL.77	縄文土器 浅鉢	器高: 2.0△	外面: ナデ。2条の沈線。 内面: ナデ。沈線。	密(1mm程の砂粒を僅かに含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: 灰白色	晩期前半(滋賀里Ⅱ)。
566	B21 流路2 上層	2175	第110図 PL.77	縄文土器 深鉢	器高: 3.3△	外面: 口縁部刻目。口縁部二枚具による条痕。口縁部より少し下がった位置に刺突文。 内面: 条痕後ナデ。	密	良好	外面: 褐灰色 内面: にぶい黄褐色	晩期前半か?
567	D20 流路2 下層	3428	第110図 PL.77	縄文土器 鉢	器高: 6.9△	外面: 胴部上位ナデ、刺突文。下位ケズリ後ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密	良好	外面: 明黄褐色 内面: 浅黄色~黄褐色	
568	B21 流路2 上層	2175	第111図 PL.76	縄文土器 浅鉢	口径: 29.6※ 器高: 13.4△	外面: 口縁部~胴部下位ミガキ。口縁部指押さえ。胴部下位ケズリ後粗いミガキ。 内面: 粗いミガキ。口縁部指押さえ。	密(0.5~2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	内外面: 灰褐色	外面に黒斑あり。内面の一部にスス付着。
569	B21 流路2 上層	2175	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 4.3△	外面: 口縁部刻目。口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部~胴部ケズリ後ナデ。 内面: 条痕。	密(1mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 灰黄褐色	
570	B21 流路2 下層	3365	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 2.35△	外面: 口縁部刻目。口縁部にほぼ接して刻目突帯。体部ケズリ。 内面: ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 黒褐色	
571	B21 流路2 下層	3365	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 口縁部刻目。口縁部にほぼ接して刻目突帯。体部条痕後ケズリ。 内面: 条痕後ケズリ。	密(1mm以下の長石、雲母を含む)	良好	外面: 浅黄橙~にぶい褐色 内面: 白色	内面にスス付着。
572	D20 流路2 中層	3108	第111図 PL.79	縄文土器 鉢	器高: 5.0△	外面: 口縁部刻目。口縁部より少し下がった位置に刻目突帯。胴部条痕。 内面: 条痕後ナデ。	密(1mm程の砂粒を多く含む)	良好	外面: 浅黄橙~褐灰色 内面: 淡黄~黄灰色	
573	B21 流路2 上層	2203	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 5.9△	外面: 口縁部刻目。口縁部より少し下がった位置に刻目突帯。口縁部上半ナデ、口縁部~胴部ケズリ。 内面: 条痕。口縁部付近条痕後ヨコナデ。	やや密	良好	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	外面に一部スス付着。
574	C21 流路2 中層	3100	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 2.8△	外面: 口縁部に刻目。口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部左方向ケズリ。 内面: 口縁部上位ヨコナデ。下位条痕。	密(1mm以下の長石、雲母を含む)	良好	内外面: 灰黄色	外面にスス付着。
575	C20 流路2 中層	3098	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高: 6.7△	外面: 口縁部に刻目。口縁部よりやや下に刻目突帯。口縁部上位ケズリ。 内面: ケズリ。	密(2~3mmの砂粒を含む)	良好	内外面: 黒褐色	

表 35 2区出土土器・土製品観察表(8)

遺物番号	遺構・層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
576	C21 流路2 下層	3415	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	口径：31.7 ※ 器高：8.1 △	外面：口縁端部よりやや下に刻目突帯。口縁部ナデ。胴部ケズリ。 内面：条痕後ナデ。	密(1mm程の砂粒を含む)	良好	外面：灰白色 内面：灰白色～黄灰色	内面、断面に粘土つなぎ痕あり。
577	C20 流路2 中層	3098	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：5.5 △	外面：口縁端部よりやや下に刻目突帯。口縁部ナデ。胴部ケズリ。 内面：ナデ、ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	内外面：灰白色	外面にスス付着。
578	C21 流路2 中層	3100	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.2 △	外面：口縁端部よりやや下に刻目突帯。口縁部ナデ。胴部ナデ。 内面：ナデ	密	良好	内外面：灰白色	
579	B21 流路2 上層	2217	第111図 PL.78	縄文土器 深鉢	口径：29.4 ※ 器高：10.4 △	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部端部よりやや下に刻目突帯。胴部左方向のケズリ。 内面：口縁部条痕、胴部ケズリ。	密(0.01～0.25mmの長石、石英を多く含む)	良好	外面：灰黄色、黄灰色 内面：灰白色	
580	C21 流路2 下層	3415	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.1 △	外面：口縁部ナデ、口縁部よりやや下に刻目突帯、胴部ケズリ。 内面：ケズリ。	密(2mm程度の砂粒を含む)	良好	外面：暗灰黄色～黄灰色 内面：黒色	
581	E18 流路2 下層	3409	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.1 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ナデ。 内面：ケズリ後ナデ。	密(1～2mm程度の石英、長石を含む)	良好	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色	
582	C21 流路2 下層	3415	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.3 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
583	C20 流路2 下層	3114	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.8 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。口縁部ナデ。胴部ケズリ。 内面：ケズリ後ナデ。	密	良好	外面：にぶい橙～橙褐色 内面：にぶい褐色	内面風化。
584	C21 流路2 下層	3385	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：6.0 △	外面：口縁部に接して刻目突帯。口縁部条痕後ナデ。 内面：条痕後ナデ。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	内面に粘土つなぎ痕。
585	B21 流路2 上層	2175	第111図 PL.78	縄文土器 深鉢	口径：15.8 ※ 器高：10.5 △	外面：口縁部横方向のナデ、口縁部ナデ。口縁より少し下がった位置に貼付刻目突帯。胴部二枚貝による貝殻条痕。 内面：ケズリ、一部条痕。	密	良好	外面：褐灰～黒色 内面：にぶい褐～褐灰色	外面にスス付着。内面に粘土つなぎ痕。
586	B21 流路2 上層	2194	第111図 PL.78	縄文土器 鉢	口径：12.2 ※ 器高：9.4 △	外面：口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯文。口縁部ナデ。頸部条痕。胴部ケズリ後一部条痕。 内面：条痕。胴部上半外反部指押さえ。	密	良好	外面：橙色 内面：明褐灰～にぶい褐色	内外面にスス付着。
587	B21 流路2 上層	2194	第111図 PL.78	縄文土器 深鉢	器高：14.6 △	外面：口縁部ナデ。口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。胴部条痕。 内面：ケズリ後条痕。	密	良好	外面：にぶい黄橙～灰褐色 内面：橙～灰褐色	
588	C21 流路2 中層	3100	第111図 PL.79	縄文土器 鉢	口径：19.0 ※ 器高：6.5 △	外面：口縁部ナデ。口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部条痕。 内面：条痕。	密(1～4mm程度の石英、長石を含む)	良好	外面：灰黄褐色 内面：浅黄褐色	
589	C21 流路2 下層	3415	第111図 PL.79	縄文土器 浅鉢	口径：20.0 ※ 器高：6.8 △	外面：口縁部ナデ、口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯、胴部二枚貝による条痕。 内面：二枚貝による条痕。	密(砂粒あり)	良好	内外面：明黄褐色	断面に粘土紐巻き上げ痕あり。
590	C20 流路2 中層	3098	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：5.0 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ケズリ後ナデ。 内面：条痕後ナデ。	密(1mm以下の長石、石英を含む)	良好	内外面：灰白色	外面に粘土つなぎ痕。
591	B21 流路2 下層	3365	第111図 PL.78	縄文土器 深鉢	口径：25.0 ※ 器高：15.4 △	外面：口縁部ナデ。口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部上位ケズリ後ナデ、下位条痕。 内面：条痕。	密(2～4mmの石英を僅かに含む)	良好	外面：にぶい黄褐色・灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	外面スス付着。
592	C21 流路2 下層	3409	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：10.2 △	外面：口縁部ナデ、口縁部よりやや下に刻目突帯、突帯下ナデ、胴部ケズリ。内面：条痕後ナデ。	密	良好	外面：黒褐～浅黄褐色 内面：浅黄橙～灰褐色	断面、内面に粘土つなぎ痕。
593	C21 流路2 中層	3100	第111図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：8.8 △	外面：口縁部に接する刻目突帯。口縁部端部～突帯ナデ。胴部ケズリ。 内面：口縁部上位ナデ。口縁部下位～胴部条痕。	密(1mm程の砂粒を僅かに含む)	良好	外面：灰黄褐色 内面：淡黄色	
594	C20 流路2 中層	3098	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：5.5 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部条痕後ナデ。 内面：ケズリ。	密(0.5～2mm程度の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	外面：にぶい黄橙～黒褐色 内面：にぶい黄褐色	
595	C21 流路2 中層	3095	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.7 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ケズリ。 内面：条痕後ナデ。	密(0.5～3mm程度の長石、石英の砂粒を含む)	良好	外面：灰黄～淡黄色 内面：灰黄色	外面にスス付着。
596	C21 流路2 下層	3385	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：6.8 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ケズリ後ナデ。 内面：条痕。	密(1～6mmの砂粒を含む)	良好	内外面：浅黄色	
597	C21 流路2 下層	3409	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.8 △	外面：口縁部ナデ、口縁部よりやや下に刻目突帯、口縁部～胴部条痕。 内面：ケズリ。指押さえ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	
598	C20 流路2 下層	3114	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.3 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ケズリ。 内面：ヨコナデ、ケズリ後ナデ。	密	良好	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい橙褐色	全体に風化。
599	C20 流路2 中層	3091	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.7 △	外面：口縁部ケズリ後ナデ。口縁部よりやや下に刻目突帯文。口縁部～胴部ケズリ後ナデ。 内面：口縁部ケズリ後ナデ。	密(1mm～2mm程度の石英、長石を含む)	良好	外面：にぶい橙褐色 内面：橙褐色	内面口縁部より下部分を欠損。
600	C21 流路2 下層	3409	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：3.7 △	外面：ナデ。口縁部よりやや下に刻目突帯。 内面：ケズリ後ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄色 内面：浅黄色	
601	C21 流路2 下層	3409	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.4 △	外面：口縁部よりやや下に刻目突帯。胴部ケズリ後ナデ。 内面：ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面：浅黄褐色	
602	C21 流路2 中層	3093	第112図 PL.79	縄文土器 深鉢	器高：4.4 △	外面：口縁部に接して刻目突帯。左方向のケズリ後ナデ。 内面：ナデ。	密(1～2mm前後の砂粒を含む)	良好	内外面：灰白色	
603	C21 流路2 中層	3073	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：4.9 △	外面：口縁部に接して刻目突帯。胴部ケズリ。 内面：条痕後ナデ。	密	良好	内外面：灰白色	

第4章 2区の調査成果

表36 2区出土土器・土製品観察表(9)

遺物番号	遺構 層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
604	C21 流路2 下層	3385	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	口径：29.8 ※ 器高：4.4 △	外面：口縁部ナデ。口縁端部に接して貼付刻目突帯。胴部上位条痕後ナデ。 内面：口縁部ナデ。胴部上位条痕後ナデ。	密(1mm程の石英を多く含む)	良好	外面：橙～にぶい橙色 内面：浅黄褐色	
605	B21 流路2 上層	2175	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	口径：30.3 ※ 器高：7.0 △	外面：口縁端部に接する刻目突帯。突帯下ナデ。胴部ケズリ後ナデ。 内面：口縁部ナデ、口縁部～胴部ケズリ後ナデ。	密(1mm程の砂粒を含む)	良好	外面：にぶい黄褐色～ 褐灰色 内面：浅黄橙～にぶい黄褐色	
606	B21 流路2 上層	2175	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：6.9 △	外面：貼付刻目突帯。ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	密(1mm未満、1～2mmの長石、石英、雲母を密に含む)	良好	外面：灰黄褐色 内面：灰白色	
607	B21 流路2 2層	2209	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：5.7 △	外面：口縁端部ケズリ後ナデ。口縁端部に接して貼付刻目突帯。口縁部～胴部ケズリ後ナデ。 内面：ヨコ方向のケズリ。	密(1～2mm程の石英、長石を含む)	良好	内外面：黒色	
608	C21 流路2 下層	3385	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：5.0 △	外面：口縁端部に接して刻目突帯。胴部ケズリ。 内面：ケズリ後ナデ	やや密	良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄褐色	
609	C21 流路2 下層	3385	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：4.8 △	外面：口縁部より少し下がった位置に断面三角形の貼付突帯。胴部ケズリ後ナデ。 内面：ケズリ後ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：灰白色	
610	B21 流路2 上層	2175	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：5.0 △	外面：口縁端部に接して貼付刻目突帯。口縁部～胴部ケズリ後ナデ。 内面：口縁部～頸部ケズリ後ナデ。頸部～胴部ケズリ。	密(1mm～2mm程の石英、長石を含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色	
611	C20 流路2 中層	3098	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：6.7 △	外面：ナデ。口縁端部から下がった位置に刻目をもたない横位の貼付突帯。胴部に縦位と斜位の貼付突帯。 内面：ナデ。	密(2mm程の石英を多く含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄色	
612	B21 流路2 上層	2175	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：5.1 △	外面：口縁端部ヨコナデ、口縁端部より少し下がった位置に貼付突帯。口縁部～胴部ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良好	外面：褐灰色 内面：黄灰色	外面スス付着。
613	C21 流路2 中層	3093	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：3.0 △	外面：ヨコナデ。口縁端部から少し下がった位置に刻目をもたない突帯。 内面：ケズリ後ナデ	密(雲母を多く含む)	良好	内外面：灰白色	
614	C20 流路2 中層	3098	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：4.2 △	外面：ヨコナデ。口縁部より少し下がった位置に刻目をもたない貼付突帯。胴部斜位の貼付突帯。 内面：ヨコナデ。	密(3mm程の砂粒を含む)	良好	外面：灰白～灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
615	C21 流路2 中層	3100	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢または 浅鉢	器高：3.3 △	外面：口縁端部に突起。口縁端部に接して貼付突帯。突帯上～口縁部に刺突文。口縁部ヨコナデ。 内面：条痕。	密	良好	内外面：黄灰色	
616	E18 流路2 下層	3409	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：2.4 △	外面：口縁端部ナデ。口縁端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。 内面：ナデ。	密	良好	外面：黄灰色 内面：灰黄色	
617	B21 流路2 上層	2194	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：4.0 △	外面：沈線。 内面：ナデ。	密(3mm以下の石英、長石を多く、雲母を少量含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
618	B21 流路2 上層	2194	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：4.5 △	外面：沈線。 内面：ナデ。	密(4mm以下の石英、長石を多く含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色～ 灰褐色	
619	E20 流路2 中層	3357・3241	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	口径：35.6 ※ 器高：8.5 △	外面：条痕後ナデ・ミガキ。 内面：条痕後ナデ・ミガキ。	密(0.5～2mm程の長石、石英の砂粒を含む)	良好	外面：灰褐～にぶい褐色 内面：にぶい黄色	外面口縁端部、内面胴部下位にスス付着。
620	C21 流路2 下層	3385・3409	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	口径：30.8 ※ 器高：7.6 △	外面：ヘラミガキ。ナデ。口縁端部より少し下がった位置と頸部にそれぞれ1条の沈線。 内面：ヘラミガキ。口縁端部より少し下がった位置に1条の沈線。	密	良好	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙～黒褐色	
621	A21 流路2 下層	2202	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：4.1 △	外面：ミガキ。 内面：ミガキ。	密(砂粒含む)	良好	内外面：黄褐色	
622	D20 流路2 下層	3417	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：4.6 △	外面：横方向のミガキ。 内面：横方向のミガキ。口縁端部より少し下がった位置に1条の沈線。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 (一部黄褐色あり) 内面：黒褐色	
623	B21 流路2 下層	2165	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：4.2 △	外面：屈曲部に2条の沈線。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：黒褐色～にぶい褐色	晩期。
624	B21 流路2 上層	2175	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：5.4 △	外面：2条の沈線。口縁部ミガキ。 内面：ミガキ後ナデ。	密(2mm以下の長石、石英を含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	晩期。
625	D20 流路2 中層	3081	第112図 PL.80	縄文土器 浅鉢	器高：2.4 △	外面：上位ナデ、縄文。下位1条の沈線、刺突。 内面：ナデ。	密(0.5～2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	内外面：灰黄色	
626	D21 流路2 下層	3368	第112図 PL.80	縄文土器 深鉢	器高：2.0 △	外面：ナデ。指押さえ。 内面：ナデ後刺突。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：橙～灰黄褐色	
627	C21 流路2 下層	3409	第113図 PL.81	縄文土器 鉢	器高：6.4 △	外面：口縁端部ナデ、口縁部～胴部ケズリ。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色、下部黒褐色	
628	B21 流路2 下層	3365	第113図 PL.81	縄文土器 浅鉢	口径：18.0 ※ 器高：5.0 △	外面：ケズリ後ミガキ。 内面：ケズリ後ミガキ。	密	良好	外面：褐灰～にぶい褐色 内面：灰白～にぶい橙色	外面粘土つなぎ痕。
629	B21 流路2 上層	2203	第113図 PL.81	把手	器高：4.3 △	外面：ケズリ後ナデ、端部に十字の沈線。 内面：ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面オリーブ褐色	

表 37 2区出土土器・土製品観察表(10)

遺物番号	遺構 区層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
630	B21 流路2 下層	3365	第113図 PL.81	縄文土器 底部	器高：5.0△ 底径：4.8※	外面：上方向のケズリ。 内面：胴部下位条痕。底部指押さえ。	密(1mm以下の長石、雲母を含む)	良好	外面：浅黄色 内面：にぶい黄色	
631	B21 流路2 下層	3365	第113図 PL.81	縄文土器 底部	器高：6.0△ 底径：4.0※	外面：ケズリ。	密(1～4mm程の砂粒を含む)	良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	
632	C21 流路2 下層	3415	第113図 PL.81	縄文土器 底部	器高：3.1△	外面：ナデ。 内面：条痕。	密(雲母を多く含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：淡黄色	
633	B21 流路2 上層	2203	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：21.6※ 器高：7.2△	外面：口縁端部刻目、胴部上位に2条の沈線、口縁部～沈線までハケ目後ナデ、胴部ハケ目。 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ目後ナデ。	密	良好	外面：橙色～明赤褐色 ～暗灰黄色 内面：灰黄褐色	
634	D20 流路2 下層	3428	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：5.8△	外面：口縁端部に刻目。口縁部ナデ。胴部ハケ目。 内面：ナデ。屈曲部ハケ目。	密(砂粒を多く含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
635	D20 流路2 下層	3366	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：6.4△ 口径：20.6※	外面：口縁端部刻目。口縁部ナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部ハケ目後ナデ。胴部ナデ、一部指押さえ。	密(0.5～2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	外面胴部にスス附着。
636	B21 流路2 上層	2194	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：3.5△	外面：口縁端部下半刻目。口縁部～胴部上半ハケ目。口縁外反部ハケ目ヨコナデ。胴部上位ハケ目後2条の沈線。 内面：ケズリ後ナデ。	密(1mm～2mm程の石英、長石を含む)	良好	外面：にぶい橙色 内面：橙色	
637	B21 流路2 上層	2203	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：4.3△	外面：口縁端部下半に刻目、胴部上位に2条の沈線。口縁部～胴部ハケ目後回転ヨコナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部回転ヨコナデ、口縁部～胴部ヘラケズリ。	密	良好	内外面：浅黄褐色	
638	B22 流路2 上層	2199	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：2.15△	外面：口縁端部下半刻目、口縁部ヨコナデ、胴部上位2条の沈線。 内面：ナデ。	密(4mm以下の砂粒を含む)	良好	外面：にぶい橙色～灰黄褐色 内面：にぶい橙色～灰黄色	
639	B22 流路2 上層	2218	第114図 PL.82	弥生土器 壺	器高：4.9△	内外面：ナデ。	密(1mm程の長石、石英の砂粒を少々含む)	良好	外面：にぶい橙～にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色	
640	D20 流路2 中層	3081	第114図	弥生土器 壺	器高：6.9△	外面：胴部上位に木葉文、胴部下位ヨコナデ。 内面：ヨコナデ後ミガキ。	密(1mm程の砂粒を僅かに含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄色	弥生前期。
641	D21 流路2 中層	3103	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：5.0※ 器高：4.6△	外面：口縁部ナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部ケズリ後ナデ。胴部ハケ目。	密(1mm程の石英を含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
642	B21 流路2 下層	2195	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：4.2△	外面：口縁端部下半刻目、口縁部～胴部上位ハケ目、胴部上位ハケ目後凹線。 内面：ハケ目後ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	外面：赤褐色～黒褐色 内面：明赤褐色	
643	B21 流路2 下層	3085	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：4.8△ 口径：11.2※	外面：口縁部～頸部ナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部～頸部ナデ。胴部ハケ目。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：黒褐色	表面状態悪い。弥生中期。
644	D20 流路2 下層	3428	第114図 PL.82	土師器 甕	口径：17.2※ 器高：5.7△	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ヨコ方向のミガキ。	密	良好	内外面：淡黄(2.5Y8/3)～黒褐(2.5Y3/1)	弥生Ⅲ様式。
645	D20.C20 流路2 下層・中層	3083・3092・3107	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：22.4※ 器高：8.5△	外面：口縁端部刻目。口縁部～頸部ナデ。頸部に貼付刻目突帯。胴部ハケ目。 内面：ナデ、ハケ目、指押さえ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	外面に黒斑あり。弥生Ⅲ-2様式。
646	D20 流路2 下層	3366	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：16.4※ 器高：5.4△	外面：口縁端部に1条の凹線。頸部ナデ。胴部ハケ目。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ハケ目後ミガキ。	密	良好	外面：灰黄色 内面：灰白色	
647	D20 流路2 中層	1552	第114図	弥生土器 甕	器高：3.7△	外面：口縁部3条の凹線、頸部ナデ、胴部ハケ目。 内面：ヨコナデ。	密	良好	外面：浅黄色～黄灰色 内面：灰白色	
648	C21 流路2 下層	3427	第114図	弥生土器 甕	器高：2.1△	外面：口縁部に3条の凹線、頸部回転ヨコナデ。 内面：回転ヨコナデ。	密	良好	内外面：灰白色	
649	C21 流路2 下層	3415	第114図 PL.82	土師器 甕	口径：15.2※ 器高：4.6△	外面：口縁部に2条の平行沈線。頸部ナデ。胴部ハケ目。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
650	D20 流路2 中層	3081	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：5.0△	外面：口縁部ナデ、頸部貼付刻目突帯、胴部ハケ目。 内面：ナデ。	密(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	外面：黒褐色 内面：灰黄色	
651	C21 流路2 下層	3115・3415	第114図 PL.82	弥生土器 壺	口径：23.8※ 器高：1.7△	外面：口縁部凹線施文後波状文。口縁部ヨコナデ。頸部タテ方向のハケ目。 内面：口縁部に斜格子文、波状文、刺突文。	密(1～2mm程の石英、長石を含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：灰白色	IV-1様式。
652	C21 流路2 中層	3095	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：2.2△ 底径：16.0※	外面：口縁部に2条の沈線、頸部ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	外面：灰白色 内面：にぶい黄褐色	内外面にうすくスス附着 弥生中期。
653	B22 流路2 下層	2206	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：17.4※ 器高：4.9△	外面：口縁部4条の凹線、頸部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部～胴部ケズリ。	密	良好	内外面：淡褐色	
654	C20 流路2 中層	3107	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：2.5△	外面：口縁部に7条の沈線。頸部上位に穿孔。頸部ナデ。 内面：ナデ。	密(0.5～1mm程の長石、石英を含む)	良好	外面：浅黄～明黄褐色 内面：浅黄色	弥生後期。
655	C21 流路2 ベルト	3405	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：13.8※ 器高：4.2△	外面：口縁部に10条の沈線後ナデ。頸部ナデ。 内面：口縁部ミガキ。頸部ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
656	D21 流路2 下層	3368	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：18.8※ 器高：5.3△	外面：口縁部平行沈線、頸部回転ヨコナデ、胴部貝殻腹縁による刺突。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ケズリ。	密	良好	内外面：灰白色	

第4章 2区の調査成果

表38 2区出土土器・土製品観察表(11)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
657	D21 流路2 中層	3103	第114図 PL.82	弥生土器 甕	口径：13.2※ 器高：3.3△	外面：口縁部に1条の凹線。口縁部ナデ。頸部ヨコナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄橙色	弥生V-3様式。
658	C21 流路2 下層	3409	第114図 PL.82	弥生土器 甕	器高：3.0△	外面：ナデ。 内面：口縁部～頸部上半ナデ。頸部下半ケズリ。	やや密	良好	内外面：にぶい黄色	表面状態悪い。
659	D20 流路2 中層	3238	第114図 PL.82	弥生土器 壺	口径：12.4※ 器高：4.5△	外面：口縁部に5条の沈線。頸部ナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部ミガキ。胴部ケズリ後ナデ。	密(0.5～1mm程の長石、石英の砂粒を多く含む)	良好	外面：浅黄橙～にぶい黄橙色 内面：浅黄橙～褐色	弥生後期。
660	B21 流路2 下層	3085	第114図 PL.82	弥生土器 壺	器高：6.5△	外面：口縁部に一部沈線、ハケ目。胴部ナデ。 内面：ナデ。	やや密	良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄褐色	
661	D20 流路2 下層	3366	第114図 PL.82	弥生土器 壺	器高：8.5△	外面：ハケ目後ミガキ。 内面：ハケ目後ナデ。	密	良好	外面：浅黄～黒褐色 内面：黒褐色	外面胴部下半にスス附着。弥生中期。
662	C21 流路2 下層	3409	第114図 PL.82	弥生土器 脚部	器高：2.8△	外面：脚部下位ハケ目、透かし孔あり。端部ナデ。 内面：ハケ目。	密	良好	内外面：にぶい橙色	
663	D20 流路2 中層・II-5層	3092・3057・ 2962・3094	第114図 PL.81	弥生土器 高環脚部	器高：7.0△ 底径：11.0※	外面：脚部上位2条の凹線、三角形のスクラ、タテ方向のミガキ、中位4条の凹線、下位錯脚文、2条の凹線。 内面：脚部上位しぼりナデ、中位ケズリ、下位ケズリ後ナデ、ナデ。	密(砂粒を多く含む)	良好	内外面：橙色	
664	D20 流路2 中層	3081	第114図 PL.82	弥生土器 壺底部	器高：5.7△ 底径：7.5	外面：胴部下位～底部上位3mmのヘラミガキ、底部下位～底部ヨコナデ。 内面：胴部下位ミガキ、底部ナデ、指押さえ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	外面：灰黄褐色～黒色 内面：にぶい黄褐色～黄褐色	
665	D20 流路2 中層	3238	第114図 PL.81	弥生土器 甕底部	器高：5.3△ 底径：5.8※	外面：胴部下位ミガキ。底部ナデ。 内面：胴部下位ケズリ後ナデ。底部ナデ、指押さえ。	密	良好	外面：にぶい黄色 内面：暗オリーブ褐色	弥生中期。
666	C21 流路2 下層	2208	第114図	弥生土器 甕	器高：6.7△ 底径：4.8	外面：ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい橙色～灰褐色 内面：にぶい黄褐色	
667	B22 流路2 下層	2206	第114図 PL.83	土師器 甕	口径：13.1※ 器高：5.7△	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ケズリ。	密	良好	内外面：灰白色	天神川I～II期。
668	C21 流路2 下層	3415	第114図 PL.83	土師器 甕	器高：4.8△	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	密	良好	内外面：浅黄色	天神川I期。
669	D20 流路2 中層	3081	第114図 PL.83	土師器 甕	口径：16.6※ 器高：5.3△	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ナデ。胴部ケズリ。	密	良好	内外面：淡黄色	天神川I期。
670	D21 流路2 中層	3103	第114図 PL.83	土師器 甕	口径：16.4※ 器高：4.3△	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	天神川I期。
671	E20 流路2 上層	3242	第114図 PL.83	土師器 甕	口径：16.7※ 器高：9.5△	外面：口縁部～胴部上位ナデ。胴部下位ハケ目。 内面：口縁部～頸部ナデ。胴部ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面：浅黄～浅黄橙	天神川I～II期。
672	C21 流路2 下層	3427	第114図 PL.83	土師器 甕	器高：3.7△	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良好	外面：灰黄色 内面：淡黄色	天神川I～II期。
673	B22 流路2 下層	2206	第115図 PL.83	土師器 壺	口径：18.8※ 器高：8.0△	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部に貝殻による縞彩文。 内面：口縁部ナデ、口縁部～頸部ヨコナデ。	密(0.5mm以下の砂粒を多く含む)	良好	内外面：淡黄～淡褐色	天神川II期。
674	B22 流路2 下層	2206	第115図 PL.83	土師器 甕	器高：5.5△	外面：ナデ。 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ。	密	良好	内外面：浅黄色	天神川II期。
675	C21 流路2 下層	3415	第115図 PL.83	土師器 甕	器高：4.9△	外面：口縁部ナデ。口縁部6条の沈線。口縁部～頸部ナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	内外面：黄褐色	
676	B22 流路2 下層	2219	第115図 PL.83	土師器 甕	口径：11.9※ 器高：3.1△	外面：口縁部～胴部上位ヨコナデ、下位ナデ。 内面：ヨコヘラミガキ。	密(1～2mm前後の砂粒を含む)	良好	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色～にぶい赤褐色	
677	B22 流路2 下層	2206	第115図 PL.83	土師器 甕	口径：12.8※ 器高：3.4△	外面：ミガキ。 内面：ミガキ。	密	良好	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
678	E20・C20・E20 流路2 上層	2827・3107・ 3241・3242	第115図 PL.75	土師器 高環	器高：8.0△ 底径：9.8※	外面：体部下位～脚部上位風化のため調整不明だが、かすかにハケ目が残る。脚部下位ミガキ、底部端部ナデ。 内面：風化しているが、ミガキが残る。脚部上位ケズリ後ナデ。脚部下位ナデ。	密(0.5～10mm程の長石、石英の砂粒を含む)	良好	内外面：淡黄色	裾内面にヘラ記号。
679	B22 流路2 上層	2199	第115図 PL.83	土師器 鼓形器台	器高：4.6△	外面：ナデ。 内面：ナデ。くびれ部分ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
680	B22 流路2 上層	2199	第115図 PL.83	土師器 鼓形器台	器高：4.4△	外面：ヨコナデ。 内面：ケズリ後ミガキ、くびれ部分ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
681	B21 流路2 上層	2175	第115図	土師器 低脚杯	口径：17.4※ 器高：3.7△	外面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ。 内面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ後ナデ、底部指頭圧痕。	密	良好	外面：褐灰色 内面：灰黄色	天神川II期。
682	B22 流路2 下層	2206	第115図 PL.83	土師器 低脚杯	器高：2.3△	外面：ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄色～灰黄色 内面：灰黄色～黄灰色	
683	C21 流路2 II-5層	3056	第115図 PL.83	須恵器 環身	口径：11.4※ 器高：3.8△ 基部径：1.38※ 立ち上がり高：1.8	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰赤色	TK47。

表 39 2区出土土器・土製品観察表(12)

遺物番号	遺構 区層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
684	C19 1-2-II層 C18 流路2	2950-2932	第115図 PL.75	須恵器 坏身	口径:9.8※ 器高:3.5△ 基部径:1.24 立ち上がり高: 1.2	外面:体部上位回転ナデ、下位ヘ ラオコシ後ナデ、板目状圧痕。 内面:体部回転ナデ、底部不定ナ デ。	密	良好	内外面:灰色~青灰色	TK209。
685	B21 流路2 1-2-II層	2150	第115図 PL.75	須恵器 坏	口径:13.1※ 器高:3.65△ 底径:9.4※	外面:回転ヨコナデ、底部糸切り。 内面:回転ヨコナデ。	密	良好	内外面:灰白色	内外面にスス 付着。八峠奈 良後期。
686	SD 5 埋土上層	2639	第121図 PL.71	須恵器 鉢	器高:4.45△	外面:口縁端部ナデ、胴部ハケ目。 内面:ハケ目。	密	良好	外面:灰黄色 内面:浅黄色	
687	F20 SD 5 埋土	2265	第121図 PL.71	須恵器 坏	器高:3.05△ 底径:5.1※	外面:回転ナデ、ヘラ記号。底部 静止糸切り。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:暗紫灰色	
688	E14 土器溜り2	2546	第123図 PL.84	土師質土器 小皿	口径:8.0 器高:2.0	外面:口縁部ヨコナデ、胴部~底 部ナデ、底部指押さえ。 内面:ヨコナデ。	密(1~2mm の砂粒を僅か に含む)	良好	外面:淡黄色、にぶい 黄褐色 内面:淡黄色	
689	E14 土器溜り2	2544	第123図 PL.84	土師質土器 小皿	口径:8.2 器高:1.7	外面:口縁部回転ヨコナデ。胴部 ~底部ナデ、底部指押さえ。 内面:指押さえ後ナデ。	密(0.5~1mm 程の長石、石英 の砂粒を数点含 む)	良好	内外面:灰黄色	完存。
690	E14 土器溜り2	2545	第123図 PL.84	土師質土器 小皿	口径:9.8 器高:1.7	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、 底部指押さえ。 内面:指押さえ後ナデ。	密(0.5~1mm 程の長石の砂粒 を含む)	良好	外面:灰黄色内面:灰 白色	完存。
691	E14 土器溜り2 2-I層	2542	第123図 PL.84	土師質土器 小皿	口径:8.1 器高:1.5 底径:7.0	外面:口縁部~体部上位回転ナデ、 体部下半~底部ナデ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
692	C17 2-I層	2552	第126図 PL.86	縄文土器 深鉢	器高:3.9△	外面:押型文(ボジ楕円紋)。 内面:ナデ。	密(1~2mm 程の長石、石英 を含む)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:橙色	
693	E18 2-I層	2464	第126図 PL.86	縄文土器 浅鉢?	器高:3.5△	外面:沈線。 内面:ナデ。	密(1mm以下 の長石、石英を 多く含む)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黄色	
694	B18 2-I層	2668	第126図 PL.86	縄文土器 浅鉢	器高:2.7△	外面:ケズリ後ミガキか。 内面:ナデ。	密(0.01mmの 長石を含む)	良好	外面:にぶい黄褐色~灰 黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
695	B21 1-2-II層	2209	第126図 PL.86	縄文土器 浅鉢?	器高:5.1△	外面:口縁部刻み目。ヨコナデ。 内面:口縁部より少し下がった 位置に1条の沈線。ヨコナデ。	密	良好	外面:灰黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
696	B18 土器集中?	2665	第126図 PL.86	縄文土器 浅鉢	器高:3.8△	外面:ヨコミガキ。 内面:ヨコナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
697	D18 2-I層	2504	第126図 PL.86	縄文土器 深鉢	器高:4.0△	外面:口縁端部ナデ、端部より少 し下がった位置に貼付刻目突 帯。胴部条痕後ナデ。 内面:ケズリ後ナデ。	密(1mmの砂 粒を含む)	良好	内外面:明褐色	
698	B18 2-I層	2703	第126図 PL.86	縄文土器 深鉢	器高:6.2△	外面:条痕。 内面:条痕後ナデか。	密(1mm程の 砂粒を含む)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
699	B18 2-I層	2679	第126図 PL.86	縄文土器 深鉢	器高:4.6△	外面:条痕。 内面:条痕後ナデ。	密(1mm以下 の長石、石英を 多く含む)	良好	外面:黒色 内面:灰黄褐色	
700	C19 2-I層	2693	第126図 PL.86	縄文土器 浅鉢?	器高:6.0△	外面:ナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~2mm 程の長石、石英 の砂粒を含む)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
701	D20 清掃中	3111	第126図 PL.86	弥生土器 甕	口径:19.6※ 器高:4.9△	外面:口縁部~頸部ヨコナデ。頸 部~胴部タテハケ。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴 部ハケ後横方向のミガキ。	密	良好	内外面:暗褐~浅黄色	
702	E19 2-I層	2466	第126図 PL.86	弥生土器 甕	器高:1.85△	外面:口縁端部ナデ。口縁部ハケ 目後ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。口縁部 横方向のハケ目後ナデか。	密	良好	外面:にぶい黄褐色~橙 色 内面:橙色	
703	F17 2-I層	2275	第126図 PL.86	弥生土器 甕	器高:3.8△	外面:回転ナデ。指押さえ。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰~灰白色 内面:灰白~オリーブ 黒色	
704	D18 2-I層	2484	第126図 PL.86	弥生土器 甕	器高:2.7△	外面:口縁部に3条の凹線。頸部 ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
705	D18 2-I層	2484	第126図 PL.86	弥生土器 甕	器高:2.35△	外面:口縁部3条の沈線。頸部貼 付刻目突帯。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色~灰 黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
706	E18 2-I層	2414	第126図 PL.86	弥生土器 甕	口径:18.6※ 器高:2.55△ 内面:ナデ。	外面:4条の凹線。頸部に指頭圧 痕貼付突帯か。口縁部~頸部 ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色~褐 灰色 内面:にぶい黄褐色	
707	D14 2-I層	2501	第126図 PL.86	弥生土器 壺	口径:8.9※ 器高:5.35△	外面:5条の沈線のちナデ。 内面:ヨコナデ。	密(1mm前後 の砂粒を含む)	良好	外面:灰黄色~黄灰色 内面:灰黄色~黒褐色	中期の長頸 壺?
708	B19 2-I層	2051	第126図 PL.86	弥生土器 底部	器高:4.5△ 底径:6.7	外面:調整不明。 内面:指押さえ。	密(3mm程の 石英の砂粒を 多く含む)	良好	外面:橙~浅黄色 内面:にぶい黄褐色	
709	E20 2-I層	2444	第126図 PL.85	弥生土器 甕	器高:5.7△ 底径:5.2※	外面:胴部下半ヘラミガキ。底部 ナデ。 内面:胴部下半~底部ヘラケズリ 後ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黄灰色	
710	E13 2-I層	2411	第126図 PL.86	土師器 甕	口径:17.4※ 器高:5.3△	外面:ヨコナデ。 内面:ヨコナデ。	密(雲母を多く 含む)	良好	内外面:淡黄色	天神川II期。
711	D19 2-I層	2485	第126図 PL.86	土師器 甕	口径:14.2※ 器高:5.5△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁~頸部ヨコナデ。胴部 ヘラケズリ。	密(1mm程度 の砂粒を含む)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:浅黄褐色	天神川II期。
712	D13 2-I層	2594	第126図 PL.85	土師器 壺	口径:22.8※ 器高:9.2△	外面:口縁部に2条の凹線。口縁 部ヨコナデ。頸部上位ナデ、 下位ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部摩耗、 頸部下位ヘラケズリ。	密(1mm程の 砂粒を多く含 む)	良好	外面:淡黄色 内面:にぶい黄褐色	天神川II期。

第4章 2区の調査成果

表40 2区出土土器・土製品観察表(13)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
713	E19 2-I層	2478	第126図 PL.86	弥生土器 高環	口径：14.2 ※ 器高：9.1 △	外面：坏部ハケ目、脚部上位ハケ目、中位ケズリ後ナデ、下位ミガキ。 内面：坏部上位ヘラミガキ、下位一部ハケ目。脚部ケズリ後ナデ、しぼり。	密 (1~2mm程の長石を少し含む)	良好	内外面：橙色	
714	E19 2-I層	2418-2466	第126図 PL.85	土師器 高環脚部	器高：6.8 △	外面：ナデ。脚部上位に坏剥離痕、中位爪の痕?、下位ヘラミガキ。 内面：脚部上位に坏剥離痕、中位ヘラケズリ後ナデ、下位ヨコナデ。	密 (1mm程の砂粒を僅かに含む)	良好	外面：にぶい黄橙~褐色 内面：橙色	
715	E19トレンチ4 2-I層	2094	第126図 PL.86	土師器 高環脚部	器高：2.2 △ 底径：8.6 ※	外面：ナデ。 内面：ケズリ。端部~脚部下位ナデ。	密 (0.5~2mm程の長石、石英の砂粒をまばらに含む)	良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	
716	B17トレンチ 2-I層	2678	第126図 PL.86	土師器 甕	器高：6.2 △	外面：ナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ後ナデ。	密 (微砂粒を多く含む)	良好	外面：オリブ黒~にぶい黄橙色 内面：黒褐~淡黄色	
717	E19 2-I層	2456	第126図 PL.86	土師器 甕	器高：5.7 △	外面：口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ナデか。赤色塗彩。 内面：口縁部~頸部上位ヨコナデ、赤色塗彩。頸部下位~胴部左方向のヘラケズリ後ハケ目またはナデ。	密 (1~1.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面：にぶい黄橙~明赤褐色	風化のため、塗彩不鮮明な部分あり。
718	C20 2-I層	2752	第126図 PL.86	土師器 甕	口径：23.0 ※ 器高：2.8 △	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良好	外面：黒色 内面：にぶい黄橙色	外面スス付着。
719	C16 2-I層	2627-2634	第126図 PL.86	土師器 甕	口径：26.0 ※ 器高：3.7 △	外面：ナデ。 内面：口縁部ヨコ方向のナデ。胴部ナデ。	密	良好	内外面：橙色	
720	B19 2-I層	2060	第126図 PL.86	土師器 甕	器高：2.8 △	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄橙色	中世か。外面スス付着。
721	D15 2-I層	2511	第126図 PL.86	土師器 甕	器高：4.2 △	外面：ナデ。口縁部に調整時にできたと思われる浅い凹線が1条。一部ハケ目。 内面：口縁部~頸部ヨコナデ。頸部~胴部ナデ。	密	良好	内外面：褐色	
722	D20 2-I層	2590	第126図 PL.86	土師器 皿	口径：12.5 ※ 器高：2.3 △	外面：口縁部ヨコナデ。体部工具・指押さえ後ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：淡黄色	
723	E14 2-I層	2412	第126図 PL.86	土師器 坏	口径：13.0 ※ 器高：4.6 △	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密 (0.5~1mm程の長石の砂粒を数点含む)	良好	外面：橙~にぶい褐色 内面：橙色	外面口縁部、内面体部下位にスス付着。
724	C16 2-I層	2619-2643	第126図 PL.86	土師器 坏	口径：11.5 ※ 器高：3.3 △ 底径：5.7 ※	外面：ヨコナデ。底面回転糸切り後ナデ。 内面：ヨコナデ。	密 (0.5~2mm大の砂粒を含む)	良好	内外面：浅黄橙色	
725	D14 2-I層	2501	第126図 PL.86	土師器 坏	器高：2.3 △ 底径：5.6 ※	外面：回転ナデ。底面回転糸切りのちナデ。 内面：回転ナデ。	密 (1mm前後の砂粒を含む)	良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	
726	C14 2-I層	2562	第126図 PL.86	土師器 坏	器高：1.1 △ 底径：3.1 ※	外面：ヨコナデ。底面回転糸切り後ナデ。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：にぶい橙色	
727	C20 2-I層	2179	第126図 PL.86	土師器 坏	器高：1.8 △ 底径：6.1 ※	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	密	良好	外面：浅黄色 内面：黒褐色	内外面スス付着。
728	F18 2-I層	2252	第126図 PL.85	土師器 手捏ね土器	口径：7.3 器高：3.9 △	外面：口縁部指押さえ。体部~底部ナデ。 内面：口縁部ナデ。体部~底部指押さえ。	密	良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙~黄褐色	
729	E14 2-I層	2402	第126図 PL.93	土製品 土玉	最大長：3.0 最大幅：3.1 最大厚：3.0 重量：18.5g	手捏ね成形。	密	良好	灰黄色	
730	D13 2-I層	2526	第126図 PL.93	土製品 土玉	最大長：3.1 最大幅：2.9 最大厚：2.9 重量：22.0g	手捏ね成形。	密	良好	灰黄色	
731	C17 2-I層	2628	第126図 PL.93	土製品 土玉	最大長：2.3 最大幅：3.1 最大厚：1.6 重量：16.5g	手捏ね成形後ナデ。小さな工具痕あり。	やや密	良好	灰黄色	
732	E18 2-I層	2386	第126図 PL.93	土製品 土錘	最大長：4.6 最大幅：1.2 最大厚：1.05 重量：-	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙色	
733	C14 トレンチ7 2-I層	2105	第126図 PL.93	土製品 土錘	最大長：6.1 最大幅：1.8 最大厚：1.6 重量：20.0	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙色	孔径4.6mm。
734	F17 2-I層	2283	第127図 PL.87	須恵器 坏身	器高：2.0 △	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：褐灰色	TK217。
735	C20 2-I層	2091	第127図 PL.87	須恵器 坏蓋	口径：19.2 ※ 器高：3.95 △	外面：器体上位左方向の回転ヘラケズリ、下位回転ヨコナデ。 内面：器体上位回転ヨコナデのち不定方向のナデ。下位回転ヨコナデ。	密 (1~2mm前後の砂粒を含む)	良好	内外面：灰色	つまみ欠損。外面に焼成時重なり部分が認められる。
736	C20 2-I層	2091	第127図 PL.87	須恵器 坏蓋	口縁高：0.4 器高：1.8 △ 稜径：16.4 ※	外面：頂部つまみ痕。器体上位回転ヘラケズリ。下位回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密 (2mmの砂粒を僅かに含む)	良好	内外面：灰白色	外面に焼成時重なり部分が認められる。
737	C18 2-I層	2083	第127図 PL.87	須恵器 高台坏	口径：11.4 ※ 器高：4.1 △ 底径：8.2 ※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：黄灰色	
738	D14 2-I層	2447	第127図 PL.87	須恵器 高台坏	器高：3.8 △	外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。高台剥離痕あり。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
739	E14 2-I層	2401	第127図 PL.87	須恵器 高台坏	器高：1.8 △ 底径：10.8 ※	外面：回転ナデ。高台部回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰白色	
740	C19 2-I層	2682-2693	第127図 PL.87	須恵器 高台付皿	口径：14.2 ※ 器高：2.5 △ 底径：9.5 ※	外面：回転ヨコナデ。底部回転ヘラケズリ、高台貼付。 内面：回転ヨコナデ。底部は研磨される。	密 (1mm前後の砂粒を含む)	良好	内外面：灰色	転用硯?

表 41 2区出土土器・土製品観察表(14)

遺物番号	遺構 層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
741	D14 2-I層	2553	第127図 PL.87	須恵器 高坏	器高: 1.7△ 底径: 10.2※	外面: ヨコナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	
742	E14・F16 2-I層・造成土	2385・2361		須恵器 壺	器高: 9.6△	外面: 回転ヨコナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	外面: 青灰色 内面: 明青灰色	
743	C14 2-I層	2550	第127図 PL.87	須恵器 壺	器高: 3.5△	外面: 口縁部ナデ。口縁部に波 状文。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 暗青灰色	
744	D14 2-I層	2518	第127図 PL.87	須恵器 脚付壺	器高: 5.4△	外面: 体部下位平行タタキ。底部 ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	断面に粘土つ なぎ痕。
745	E19 2-I層	2442	第127図 PL.87	須恵器 転用硯	器高: 1.5△ 底径: 8.0※	外面: 高台部ナデ。底部回転ナデ。 内面: 工具痕または擦痕。	密	良好	内外面: 灰色	
746	E15 2-I層	2376	第127図 PL.87	須恵器 小皿	口径: 3.0※ 器高: 1.0△ 底径: 2.0※	外面: ヨコナデ。底部回転糸切り 後ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰色	内外面に自然 釉付着。
747	D16 2-I層	2490	第127図 PL.88	瓦質土器 羽釜	口径: 22.4※ 器高: 6.2△	外面: ヨコナデ。鏝貼付。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 黒～灰白色	
748	B15 2-I層	2640	第127図 PL.88	瓦質土器 羽釜	器高: 3.4△	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。指押さえ。	密	良好	内外面: 灰色	
749	F15 2-I層	2281	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	器高: 6.9△	外面: ヨコナデ。鏝貼付。 内面: ヨコナデ?	密(1mmの長 石を多く含む)	良好	内外面: 褐灰～黄灰色	
750	F15 2-I層	2281	第127図 PL.88	瓦質土器 羽釜	口径: 15.2※ 器高: 5.9△	外面: 口縁部～鏝上ヨコナデ。鏝 下～胴部指押さえ、ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 褐灰色	
751	B19 2-I層	2060	第127図 PL.88	瓦質土器 羽釜	口径: 18.8※ 器高: 3.5△	外面: 口縁部上位ヨコナデ。口縁 部下位～胴部上位ナデ。 内面: 口縁部上位ヨコナデ。口縁 部下位～胴部上位ナデ。	密	良好	外面: におい黄橙～褐色 内面: におい黄褐色	
752	F17 2-I層	2249	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	口径: 21.2※ 器高: 9.0△	外面: ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: 黒褐色 内面: 黒褐色～におい 黄褐色	外面全体、内 面口縁部にス ス付着。
753	D19 2-I層	2582	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	器高: 5.2△	外面: 口縁部ヨコナデ。体部強い ヨコナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヨコ ハケ。	密	良好	内外面: 黒～灰白色	
754	E19 2-I層	2456	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	器高: 2.2△	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密(1mm程の 石英を僅かに 含む)	良好	内外面: 灰白色	
755	C16 2-I層	2619	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	口径: 22.5※ 器高: 3.3△	外面: 口縁部ヨコナデ。指押さえ。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ハケ 目。	密(0.5～1mm 程の長石、石英 の砂粒をわずか に含む)	良好	外面: におい黄褐色 内面: 灰黄色	
756	B19 2-I層	2060	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	口径: 15.2※ 器高: 3.4△	外面: ヨコナデ。口縁部ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰黄色	
757	E19 2-I層	2466	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	器高: 2.25△	外面: 調整不明。 内面: ハケ目。	密	良好	外面: におい黄橙～黒 褐色 内面: 灰黄褐色	
758	D20 2-I層	2721	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋?	器高: 2.3△	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 黒色 内面: 浅黄色	
759	B16 2-I層	2631	第127図 PL.88	瓦質土器 鍋	口径: 23.6※ 器高: 3.0△	外面: 口縁部ナデ、屈曲部指押さ え後ナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ハケ 目。	密	良好	内外面: 浅黄色	
760	D14 2-I層	2581	第127図 PL.88	土師質土器 坏	口径: 11.6※ 器高: 2.6△ 底径: 5.0※	外面: ヨコナデ。底部ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 浅黄色	
761	B16 2-I層	2631	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 8.6※ 器高: 1.0△ 底径: 4.0※	外面: ヨコナデ。底部不定方向の ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 黄色	
762	C15 2-I層	2633	第127図 PL.88	土師質土器 小皿?	口径: 12△ 底径: 6.7※	外面: ナデ。底部回転糸切り。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: におい黄褐色	底部回転糸切 り後板に置い た痕あり。
763	D21 2-I層	2711	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 9.2※ 器高: 1.4△ 底径: 7.0※	外面: ナデ。底部ナデ。 内面: ナデ。	やや密	良好	内外面: におい橙色	
764	C17 2-I層	2635	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 7.2※ 器高: 2.5△ 底径: 2.5※	外面: ヨコナデ。底部回転糸切り 後ナデ。 内面: ヨコナデ。	密(砂粒多い)	良好	内外面: 浅黄褐色	
765	D16 2-I層	2449	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 6.6※ 器高: 0.9△ 底径: 5.0※	外面: ナデ。底部ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	
766	A20 2-I層	2043	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 7.0※ 器高: 1.2△ 底径: 5.6※	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 浅黄色	
767	F17 2-I層	2249	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 3.8※ 器高: 2.7△ 底径: 2.6※	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密(砂粒多く 含む)	良好	内外面: 浅黄褐色	
768	C17 2-I層	2628	第127図 PL.88	土師質土器 小皿	口径: 7.4※ 器高: 1.9△ 底径: 6.2※	外面: ナデ。底部ナデか? 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
769	C14 2-I層	2550	第127図 PL.88	土師質土器 皿	口径: 9.4※ 器高: 1.9△ 底径: 3.0※	外面: 回転ナデ。底部糸切り後ナ デ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄色	
770	C20 2-I層	2752	第127図 PL.88	土師質土器 皿	口径: 11.2※ 器高: 1.65△ 底径: 6.0※	外面: 不定方向のナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 暗褐色	
771	D13 2-I層	2565	第127図 PL.88	土師質土器 皿	口径: 1.6△ 底径: 6.6※	外面: ヨコナデ。底部回転糸切り 後ナデ。 内面: ナデか。摩滅のため不明。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	
772	F17 2-I層	2249	第127図 PL.88	土師質土器 皿?	口径: 1.5△ 底径: 6.9※	外面: ヨコナデ。底部糸切り後板 目痕。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰黄～黄灰色	
773	B22 2-I層	2162	第127図 PL.88	土師質土器 柱状高台坏	口径: 1.6△ 底径: 5.7※	外面: ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面: 欠損。	密(1mm前後 の砂粒を含む)	不良	内外面: 灰白色	内面欠損。

第4章 2区の調査成果

表42 2区出土土器・土製品観察表(15)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
774	E19 2-I層	2407	第128図 PL.89	備前焼 播鉢	器高: 4.4△	外面: ナデ。 内面: オロシ目。	密	良好	外面: 灰色 内面: 褐灰色	備前IV A 期。
775	D14 2-I層	2518	第128図 PL.89	備前焼 播鉢	口径: 16.6※ 器高: 5.4△	外面: ナデ。 内面: オロシ目。	密 (1mm 以下の長石含む)	良好	外面: 灰褐〜にぶい赤褐色 内面: 灰褐色	備前IV A 期。
776	E14 2-I層	2388	第128図 PL.89	備前焼陶器 播鉢	器高: 4.0△	外面: ヨコナデ。一部指押さえ。 内面: ヨコナデ。一部にオロシ目。	密	良好	外面: にぶい橙〜暗褐色 内面: 灰赤〜暗褐色	備前IV B 期。
777	F15 2-I層	2281	第128図 PL.89	備前焼陶器 播鉢	器高: 4.0△	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ、一部オロシ目あり。	やや密	良好	内外面: 暗褐色	備前IV B 期。
778	C21 2-I層	2074	第128図 PL.89	備前焼陶器 播鉢	器高: 5.0△	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。一部ヨコナデ後オロシ目。	密	良好	内外面: 灰色	
779	D15 2-I層	2519	第128図 PL.89	備前焼陶器 播鉢	器高: 6.0△	外面: 口縁部ナデ、体部回転ナデ。 内面: 指押さえ、オロシ目。	密	良好	外面: にぶい赤褐〜褐灰色 内面: 灰〜灰赤色	備前IV - B 期。
780	C21 2-I層	2062	第128図 PL.89	備前焼陶器 播鉢	器高: 5.65△	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ後オロシ目。	密 (長石含む)	良好	外面: 赤褐色 内面: 灰白色	よく使用されており、内面が摩耗している。
781	C21 2-I層	2084	第128図 PL.89	陶器 播鉢	器高: 3.6△	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 黄灰色 内面: 暗灰黄色	外面スス付着。
782	C16 2-I層	2619	第128図 PL.89	須佐焼 播鉢	器高: 4.8△	外面: ヨコナデ。口縁端部は粘土を折り曲げ肥厚帯をつくる。 内面: ヨコナデ後オロシ目。	密	良好	外面: 灰オリーブ色 内面: 暗灰黄色	
783	E19 2-I層	2466	第128図 PL.89	越前焼 鉢	器高: 4.4△	外面: ナデ。口縁端部に1条の沈線あり。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	
784	F16 2-I層	2261	第128図 PL.89	勝間田焼 甕	器高: 4.9△	外面: 格子目タタキ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい赤褐〜褐灰色 内面: 褐灰色	外面にスス付着。内面一部風化、剥離している。
785	C18 2-I層	2658	第128図 PL.89	勝間田焼 甕	器高: 7.3△	外面: ハケ目後ナデ。 内面: ハケ目。	密	良好	内外面: 黄灰色	口縁部に自然釉。
786	F16 2-I層	2271	第128図 PL.89	瀬戸美濃焼 平碗	器高: 3.1△	外面: うすく施釉。 内面: うすく施釉。	密	良好	外面: オリーブ黄色 内面: 灰白〜オリーブ黄色 胎土: 灰色	
787	C14 トレンチ7 2-I層	2105	第128図 PL.89	瀬戸美濃焼 碗	器高: 2.0△ 底径: 4.2※	外面: 体部下位ナデ、高台ヨコナデ。 体部下位に1条の凹線。施釉。 内面: 施釉。	密	良好	内外面: 灰黄色	高台部粘土つなぎ痕あり。
788	D14 2-I層	2433	第128図 PL.89	瀬戸美濃焼 天目茶碗	器高: 1.9△ 底径: 3.7※	外面: 高台〜体部下位ヨコナデ、 底部回転ナデ。体部上位施釉、 体部下位〜底部露胎。 内面: 施釉。	密	良好	施釉: 灰褐色 胎土: 灰色	鉄釉。
789	B16 2-I層	2631	第128図 PL.89	瀬戸美濃焼 天目茶碗	器高: 1.7△	内外面: 施釉。	密	良好	内外面: 茶〜黒色	
790	D21 2-I層	2756	第128図 PL.89	黒色土器 環	器高: 4.0△ 底径: 2.4※	外面: 回転ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面: 回転ヨコナデ。	密	良好	外面: 黄橙色 内面: 暗褐色	
791	B21 2-I層	2049	第128図 PL.89	瓦質土器 鉢?	器高: 4.1△	外面: ヨコナデ。口縁端部黒色化。 内面: ヨコナデ。	密?	良好	内外面: 灰白〜黒色	
792	F16 2-I層	2274	第128図 PL.89	青磁 碗	口径: 14.6※ 器高: 4.5△	内外面: 施釉	密	良好	釉: 灰オリーブ色 胎土: 灰白色	
793	F15 2-I層	2281	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 3.0△	外面: 施釉。紋様あり。 内面: 施釉。	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
794	D20 2-I層	2721	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 3.5△	外面: 施釉。蓮弁文。 内面: 施釉。	密 (1mm 程の砂粒を含む)	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
795	E19 2-I層	2466	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 1.4△	外面: 施釉。 内面: 施釉。	密	良好	釉: 明オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
796	C15 2-I層	2633	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 2.9△	内外面: 施釉。	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
797	E13 2-I層	2388	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 3.0△	内外面: 施釉	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
798	E15 2-I層	2376	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 3.0△	外面: 施釉。 内面: 施釉。	密	良好	釉: 暗オリーブ色 胎土: 灰白色	
799	C14 2-I層	2562	第128図	青磁 碗	器高: 3.5△	外面: 施釉。 内面: 施釉。	密 (1mm 程の砂粒を含む)	良好	釉: 明緑灰色 胎土: 灰白色	
800	C16 2-I層	2619	第128図 PL.89	青磁 碗	口径: 13.6※ 器高: 2.6△	内外面: 施釉	密	良好	釉: 灰オリーブ色 胎土: 灰白色	
801	F15 2-I層	2273	第128図 PL.89	青磁 碗	器高: 2.2△ 底径: 5.6※	外面: 施釉。 内面: 施釉。花文あり。	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰白色	
802	E19 2-I層	2442	第128図 PL.89	白磁 高台付碗	器高: 2.8△ 底径: 4.3※	外面: うすく施釉。大きめの貫入。 底面露胎。 内面: うすく施釉。細い貫入。	密	良好	釉: 明緑灰色 胎土: 灰白色	
803	E21 トレンチ11 2-I層	2279	第128図 PL.89	白磁 菊小皿	口径: 5.0※ 器高: 1.5△ 底径: 1.3※	外面: 線条文後透明釉。 内面: 回転ナデ後透明釉か。	密	良好	釉: 灰白色 胎土: 灰白色	
804	F14 2-I層	2290	第128図 PL.89	白磁 菊小皿	口径: 6.0※ 器高: 1.3△	外面: 施文後施釉。底面露胎。 内面: 施釉。	密	良好	釉: 灰白色 胎土: 灰白色	
805	C13 2-I層	2535	第128図 PL.89	施釉陶器 平碗	口径: 12.6 器高: 3.0△ 底径: 6.0	外面: 施釉。高台下部露胎。 内面: 施釉。	密 (1mm 程の砂粒を含む)	良好	内外面: 灰オリーブ色 胎土: にぶい赤褐色	
806	F14 2-I層	2290	第128図	施釉陶器 高台付碗	器高: 2.9△ 底径: 4.8※	外面: 施釉。貫入がみられる。一部露胎。 内面: 施釉。貫入がみられる。	密	良好	内外面: 灰白色 胎土: 灰白色	
807	E16 2-I層	2041	第128図	施釉陶器 高台付碗	器高: 1.65△ 底径: 3.8※	外面: 施釉、露胎。 内面: 施釉。	密	良好	釉: 灰オリーブ色 胎土: 灰〜暗赤褐色	
808	E15 2-I層	2390	第128図 PL.89	陶磁器 皿	口径: 7.4※ 器高: 1.8△ 底径: 4.0	内外面: 施釉 底面: 砂目露胎	密 (1mm 程の砂粒を含む)	良好	内外面: 暗赤灰色	
809	D20 2-II-5層	3057	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 3.9△	外面: 2条の凹線、RL 単節縄文(磨消縄文)。 内面: ナデ。	やや密	良好	内外面: 灰褐色	

表 43 2区出土土器・土製品観察表(16)

遺物番号	遺地・構区・層位名	取り上げ番号	挿図 PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
810	E20 2-II-4層	2884	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 3.0△	外面: 口縁部より少し下がった位置に1条の沈線文、口縁部～沈線間にRL単節縄文(磨消縄文)。内面: タテ方向のナデ。	密(1mm程の砂粒を多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色～灰黄褐色	
811	C18 2-II層	2978	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢	器高: 4.4△	外面: 口縁部より少し下がった位置に2条の沈線、その間にRL単節縄文(磨消縄文)。内面: ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
812	D18 2-II-1層	2831	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 4.1△	外面: 隆帯ナデ。沈線。縄文。内面: 指押さえ。	密(1～3mmの砂粒を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	布勢式。
813	B15 2-II-1層	2853	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢	器高: 4.75△	外面: 口縁部に縄文。体部上位にミガキ。内面: ナデ。	密(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	外面: にぶい橙色 内面: にぶい黄褐色	
814	F16 2-II-2層	2334	第131図 PL.90	縄文土器 鉢	器高: 3.9△	外面: 口縁部より少し下がった位置に隆帯。口縁部～隆帯間に沈線。内面: 条痕状のケズリ。	密(石英、長石を多く含む)	良好	内外面: にぶい浅黄色	縁帯文。
815	C18 2-II層	2660	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢	器高: 5.5△	外面: 口縁部ナデ、3条の凹線。胴部ケズリ。内面: 口縁部ナデ、1条の凹線。胴部ナデ、一部ミガキ。	密(石英・長石を含む)	良好	内外面: 浅黄色	
816	C18 2-II層	2978	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 5.7△	外面: 胴部上位に3条の凹線、うち下位の1条には押し刺突。胴部ナデ。内面: 胴部上位ナデ。下位ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	縄文晩期、滋賀里I?
817	C18 2-II層	2978	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 3.2△	外面: ナデ。内面: 口縁部に近接する位置に刺突文。ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	縄文晩期 III期?
818	D18 2-II-1層	2779	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢か浅鉢	器高: 3.9△	外面: 口縁部刻目。口縁部粗いナデ(擦痕)。内面: ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色～褐灰色 内面: 灰黄褐色～褐灰色	
819	B18 2-II層	2796	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢	器高: 6.3△	外面: 口縁部～胴部条痕。内湾部指押さえ。内面: ナデ。	密	良好	外面: オリーブ黒～にぶい黄褐色 内面: 浅黄～黒褐色	内面スス付着、粘土つなぎ痕あり。
820	B18 2-II層	2796	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	口径: 35.4※ 器高: 9.7△	外面: 口縁部刻目。口縁部～胴部ケズリ。内面: ナデ。	密(0.5～4mmの砂粒を多く含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: 灰白色	
821	B18,19 2-II層	2977	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 11.3△	外面: 条痕。内面: 条痕。	密	良好	外面: 灰黄色 内面: 灰白色	
822	B18 2-II層中	2662	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	口径: 28.8※ 器高: 13.9△	外面: 粗いナデ(擦痕)。内面: ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の長石、石英を多く含む)	良好	外面: にぶい橙～褐灰色 内面: 浅黄褐色～褐色	外面の一部にスス付着。内面に粘土つなぎ痕。
823	B18 2-II層	2803	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢か	器高: 2.5△	外面: 条痕。内面: ナデ。	密(0.5mm程の砂粒を多く含む)	良好	外面: 褐灰(10YR4/1) 内面: 黄褐(10YR5/6)～褐灰(10YR5/1)	
824	B21 2-II層	2193	第131図 PL.90	縄文土器 浅鉢	口径: 11.4※ 器高: 6.4△	外面: ミガキ。内面: ミガキ。	密(1mm程の石英、長石を含む)	良好	外面: 黒色 内面: 灰黄褐色	
825	F17 2-II-2層	2363	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	口径: 30.0※ 器高: 15.3△ 最大径: 30.0※	外面: 口縁部より垂下するかたちで貼付刻目突帯。口縁部ヨコナデ。胴部条痕及びケズリがはいる。内面: 横方向を主体として条痕及びナデ。	やや密	良好	内外面: 浅黄～にぶい黄色	
826	B19・20 2-II層 黒色土	2004	第131図	縄文土器 深鉢	器高: 3.4△	外面: 口縁部より少し下に刻目突帯。内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
827	C21 2-II-5層	3049	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 6.4△	外面: 口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部ナデ、胴部上位ケズリ後ナデ。内面: 条痕後ナデ。	密(1～2mm大の砂粒を含む)	良好	内外面: 浅黄色	外面に黒斑あり。
828	C18 2-II層	2978	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 4.4△	外面: 口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部～胴部ナデ。内面: ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
829	D18 2-II-1層	2831	第131図 PL.90	縄文土器 深鉢	器高: 4.3△	外面: 口縁部より垂下するかたちで貼付刻目突帯。口縁部～帯上ナデ。胴部上位粗いナデ。内面: 横方向のナデ。	密(1mm程の長石の砂粒を少量含む)	良好	外面: にぶい黄褐色～にぶい褐色 内面: にぶい黄褐色～灰黄色	
830	D18 2-II-1層	2831	第131図	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△ 底径: 8.0※	外面: 粗いナデ、底面条痕。内面: ナデ。	やや密(2～3mmの砂粒を多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色～褐色 内面: にぶい黄褐色	
831	D18 2-II-1層	2831	第131図	縄文土器 深鉢	器高: 2.1△ 底径: 6.2※	外面: ナデ。内面: ナデ。	密(1～4mmの石英を僅かに含む)	良好	外面: 灰黄色 内面: 浅黄色	
832	B21 2-II層	2011	第132図 PL.91	弥生土器 甕	器高: 5.0△	外面: 口縁部下端に刻目。胴部上位に2条の沈線。口縁部～胴部ハケ目後ナデ。内面: ハケ目後ナデ。	やや密	良好	内外面: にぶい橙色	I-1様式。
833	F18 2-II層	2286	第132図 PL.91	弥生土器 甕	器高: 5.3△	外面: 口縁部下端に刻目。口縁部～胴部ハケ目。胴部上位に2条の凹線。内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	I-2様式。
834	D18 2-II-1層中	2779	第132図 PL.91	弥生土器 甕	器高: 6.1△	外面: 口縁部下端刻目。口縁部～胴部上位ナデか。内面: ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 浅黄色	内外面風化が著しい。
835	D20 2-II-5層	3057	第132図 PL.91	弥生土器 壺	器高: 3.2△	外面: ナデ。内面: 口縁部～頸部ナデ。胴部上位ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄色	弥生中期。補修孔あり。

第4章 2区の調査成果

表44 2区出土土器・土製品観察表(17)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
836	C21 2-II-5層	3049	第132図 PL.91	弥生土器 甕	口径: 21.6 ※ 器高: 3.75 △	外面: 口縁端部下端刻目。口縁部 ~頸部ヨコナデ。頸部貼付刻 目突帯。胴部ナデ。 内面: 口縁部上半ヨコナデ。口縁 部下半~胴部上位ナデ。	密 (1~2mm 程の砂粒を含 む)	良好	内外面: 浅黄橙~灰黄 褐色	口縁端部にス ス附着。Ⅲ- 1様式。
837	E21 2-II-5層	3058	第132図 PL.91	弥生土器 甕	口径: 18.0 ※ 器高: 6.0 △	外面: 口縁部に8条の凹線。頸部 ナデ。 内面: 口縁部~頸部上半ナデ。頸 部下半ケズリ。	密 (1mm程の 砂粒を多く含 む)	良好	内外面: 灰白 (10YR8/2) ~褐灰色 (10YR5/)	内面風化により 調整不明瞭。 V-3様式。
838	B20.21 2-II層	2133	第132図 PL.91	弥生土器 鉢	器高: 3.9 △	外面: ミガキ。一部ハケ目後ミガキ。 内面: ミガキ。	密	良好	内外面: 明赤褐色	内外面赤色塗 彩。
839	D20 2-II-5層	3057	第132図 PL.91	土師器 甕	口径: 17.8 ※ 器高: 6.2 △	外面: ヨコナデ。一部ハケの痕跡 あり。 内面: 口縁部~頸部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。	密	良好	内外面: にぶい黄橙色	天神川I期。
840	C21 2-II-5層	3056	第132図	土師器 甕	器高: 5.5 △	外面: ヨコナデ。胴部上位に4条 の凹線 (刻目あり)。 内面: 口縁部ナデ。胴部上位ケズリ。	密	良好	外面: 淡黄色 内面: にぶい黄色	外面にスス付 着。天神川I 期。
841	D20 2-II-5層	3057	第132図	土師器 甕	口径: 16.2 ※ 器高: 4.3 △	外面: ヨコナデ。 内面: 口縁部~頸部ナデ。胴部ケ ズリ。	密	良好	外面: 黒褐色 内面: にぶい黄橙色	外面にスス付 着。天神川I 期。
842	B22 2-II層	2198	第132図 PL.91	土師器 甕	口径: 16.5 ※ 器高: 6.1 △	外面: 口縁部回転ナデ。頸部ナデ。 胴部ケズリ。指押さえ。 内面: 口縁部~頸部回転ナデ。胴 部ハケ目。	密 (3mm程の 長石と石英の 砂粒を僅かに 含む)	良好	外面: にぶい黄橙~灰 黄褐色 内面: にぶい黄橙~灰 黄褐色	天神川II期。
843	D20 2-II-5層	3057	第132図	土師器 甕	口径: 13.6 ※ 器高: 5.0 △	外面: ヨコナデ。 内面: 口縁部~頸部ヨコナデ。胴 部上位ケズリ。	密	良好	内外面: 灰黄色	天神川II期。
844	C22 2-II層	2200	第132図	土師器 甕	口径: 15.6 ※ 器高: 5.1 △	外面: ナデ。 内面: 口縁部~頸部ナデ。胴部ケ ズリ。	密	良好	外面: にぶい黄橙色~ 黒色 内面: 灰黄褐色	天神川II期。
845	C21 1-2-II層	2177	第132図 PL.91	土師器 壺	口径: 24.4 ※ 器高: 4.2 △	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密 (0.5~1mm 程の長石の砂粒 を含む)	良好	外面: 灰黄~浅黄色 内面: 灰黄色	
846	C22 2-II層	2200	第132図 PL.91	土師器 鼓形器台	器高: 7.1 △	外面: ヨコナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸 部低位~胴部左方向のケズリ。	密 (1mm前後 の砂粒を含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
847	C21 2-II-5層	3049	第132図 PL.91	土師器 小型器台	器高: 2.2 △	外面: 口縁部~頸部ヨコナデ。 内面: 口縁部ハケ目後ナデ。	密 (1mm前後 の砂粒を含む)	良好	外面: 橙~にぶい褐色 内面: 橙~褐色	
848	C21 2-II層	2177	第132図 PL.91	土師器 低脚杯	器高: 2.0 △ 底径: 4.4 ※	外面: ヘラミガキ。湾曲部ヨコナ デ。 内面: ナデ。脚部ヨコナデ。	密 (1mm程の 砂粒を僅かに 含む)	良好	外面: にぶい黄橙色 内面: にぶい黄橙色~ 褐色	内面赤色塗 彩。
849	E20 2-II-4層	2900	第132図	土師器 甕	口径: 39.0 ※ 器高: 7.6 △	外面: ヨコナデ。一部タテハケ残る。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部横方 向のケズリ後一部ヨコナデ。	密 (2mm以下 の長石、石英 を含む)	良好	内外面: 橙色	
850	F18 2-II層	2326	第132図 PL.85	土師器 手捏ね土器	口径: 6.6 ※ 器高: 4.5 △	外面: 指ナデ。指押さえ。 内面: 指押さえ。	密 (雲母を多 く含む)	良好	外面: 灰白色 内面: にぶい黄褐色	外面に粘土つ なぎ痕あり。
851	C20 2-II-4層	2876	第132図 PL.91	須恵器 環蓋	口径: 15.8 ※ 器高: 4.0 △	外面: 器体上位回転ヘラケズリ、 中位回転ヘラケズリ後回転ナ デ、下位回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	TK10。
852	D20 2-II-5層	3057	第132図 PL.91	須恵器 環身	口径: 9.0 ※ 器高: 3.3 △ 基部径: 1.22 ※ 立ち上がり高: 1.3	外面: 器体上位回転ナデ、下位ヘ ラおこし後ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	受部に白色の 自然釉。TK43。
853	D20・E21・D20 2-II-4・5層	2907・3050 ・3058	第132図	須恵器 環蓋	口径: 10.6 ※ 器高:	外面: 器体上位回転ヘラケズリ後 回転ナデ、下位回転ナデ。 内面: 回転ナデ。ヘラ記号あり。	密	良好	内外面: 灰色	TK217。
854	D20 2-II-4層	2898	第132図 PL.91	須恵器 環蓋	口径: 21.2 ※ 器高: 2.8 △	外面: 器体上位回転ケズリ、器体 下位回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 灰色	MT21~(8世 紀初頭)
855	F17 トレンチ1 2 2-II層	2315	第132図 PL.91	須恵器 環	口径: 12.8 ※ 器高: 2.8 △	外面: 回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 褐灰色	
856	C20 2-II-4層 下面	2879	第132図 PL.91	須恵器 環	口径: 11.2 ※ 器高: 2.6 △	外面: 回転ヨコナデ。 内面: 回転ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰色	
857	E16 2-II-1層	2784	第132図 PL.91	勝間田焼 甕	器高: 4.9 △	外面: 格子目タタキ。タタキ後一 部ナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
858	A22 2-II-4層	2026	第132図 PL.91	勝間田焼 甕	器高: 9.7 △	外面: 格子目タタキ。タタキ後一 部ナデ。 内面: 平行タタキ。一部ナデ、回 転ナデ。	密	良好	外面: 灰色 内面: 灰白色	
859	E14 トレンチ6 2-II層	2100	第132図 PL.91	瓦質土器 羽釜	口径: 20.8 ※ 器高: 7.7 △	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ケズ リ後粗いナデ。 内面: ヨコナデ。	密 (1mm程の 砂粒を含む)	良好	外面: 灰白~褐灰色 内面: 黄灰色	
860	D15 2-II-1層	2514	第132図 PL.91	瓦質土器 羽釜	口径: 25.3 ※ 器高: 4.9 △	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 黒色	鏝より下にス ス附着。
861	E14 2-II層	2100	第132図 PL.91	瓦質土器 羽釜	口径: 29.0 ※ 器高: 3.2 △	外面: 口縁部~胴部ナデ、湾曲部 指押さえ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 灰白~浅黄色 内面: 黄灰色	外面スス附着。 内面口縁部黒 斑あり。
862	B19 2-II層	2159	第132図 PL.91	瓦質土器 鍋	器高: 5.0 △	外面: 口縁端部にハケ目後ナデ。 口縁部ナデ、体部ケズリ。 内面: ナデ。	密 (1mm程の 長石、石英を 含む)	良好	内外面: にぶい橙色	
863	C20 2-II層	2017	第132図 PL.91	土師質土器 小皿	口径: 6.8 ※ 器高: 1.5 △ 底径: 4.2 ※	外面: 回転ヨコナデ。底部ナデ。 内面: 回転ヨコナデ。	密	良好	外面: 褐灰色 内面: にぶい黄色	
864	B21 2-II層	2171	第132図	土師質土器 小皿	口径: 5.4 ※ 器高: 0.8 △ 底径: 4.0 ※	外面: ナデ。底部ケズリ後ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄橙色 内面: 浅黄褐色	
865	B21 2-II層	2134	第132図	土師質土器 小皿	口径: 8.0 ※ 器高: 1.1 底径: 4.2 ※	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	

表 45 2区出土土器・土製品観察表(18)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
866	D15 II-1層直上	2514	第132図 PL.91	備前焼陶器 播鉢	器高: 3.4 △	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 赤灰色	備前IV B期。 外面剥離あり。
867	C20 II-4層	2017	第132図 PL.91	須佐焼 播鉢	器高: 4.0 △	内外面: 施釉	密	良好	内外面: にぶい褐色	
868	B22 2-II層	2038	第132図 PL.89	青磁 碗	器高: 3.1 △	内外面: 施釉。外面ハケ目。	密	良好	釉: オリーブ黄 胎土: 灰白色	
869	排土中	2654	第135図 PL.92	縄文土器 深鉢	器高: 4.3 △	外面: 口縁端部より少し下がった 位置に貼付刻目突帯。胴部上 位ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密 (3mm 以下 の砂粒を含 む)	良好	内外面: 灰白色	
870	E18 表探	2243	第135図 PL.92	縄文土器 深鉢	器高: 3.2 △	外面: 口縁端部より垂下するかた ちで貼付刻目突帯。胴部上位 ケズリ後ナデ。 内面: ナデ。	密 (2mm 以下 の砂粒を含 む)	良好	外面: にぶい黄褐色～ 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色～ 暗灰黄色	
871	E19 攪乱	2474	第135図 PL.92	土師器 甕	器高: 4.2 △	外面: 口縁部10条の平行沈線 (1cm幅の工具を使ったと考え られる)。頸部～胴部ヨコナデ。 内面: 口縁部～頸部ヨコナデ。胴 部ケズリ。	密 (微砂粒を 多く含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	V-3様式。
872	E13 杭付近	2151	第135図	土師器 壺	口径: 22.0 ※ 器高: 10.1 △	外面: 口縁端部に1条の凹線、口 縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ か。 内面: 口縁部～頸部上位ヨコナデ。 頸部下位紋り後ナデ。胴部上 位右方向のケズリ。	密 (1～2mm 前後の砂粒を 含む)	良好	外面: 浅黄橙～にぶい 黄褐色 内面: にぶい黄褐色	口縁部に黒斑 あり。天神川 II期。
873	E14 トレンチ6 3層	2203	第135図 PL.92	須恵器 蓋	器高: 2.6 △ 底径: 11.9 ※	外面: 口縁部～胴部回転ヨコナデ、 胴部～底部ナデ。 内面: 回転ヨコナデ。	密	良好	内外面: 黄灰色	TK217。
874	B21・C21 2-1層・ 1-2-II層	2134・2164・ 2146・2028	第135図 PL.92	須恵器 坏身	口径: 11.1 ※ 器高: 3.3 △	外面: 受部ナデ。体部回転ヨコナ デ。底部ヘラ切り後ナデ。 内面: 口縁部回転ヨコナデ。体部 ～底部ナデ。	密	良好	内外面: 明青灰色	内面に有機物 付着。TK217。
875	F19 造成土	2226	第135図 PL.92	須恵器 蓋	口径: 17.6 ※ 器高: 3.6 △	外面: ヘラキリ後ナデ。回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
876	E17 攪乱	2398	第135図 PL.92	須恵器 高台付皿	口径: 14.9 ※ 器高: 1.8 △ 底径: 15.0 ※	外面: 回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密 (1mm程の 砂粒を含む)	良好	内外面: 灰色	
877	E17 攪乱	2416	第135図 PL.92	須恵器 碗	口径: 20.0 ※ 器高: 3.2 △	外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰色	
878	F19 造成土	2229・2226	第135図 PL.92	須恵器 坏	器高: 1.7 △ 底径: 3.8 ※	外面: 回転ヨコナデ。底部回転糸 切り。 内面: 回転ヨコナデ。	密	良好	内外面: 灰色	
879	E13 攪乱	2418	第135図 PL.92	土師器 坏	器高: 1.5 △ 底径: 6.9 ※	外面: 回転ヨコナデ。底部回転糸 切り。 内面: 回転ナデ。	密	良好	外面: 黄灰色 内面: 灰黄褐色	
880	F18 造成土	2248	第135図 PL.92	須恵器 坏	器高: 3.2 △ 底径: 6.9 ※	外面: 回転ナデ。 内面: ナデ。一部不定方向ナデ。	密	良好	内外面: 灰白色	
881	D18 表探	2258	第135図 PL.92	土師質土器 小皿	口径: 7.5 ※ 器高: 1.0 △	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	
882	A21 灰褐色土	2001	第135図 PL.92	土師質土器 皿	口径: 8.3 ※ 器高: 2.7 底径: 6.4 ※	外面: 回転ナデ。底部回転糸切り。 内面: 体部回転ナデ。底部ナデ。	密	良好	外面: 灰黄色 内面: 浅黄色	
883	トレンチD19 1・1-2-II層	2593	第135図 PL.92	土師質土器 鍋	器高: 3.0 △	外面: 口縁端部ナデ。口縁部～頸 部ハケ目。 内面: ハケ目。	密	良好	外面: 暗灰黄色 内面: 浅黄色	
884	B22 表土	2036	第135図 PL.92	土師質土器 鍋	器高: 3.55 △	外面: 口縁端部ナデ。口縁部～胴 部上位ハケ目後ナデ。 内面: ハケ目。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色 ～灰黄褐色	
885	E20 表土	2019	第135図	土師質土器 鍋	器高: 7.3 △	外面: ハケ目。 内面: ハケ目。	密	良好	外面: 灰白色～明赤褐 色 内面: にぶい黄褐色	
886	B20 表土	2002	第135図 PL.92	瀬戸美濃陶 器 天目茶碗	口径: 10.4 ※ 器高: 2.9 △	外面: 施釉。 内面: 施釉。	密	良好	内外面: 褐色に黒が混 じる 胎土: 灰白色	
887	D14 攪乱	2534	第135図 PL.92	備前焼陶器 播鉢	口径: 25.6 ※ 器高: 4.7 △	外面: 回転ナデ。 内面: 回転ナデ。	密	良好	外面: 褐灰色～暗褐色 ～灰色 内面: 灰色	備前IV A期。
888	D14 排土	2432	第135図 PL.92	備前焼陶器 播鉢	器高: 3.5 △ 底径: 20.0 ※	外面: ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 暗褐色 内面: にぶい赤褐色	
889	E15 表探	2059	第135図 PL.92	瓦質土器 火鉢?	口径: 16.0 ※ 器高: 3.9 △	外面: 口縁部回転ナデ、1条の沈 線。体部上位回転ナデ後、工 具により雷文を刻む。 内面: 口縁部回転ナデ。体部上位 工具による回転ナデ。	密	良好	外面: 灰白～にぶい黄 褐色 内面: 浅黄橙～にぶい 黄橙	
890	F13 表土	2299	第135図 PL.92	青磁 碗	器高: 4.0 △	内外面: 施釉	密	良好	内外面: オリーブ灰色	
891	C21 表土	2029	第135図 PL.92	青磁 碗	器高: 2.1 △	外面: 施釉。大きめの貫入。蓮弁紋。 内面: 施釉。	密	良好	内外面: オリーブ灰色	
892	D17 攪乱	2576	第135図 PL.92	白磁 菊小皿	口径: 4.8 ※ 器高: 1.3 △ 底径: 1.6 ※	外面: 施釉。貫入あり。砂目、露胎。 内面: 施釉。	密	良好	外面: 淡黄～灰白色 内面: 灰白色	
893	F19 造成土	2226	第135図 PL.92	染付け 碗	器高: 3.35 △ 底径: 4.4 ※	外面: 施釉。高台部露胎。 内面: 施釉。高台部露胎。	密	良好	施釉部: 灰白色 露胎部: 灰褐色	
894	F19 造成土	2226	第135図 PL.92	陶器 皿	器高: 0.6 △ 底径: 4.2 ※	外面: ナデ。底面回転糸切り。 内面: 施釉。	密	良好	外面: 黄灰色 内面: 極暗赤褐色	
895	F19 造成土	2229	第135図 PL.93	土製品 管状土錘	最大長: 4.4 最大幅: 2.3 最大厚: 重量: 15.0	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	直径約7mm の孔。

第4章 2区の調査成果

表46 2区出土石製品観察表(1)

遺物番号	遺構 層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S135	SK17 埋土中	3372	第92図 PL.98	石鏃	黒曜石	最大長：2.45 最大幅：1.6△ 最大厚：0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	1.06△	
S136	SK17 下層	3012	第92図 PL.98	石鏃	サヌカイト	最大長：1.3 最大幅：1.2 最大厚：0.2	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.39△	
S137	SK17 埋土中	3097	第92図 PL.98	石鏃	サヌカイト	最大長：1.9△ 最大幅：1.4 最大厚：0.2	扁平なサヌカイト製平基無茎石鏃。先端部欠く。	1.03△	
S138	SK17 黒褐色粘質土	3029	第92図 PL.98	調整体	サヌカイト	最大長：5.15 最大幅：4.2 最大厚：1.15	両面押圧剥離が施される黒曜石製調整体。	30.16	
S139	SK17 上層	2987	第92図 PL.98	石鏃	砂岩	最大長：8.8 最大幅：7.1 最大厚：1.8	小型の石鏃。	109.50	
S140	B18グリッド 流路1 上層	3356	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.45 最大幅：2.0 最大厚：0.4	大型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	1.29	
S141	C18グリッド 流路1 下層	2989	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.3 最大幅：1.8 最大厚：0.35	サヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.92	
S142	B18グリッド 流路1 下層	3420	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.4 最大幅：1.8 最大厚：0.3	サヌカイト製凹基無茎石鏃。	1.08	
S143	B19グリッド 流路1 中層	3001	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.8 最大幅：1.6△ 最大厚：0.35	細長のサヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.9△	
S144	B18グリッド 流路1 中層	3088	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.15 最大幅：1.4 最大厚：0.25	細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.66	
S145	C18グリッド 流路1 中層	3355	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.95 最大幅：1.4 最大厚：0.5	サヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.75	
S146	流路1 下層	3429	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.95 最大幅：1.3 最大厚：0.4	サヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	0.78	
S147	C19グリッド 流路1 上層	2967	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.2 最大幅：1.4 最大厚：0.4	サヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.88	
S148	B19グリッド 流路1 2層	2067	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.9 最大幅：1.1 最大厚：0.3	細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.66	
S149	B19グリッド 流路1 中層	3001	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.7 最大幅：1.2 最大厚：0.3	小型で細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.36	
S150	B19グリッド 流路1 上層	2987	第101図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.75 最大幅：1.25 最大厚：0.25	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.39	
S151	B18グリッド 流路1 埋土中	3364	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.9 最大幅：1.2 最大厚：0.2	扁平なサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.32	
S152	B19グリッド 流路1 中層	3001	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.55 最大幅：1.45△ 最大厚：0.25	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.38△	
S153	B19グリッド 流路1 下層	3021	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.55 最大幅：1.3 最大厚：0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.36	
S154	B19グリッド 流路1 下層	3021	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.8△ 最大幅：1.35 最大厚：0.22	サヌカイト製凹基無茎石鏃。先端部及びかえり部一部欠く。	0.49△	
S155	C19グリッド 流路1 上層	2967	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.8 最大幅：1.45 最大厚：0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。	0.51	
S156	B19グリッド 流路1 上層	3038	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.3 最大幅：1.3 最大厚：0.2	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.33	
S157	B19グリッド 流路1 下層	3021	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.85 最大幅：1.35 最大厚：0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	0.56	
S158	B18グリッド 流路1 下層	3420	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.6△ 最大幅：0.9 最大厚：0.3	サヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.54△	
S159	B19グリッド 流路1 上層	2973	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.85 最大幅：1.45 最大厚：0.35	小型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	0.80	
S160	C19グリッド 流路1 中層	3005	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.9 最大幅：1.2 最大厚：0.2	細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	0.54	
S161	C18グリッド 流路1 下層	2969	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：1.6△ 最大幅：1.3 最大厚：0.25	サヌカイト製凹基無茎石鏃。先端部欠く。挟り浅い。	0.49△	
S162	E18グリッド 流路1 埋土中	2961	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.7 最大幅：1.6 最大厚：0.4	大型で細身のサヌカイト製平基無茎石鏃。完形。	1.44	
S163	E18グリッド 流路1 中層	2994	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.6 最大幅：1.75 最大厚：0.35	大型のサヌカイト製平基無茎石鏃。完形。	1.42	
S164	B19グリッド 流路1 2層	2080	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.5 最大幅：1.3 最大厚：0.3	細身のサヌカイト製平基無茎石鏃。完形。	1.06	
S165	C18グリッド 流路1 埋土中	2932	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.3△ 最大幅：1.6 最大厚：0.3	サヌカイト製平基無茎石鏃。先端部欠く。使用中欠損か。	1.22△	
S166	E18グリッド 流路1 埋土中	2938	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長：2.25 最大幅：1.85 最大厚：0.55	厚手のサヌカイト製平基無茎石鏃。	1.99	

表 47 2区出土石製品観察表(2)

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S167	B19 グリッド 流路1 中層	3001	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長:1.65 最大幅:1.4△ 最大厚:0.3	小型のサヌカイト製平基無茎石鏃。一部欠く。	0.59△	
S168	B18 グリッド 流路1 埋土中	3364	第102図 PL.94	石鏃	サヌカイト	最大長:3.85△ 最大幅:1.4 最大厚:0.45	木の葉型のサヌカイト製有茎石鏃。茎部一部欠く。	2.48△	
S169	E18 グリッド 流路1 下層	3420	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大幅:2.2 最大厚:0.5	大型で五角形状を呈す黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	2.08	
S170	C19 グリッド 流路1 上層	2946	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大幅:2.0 最大厚:0.37	幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.19	
S171	B19 グリッド 流路1 中層	3001	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:2.8 最大幅:1.7 最大厚:0.4	黒曜石製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	1.05	
S172	D19 グリッド 流路1 上層	2947	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:1.45 最大幅:1.8 最大厚:0.35	幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.52	
S173	B19 グリッド 流路1 中層	3001	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:1.4 最大幅:1.3 最大厚:0.4	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.46	
S174	B18 グリッド 流路1 埋土中	2922	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:1.6 最大幅:1.4 最大厚:0.3	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.54	
S175	B19 グリッド 流路1 中層	3001	第102図 PL.94	石鏃	黒曜石	最大長:1.6 最大幅:1.2 最大厚:0.3	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.40	
S176	F18 グリッド 流路1 砂礫層	2307	第102図 PL.95	石鏃	黒曜石	最大長:1.85 最大幅:1.1 最大厚:0.35	細身の黒曜石製平基無茎石鏃。完形。	0.62	
S177	C19 グリッド 流路1 中層	3022	第102図 PL.96	石錐	黒曜石	最大長:4.55 最大幅:1.15 最大厚:0.75	幅広で断面三角形形状を呈す黒曜石製石錐。	2.93	
S178	D18 グリッド 流路1 埋土中	2935	第102図 PL.96	両面調整体	サヌカイト	最大長:4.3 最大幅:1.2 最大厚:0.5	扁平で細長い両面調整体。石錐か。	2.50	
S179	B19 グリッド 流路1 下層	3422	第102図 PL.96	石匙	サヌカイト	最大長:6.45 最大幅:2.8 最大厚:0.7	サヌカイト製縦型石匙。	16.42	
S180	B19 グリッド 流路1 2層	2069	第102図 PL.96	石匙	サヌカイト	最大長:5.65 最大幅:2.8 最大厚:0.7	サヌカイト製横型石匙。完形。	7.96	
S181	B19 グリッド 流路1 中層	3001	第103図 PL.96	石匙	サヌカイト	最大長:4.05 最大幅:2.3 最大厚:0.7	小型の横型石匙。完形。	4.84	
S182	B19 グリッド 流路1 埋土中	3001	第103図 PL.96	石匙	サヌカイト	最大長:7.2△ 最大幅:3.5 最大厚:0.9	サヌカイト製横型石匙。一方端欠く。	18.0△	
S183	B19 グリッド 流路1 埋土中	3403	第103図 PL.96	削器	サヌカイト	最大長:5.5 最大幅:3.45 最大厚:1.05	断面三角形を呈す削器。一側縁に刃部。	19.71	
S184	B19 グリッド 流路1 下層	3021	第103図 PL.96	削器	サヌカイト	最大長:5.5 最大幅:3.1 最大厚:0.6	横長のサヌカイト製削器。一側縁に刃部。	12.95	
S185	C18 グリッド 流路1 中層	3080	第103図 PL.96	削器	サヌカイト	最大長:5.0 最大幅:2.8 最大厚:0.7	断面三角形を呈す削器。一側縁に刃部。	11.35	
S186	B18 グリッド 流路1 下層	3006	第103図 PL.96	楔形石器	サヌカイト	最大長:4.95 最大幅:3.1 最大厚:0.6	サヌカイト製の横長の楔形石器。	11.12	
S187	D18 グリッド 流路1 埋土中	2921	第103図 PL.96	二次加工のある剥片	サヌカイト	最大長:6.7 最大幅:6.4 最大厚:3.6	不整三角形形状を呈す二次加工のあるサヌカイト剥片。	27.18	
S188	B19 グリッド 流路1 埋土中	3016	第103図 PL.96	磨製石斧	頁岩	最大長:3.3△ 最大幅:1.8△ 最大厚:1.8	磨製石斧刃部破片。	24.5△	
S189	B18 グリッド 流路1 中層	3075	第103図 PL.97	石鏃	硬質安山岩	最大長:20.0 最大幅:9.8 最大厚:3.2	大型で細長い打製石鏃。刃部尖る。一部剥離。	502△	
S190	E18 グリッド 流路1 下層	2943	第104図 PL.97	石鏃	硬質安山岩	最大長:16.7 最大幅:10.5 最大厚:2.0	幅広の打製石鏃。刃部片減り。	449.00	
S191	C19 グリッド 流路1 下層	2992	第104図 PL.97	石鏃	硬質安山岩	最大長:18.5 最大幅:13.2 最大厚:2.4	厚手の打製石鏃。刃部片減り。	801.00	
S192	E18 グリッド 流路1 埋土中	2995	第104図	石鏃	硬質安山岩	最大長:16.7△ 最大幅:11.4 最大厚:3.2	厚手の打製石鏃。基部欠く。	491△	
S193	C18 グリッド 流路1 下層	2990	第105図	石鏃	硬質安山岩	最大長:17.5△ 最大幅:10.7△ 最大厚:3.4	厚手の打製石鏃。刃部欠く。	765△	
S194	E18 グリッド 流路1	2995	第104図 PL.97	石鏃	硬質安山岩	最大長:10.9 最大幅:8.6 最大厚:1.5	小型で撥形を呈す打製石鏃。	114.00	
S195	E18 グリッド 流路1 下層	2943	第104図	石鏃	硬質安山岩	最大長:9.2 最大幅:5.4 最大厚:1.8	小型の打製石鏃。	109.00	
S196	B19 グリッド 流路1 中層	3040	第106図 PL.99	凹石	角閃石安山岩	最大長:10.3 最大幅:9.1 最大厚:5.2	楕円形を呈す凹石。両面に敲打によるくぼみ。	626.00	
S197	B19 グリッド 流路1 2層	2080	第106図 PL.99	凹石	デイサイト	最大長:9.4 最大幅:9.0 最大厚:4.7	円形を呈す凹石。両面に敲打によるくぼみ。	487.00	
S198	C18 グリッド 流路1 上層	2934	第106図 PL.99	凹石	デイサイト	最大長:11.3 最大幅:9.5 最大厚:5.3	楕円形を呈す凹石。両面に敲打によるくぼみ。	865.00	

第4章 2区の調査成果

表48 2区出土石製品観察表(3)

遺物番号	遺構・区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S199	B18 グリッド 流路1 埋土中	2941	第106図 PL.99	石皿	安山岩	最大長：24.3 最大幅：38.3 最大厚：9.6	扁平で大型の石皿。表面に敲打によるくぼみ。		
S200	流路3 埋土中	2962	第107図	石鍬	サヌカイト	最大長：1.75 最大幅：1.3 最大厚：0.4	サヌカイト製凹基無茎石鍬。	0.61	
S201	流路3 埋土中	2939	第107図	石鍬	サヌカイト	最大長：1.9 最大幅：1.4 最大厚：0.4	サヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。	0.50	
S202	流路3-3 中層	2367	第107図 PL.94	石鍬	サヌカイト	最大長：2.3 最大幅：1.2 最大厚：0.3	細身のサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	1.10	
S203	流路3-1 上層	2336	第107図 PL.94	石鍬	サヌカイト	最大長：2.1 最大幅：1.5 最大厚：0.35	サヌカイト製平基無茎石鍬。	0.84	
S204	流路3-3 上層	2378	第107図 PL.94	石鍬	サヌカイト	最大長：1.65 最大幅：1.4 最大厚：0.2	サヌカイト製平基無茎石鍬。	0.49	
S205	流路3 下層	2357	第107図 PL.94	石鍬	黒曜石	最大長：1.5 最大幅：1.6 最大厚：0.4	やや幅広の黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.81	
S206	流路3 埋土中	2974	第107図	石鍬	黒曜石	最大長：1.2 最大幅：1.15 最大厚：0.25	小型の黒曜石製凹基無茎石鍬。	0.44	
S207	流路3-1 下層	2337	第107図 PL.96	楔形石器	黒曜石	最大長：3.3 最大幅：2.0 最大厚：0.9	黒曜石製楔形石器。	5.26	
S208	流路3-2 上層	2427	第107図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長：16.4 最大幅：7.4 最大厚：2.2	細長の石鍬。	362.00	
S209	流路3-3 上層	2366	第107図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長：18.3△ 最大幅：14.5△ 最大厚：3.1	大型の石鍬。基部端・刃部欠く。	772△	
S210	流路3-3 上層	2366・2692	第108図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長：25.2 最大幅：14.8 最大厚：3.8	大型の石鍬。中位で折れたものが接合。	1340.00	
S211	A21 グリッド 流路2 下層	2215	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.8 最大幅：1.8 最大厚：0.4	サヌカイト製凹基無茎石鍬。完形。	1.50	
S212	D20 グリッド 流路2	3078	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.4 最大幅：2.3 最大厚：0.3	大型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。完形。	1.00	
S213	D20 グリッド 流路2 下層	3428	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.45 最大幅：1.5 最大厚：0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠く。	0.77△	
S214	B22 グリッド 流路2 下層	2219	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.6 最大幅：1.25△ 最大厚：0.5	細身のサヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠く。	1.12△	
S215	D20 グリッド 流路2 下層	3428	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.0△ 最大幅：1.6△ 最大厚：0.4	さぬけ伊都製凹基無茎石鍬。先端部及びかえり部一部欠く。	1.09△	
S216	A21 グリッド 流路2 下層	2215	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.4△ 最大幅：1.4 最大厚：0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。先端部欠く。	0.6△	
S217	B21・22 グリッド 流路2 埋土中	2150	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.5 最大幅：1.2 最大厚：0.2	小型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。完形。	0.36	
S218	C21 グリッド 流路2 下層	2221	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.5△ 最大幅：1.05△ 最大厚：0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。先端部及びかえり部欠く。	0.33△	
S219	C21 グリッド 流路2 下層	3415	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.3 最大幅：1.6 最大厚：0.35	大型のサヌカイト製平基無茎石鍬。	1.40	
S220	A21 グリッド 流路2 下層	2202	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.0 最大幅：1.6 最大厚：0.4	サヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	1.19	
S221	C21 グリッド 流路2 下層	2221	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.15 最大幅：1.6 最大厚：0.3	サヌカイト製平基無茎石鍬。	1.02	
S222	C20 グリッド 流路2 中層	3098	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：2.1 最大幅：1.6 最大厚：0.3	サヌカイト製平基無茎石鍬。	1.08	
S223	C21 グリッド 流路2 下層	2221	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.4△ 最大幅：1.3 最大厚：0.25	サヌカイト製平基無茎石鍬。先端部欠く。	0.48△	
S224	C21 グリッド 流路2 下層	2208	第116図 PL.95	石鍬	サヌカイト	最大長：1.05△ 最大幅：1.2 最大厚：0.2	非常に小型のサヌカイト製平基無茎石鍬。先端部欠く。	0.26△	
S225	D20 グリッド 流路2 下層	3428	第116図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長：1.7 最大幅：1.9 最大厚：0.4	黒曜石製凹基無茎石鍬。側縁一部欠く。	1.01△	
S226	B21 グリッド 流路2 下層	2224	第116図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長：2.1 最大幅：1.1 最大厚：0.3	細身の黒曜石製凹基無茎石鍬。鋸歯縁。完形。	0.57	
S227	D20 グリッド 流路2 下層	3417	第116図 PL.95	石鍬未成品	黒曜石	最大長：2.1 最大幅：1.6△ 最大厚：0.4	黒曜石製凹基無茎石鍬未成品。	0.89△	
S228	C21 グリッド 流路2 中層	3094	第116図 PL.97	磨製石斧	玄武岩	最大長：6.9△ 最大幅：5.5 最大厚：2.7	磨製石斧刃部。基部欠く。刃部片減り。	146△	
S229	C21 グリッド 流路2 下層	3416	第116図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長：9.6 最大幅：5.0 最大厚：2.0	小型の打製石鍬。	114.50	
S230	C21 グリッド 流路2 下層	3416	第116図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長：12.5 最大幅：6.4 最大厚：2.4	細長の打製石鍬。完形。	159.00	

表 49 2区出土石製品観察表(4)

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S231	E20 グリッド 流路2 埋土中	3241	第116図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長:15.1△ 最大幅:8.3 最大厚:1.9	薄手の打製石鍬。基部一部欠く。	247△	
S232	C20 グリッド 流路2 中層	3107	第117図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長:17.3 最大幅:9.1 最大厚:2.8	薄手の打製石鍬。	483.00	
S233	C20 グリッド 流路2 中層	3107	第117図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長:16.0△ 最大幅:9.0 最大厚:3.8	厚手で幅広の打製石鍬。基部及び刃部欠く。	722△	
S234	A21 グリッド 流路2 下層	2215	第117図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長:12.5 最大幅:9.3△ 最大厚:3.2	大型の打製石鍬。刃部一部欠く。	559△	
S235	B21 グリッド 流路2 下層	2196	第117図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長:14.7△ 最大幅:10.1 最大厚:1.9	大型の打製石鍬。基部欠く。	339△	
S236	B21 グリッド 流路2 下層	2197	第118図 PL.98	凹石	デイサイト	最大長:12.2 最大幅:7.5 最大厚:5.1	長楕円形を呈す凹石。両面敲打によるくぼみ。	630.00	
S237	B21 グリッド 流路2 上層	2172	第118図 PL.98	凹石	デイサイト	最大長:12.0 最大幅:9.3 最大厚:5.8	楕円形を呈す凹石。両面に敲打によるくぼみ。	860.00	
S238	C21 グリッド 流路2 上層	3059	第118図 PL.98	敲石	デイサイト	最大長:12.2 最大幅:4.1 最大厚:5.7	不整長楕円形を呈す敲石。一方端及び一側面に敲打面。	430.00	
S239	SD5 埋土中	2696	第121図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:2.5 最大幅:1.7△ 最大厚:0.45	大型で細長のサヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠く。	1.25△	
S240	D17 グリッド I層	2813	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:2.15 最大幅:1.8 最大厚:0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。完形。	0.82	
S241	F12 グリッド I層	2314	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:2.5 最大幅:1.8△ 最大厚:0.45	サヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠損。	1.33△	
S242	D13 グリッド I層	2509	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:2.05 最大幅:1.8△ 最大厚:0.35	サヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠損。	0.98△	
S243	D16 グリッド I層	2436	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:1.9 最大幅:1.4 最大厚:0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。完形。	0.67	
S244	E14 グリッド I層	2463	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:1.95 最大幅:1.45 最大厚:0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。完形。	0.79	
S245	E18 グリッド I層	2386	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:1.5 最大幅:1.1 最大厚:0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。完形。	0.37	
S246	F15 グリッド I層	2281	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:2.1 最大幅:1.25 最大厚:0.3	細身のサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	0.84	
S247	C21 グリッド I層	2755	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:1.65 最大幅:1.25 最大厚:0.2	扁平なサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	0.49	
S248	D15 グリッド I層	2636	第129図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長:1.6 最大幅:1.3△ 最大厚:0.3	サヌカイト製平基無茎石鍬。ほぼ完形。	0.45△	
S249	D16 グリッド	2436	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:2.6 最大幅:2.0 最大厚:0.4	やや大型の黒曜石製凹基無茎石鍬。先端部一部欠く。	1.5△	
S250	E16 グリッド I層	2810	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:2.15△ 最大幅:1.6△ 最大厚:0.5	黒曜石製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠損。	0.82△	
S251	F17 グリッド I層	2262	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.55△ 最大幅:1.6 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。先端部一部欠く。	0.48△	
S252	E13・14 グリッド I層	2431	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.8 最大幅:1.6△ 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠損。	0.57△	
S253	E16 グリッド I層	2377	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.6 最大幅:1.5 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.42	
S254	E16 グリッド I層	2377	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.7 最大幅:1.45 最大厚:0.5	黒曜石製凹基無茎石鍬。側縁一部欠損。	0.52△	
S255	F17 グリッド I層	2304	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.1 最大幅:1.0 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.30	
S256	F17 グリッド I層	2262	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.8 最大幅:1.4 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.63	
S257	C13 グリッド I層	2549	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.3 最大幅:1.5 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.56	
S258	F18 グリッド I層	2284	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.5 最大幅:1.4 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.68	
S259	C19 グリッド I層	2659	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.8△ 最大幅:1.5 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。先端部一部欠く。	0.7△	
S260	E20 グリッド I層	2479	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.6 最大幅:1.2 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.44	
S261	C15 グリッド I層	2563	第129図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長:1.9△ 最大幅:1.4 最大厚:0.35	黒曜石製凹基無茎石鍬。挟り浅い。完形。	0.69	
S262	E14 グリッド I層	2412	第129図	石錐	サヌカイト	最大長:2.15△ 最大幅:1.0 最大厚:0.4	黒曜石製石錐。基部欠損。先端部磨滅。	1.46△	

第4章 2区の調査成果

表50 2区出土石製品観察表(5)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S263	E14 グリッド I層	2401	第129図 PL.99	磨製石斧	砂岩	最大長: 11.8 △ 最大幅: 6.2 △ 最大厚: 3.9	磨製石斧基部。刃部欠く。	366 △	
S264	B5 グリッド I層	2524	第129図	磨製石斧	閃緑岩	最大長: 7.8 最大幅: 2.0 最大厚: 1.3	小型で細身の磨製石斧。刃部・裏面一部欠損。刃部片減り。	30 △	
S265	C18 グリッド I層	2669	第129図 PL.96	磨製石斧	玄武岩	最大長: 2.65 △ 最大幅: 1.3 最大厚: 0.95	小型で細身の磨製石斧基部。刃部欠損。	4.46 △	
S266	E18 グリッド I層	2465	第130図 PL.97	石鍬	硬質安山岩	最大長: 14.8 △ 最大幅: 11.6 最大厚: 1.7	石鍬刃部。基部欠く。	453 △	
S267	E14 グリッド I層	2401	第130図	石鍬	硬質安山岩	最大長: 10.5 △ 最大幅: 7.2 △ 最大厚: 2.2	扁平な石鍬基部。刃部欠く。	193 △	
S268	E18 グリッド I層	2387	第130図	石鍬	安山岩	最大長: 13.4 △ 最大幅: 8.5 最大厚: 1.8	扁平な石鍬基部。刃部欠く。	253 △	
S269	E14 グリッド I層	2848	第130図 PL.99	磨石	デイサイト	最大長: 10.8 最大幅: 8.4 最大厚: 5.4	楕円形を呈す磨石。全面研磨。表面敲打痕。	803.00	
S270	F16 グリッド II層	2334	第133図	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.5 最大幅: 1.25 最大厚: 0.35	小型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。	0.34	
S271	B18 グリッド II層	2996	第133図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 2.8 最大幅: 1.7 最大厚: 0.4	大型のサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	1.50	
S272	E19 グリッド II層	2912	第133図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 2.2 最大幅: 1.5 最大厚: 0.4	サヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	1.23	
S273	B21 グリッド II層	2134	第133図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.85 最大幅: 1.7 最大厚: 0.2	扁平なサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	0.68	
S274	E19 グリッド II層	2787	第133図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.95 最大幅: 1.3 最大厚: 0.3	サヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。	0.70	
S275	B18・19 グリッド II層	2977	第133図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.8 最大幅: 1.45 最大厚: 0.45	サヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。完形。	1.03	
S276	D18 グリッド II層	2831	第133図	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.4 最大幅: 1.3 最大厚: 0.35	互角形状を呈すサヌカイト製平基無茎石鍬。完形。	0.65	
S277	D19 グリッド II層	2780	第133図 PL.96	石鍬未成品	サヌカイト	最大長: 1.45 最大幅: 1.15 △ 最大厚: 0.25	サヌカイト製平基無茎石鍬未成品。	0.4 △	
S278	C22 グリッド II層	2200	第133図 PL.96	石鍬未成品	サヌカイト	最大長: 1.4 最大幅: 1.05 最大厚: 0.25	サヌカイト製平基無茎石鍬未成品。	0.36	
S279	B21 グリッド II層	2147	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 1.95 最大幅: 1.8 最大厚: 0.3	横長の黒曜石製凹基無茎石鍬。挟り深い。完形。	0.62	
S280	D20 グリッド II層	2871	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 2.15 最大幅: 1.3 最大厚: 0.3	細身の黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.56	
S281	E14 グリッド II層	2101	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 2.0 最大幅: 1.4 最大厚: 0.3	やや細長の黒曜石製凹基無茎石鍬。	0.60	
S282	B21 グリッド II層	2147	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 2.05 最大幅: 1.6 最大厚: 0.3	黒曜石製凹基無茎石鍬。完形。	0.65	
S283	D17 グリッド II層	2822	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 2.0 △ 最大幅: 1.4 △ 最大厚: 0.5	黒曜石製凹基無茎石鍬。かえり部欠く。	1.14 △	
S284	B18 グリッド II層	2895	第133図 PL.95	石鍬	黒曜石	最大長: 2.05 △ 最大幅: 1.2 △ 最大厚: 0.35	黒曜石製凹基無茎石鍬。かえり部欠く。	0.69 △	
S285	C21 グリッド II層	3061	第133図 PL.95	調整体	サヌカイト	最大長: 10.4 最大幅: 3.6 最大厚: 1.2	片面に調整を施す。	36.00	
S286	C17 グリッド II層	2772	第133図 PL.98	石鍬	硬質安山岩	最大長: 10.4 △ 最大幅: 6.8 最大厚: 2.2	小型の三角形を呈す石鍬。刃部片減り。	167 △	
S287	E21 グリッド II層	3067	第133図 PL.98	石鍬	硬質安山岩	最大長: 16.7 △ 最大幅: 10.3 △ 最大厚: 2.2	長分銅形を呈す石鍬。刃部一部欠く。基部広い。	514.00	
S288	C19 グリッド II層	2706	第134図 PL.99	磨製石斧 石斧転用敲石	閃緑岩	最大長: 16.2 最大幅: 6.7 最大厚: 4.7	磨製石斧刃部欠損後転用敲石。	666.00	
S289	D20 グリッド II層	3050	第134図 PL.99	磨製石斧	閃緑岩	最大長: 9.5 最大幅: 6.7 最大厚: 2.3	小型で幅広の磨製石斧。一部剥離。	230 △	
S290	C14 グリッド II層	2861	第134図 PL.99	磨製石斧	変成岩	最大長: 7.3 △ 最大幅: 3.5 最大厚: 2.0	小型の磨製石斧刃部。基部欠損。一部剥離。	26.5 △	
S291	C18 グリッド II層	2949	第134図 PL.99	凹石	角閃石安山岩	最大長: 15.2 最大幅: 11.9 最大厚: 5.2	楕円形を呈す凹石。両面に敲打によるくぼみ。	1083.00	
S292	F19 グリッド 造成土	2229	第135図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 3.55 最大幅: 1.8 △ 最大厚: 0.4	大型で細身のサヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠く。	2.28 △	
S293	C16 グリッド 遺構外	2758	第135図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.7 最大幅: 1.4 最大厚: 0.2	小型のサヌカイト製凹基無茎石鍬。挟り浅い。完形。	0.45	
S294	F19 グリッド 造成土	2229	第135図 PL.96	石鍬	サヌカイト	最大長: 1.9 最大幅: 1.25 △ 最大厚: 0.35	サヌカイト製凹基無茎石鍬。かえり部一部欠く。	0.53 △	

表 51 2区出土石製品観察表(6)

遺物 番号	遺構 区 地層位名	取り上げ 番号	挿図 PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S295	遺構外	3433	第 135 図 PL.96	石鎌	サヌカイト	最大長 : 1.25 最大幅 : 1.25 △ 最大厚 : 0.3	小型のサヌカイト製凹基無茎石鎌。かえり部一部欠く。	0.58 △	
S296	E15 グリッド 遺構外	2767	第 135 図 PL.96	石鎌	サヌカイト	最大長 : 2.1 最大幅 : 1.7 最大厚 : 0.5	厚手のサヌカイト製平基無茎石鎌。完形。	1.82	
S297	遺構外	3433	第 135 図 PL.96	石鎌	サヌカイト	最大長 : 1.8 最大幅 : 1.4 △ 最大厚 : 0.2	薄手のサヌカイト製平基無茎石鎌。一部欠く。	0.59 △	
S298	C16 グリッド 遺構外	2758	第 135 図 PL.96	石鎌	サヌカイト	最大長 : 2.6 最大幅 : 1.1 △ 最大厚 : 0.35	細長のサヌカイト製平基無茎石鎌。一部欠く。	0.99 △	
S299	E20 グリッド 遺構外	2500	第 135 図 PL.95	石鎌	黒曜石	最大長 : 2.5 最大幅 : 1.5 最大厚 : 0.4	細身の黒曜石製凹基無茎石鎌。	1.28	
S300	遺構外		第 135 図	石鎌	黒曜石	最大長 : 2.4 △ 最大幅 : 1.6 最大厚 : 0.35	黒曜石製凹基無茎石鎌。かえり部一部欠く。	1.24 △	
S301	E15 グリッド 遺構外	2767	第 135 図 PL.95	石鎌	サヌカイト	最大長 : 2.1 最大幅 : 1.7 最大厚 : 0.5	黒曜石製木の葉形石鎌。完形。	1.64	
S302	D21 グリッド 遺構外	2897	第 136 図 PL.99	磨製 石斧転用敲石	閃緑岩	最大長 : 10.1 最大幅 : 5.2 最大厚 : 3.7	刃部が欠損した磨製石斧を転用した敲石。	285.00	
S303	B17 グリッド 遺構外	2663	第 136 図	砥石	頁岩	最大長 : 5.5 最大幅 : 3.5 最大厚 : 1.6	小型でやや厚手の隅丸長方形を呈す。砥面は全面で、擦痕明瞭に残る。	66.00	
S304	C18 グリッド 遺構外	2928	第 136 図 PL.98	石鎌	硬質安山岩	最大長 : 18.3 △ 最大幅 : 11.9 △ 最大厚 : 3.0	刃部の一部を欠く石鎌。	769.00	
S305	B18 グリッド 遺構外	2815	第 136 図 PL.98	石鎌	硬質安山岩	最大長 : 17.6 △ 最大幅 : 10.9 △ 最大厚 : 3.0	石鎌基部。刃部欠く。	633.5 △	

第4章 2区の調査成果

表52 2区出土木製品観察表

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ番号	挿図 PL	種類	樹種	法量 (cm)	手法上の特徴	備考
W1	G20 遺構外	2868	第125図 PL.84	漆器椀	広葉樹	器高：1.7△ 底径：9.0※	外面：体部黒漆塗り。底部轆轤引き痕あり。 内面：見込み黒漆地に朱漆による文様。	
W2	B20 木器溜り1	2132	第125図 PL.84	桶椀	スギ	最大長：50.0 最大幅：15.8 最大厚：1.9	桶椀側板。下端部欠損。上端がやや広がる。外面やや湾曲するが、内面は平滑。	
W3	B20 木器溜り1	2108	第125図 PL.84	桶椀	スギ	最大長：75.4 最大幅：16.9 最大厚：1.5	桶椀側板。上下端一部欠損。上端がやや広がる。外面やや湾曲するが、内面は平滑。下端部内面底板設置痕あり。	
W4	B20 木器溜り1	2109	第125図 PL.84	桶底	スギ	最大長：61.5 最大幅：18.5 最大厚：2.7	桶底材。やや楕円形状を呈す。側面に目釘2箇所あり。内外面平滑。	

表53 2区出土金属製品観察表

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ番号	挿図 PL	種類	法量 (cm)	特徴	備考
C1	遺構外	2457	第137図 PL.93	天禧通宝	最大長：2.7 最大幅：2.5 最大厚：0.12	初鑄年 1017年。北宋	磨輪銭。
C2	遺構外	2903	第137図 PL.93	皇宋通宝	最大長：3.2 最大幅：3.2 最大厚：0.11	初鑄年 1038年。北宋	
C3	遺構外	2452	第137図 PL.93	皇宋通宝	最大長：3.1 最大幅：3.1 最大厚：0.12	初鑄年 1038年。北宋	
C4	遺構外	2624	第137図 PL.93	皇宋通宝	最大長：3.3 最大幅：3.3 最大厚：0.12	初鑄年 1038年。北宋	
C5	遺構外	2573	第137図 PL.93	嘉祐元宝	最大長：3.0 最大幅：3.0 最大厚：0.15	初鑄年 1056年。北宋	
C6	遺構外	2671	第137図 PL.93	熙寧元宝	最大長：3.0 最大幅：3.0 最大厚：0.15	初鑄年 1068年。北宋	
C7	遺構外	2488	第137図 PL.93	元豊通宝	最大長：3.2 最大幅：3.1 最大厚：0.13	初鑄年 1078年。北宋	
C8	遺構外	2042	第137図 PL.93	元豊通宝	最大長：3.1 最大幅：3.1 最大厚：0.13	初鑄年 1078年。北宋	
C9	遺構外	2439	第137図 PL.93	元豊通宝	最大長：3.2 最大幅：3.2 最大厚：0.14	初鑄年 1078年。北宋	
C10	遺構外	2251	第137図 PL.93	元祐通宝	最大長：3.2 最大幅：3.0△ 最大厚：0.11	初鑄年 1078年。北宋	
C11	遺構外	2629	第137図 PL.93	嘉定通宝	最大長：3.1 最大幅：3.1 最大厚：0.15	背十・四。初鑄年 1208年。南宋	
C12	遺構外	2439	第137図 PL.93	紹定通宝	最大長：3.1 最大幅：3.1 最大厚：0.11	背二。初鑄年 1228年。南宋	
C13	遺構外	2287	第137図 PL.93	洪武通宝	最大長：2.9 最大幅：2.8 最大厚：0.16	初鑄年 1368年。明	
B1	遺構外	2405	第137図 PL.93	煙管雁首	最大長：4.25 最大幅：1.35 重さ：4.93g	段をもつ。	銅製か。
B2	遺構外	2445	第137図 PL.93	煙管吸口	最大長：4.5 最大幅：0.9 重さ：3.07g	段をもつ。	銅製か。
B3	遺構外	2267	第137図 PL.93	煙管雁首	最大長：4.4 最大幅：1.0 重さ：5.79g		真鍮製か。
B4	遺構外	2567	第137図 PL.93	煙管吸口	最大長：6.4 最大幅：0.9 重さ：5.44g		真鍮製か。

第5章 自然科学分析

第1節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡における放射性炭素年代測定（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

殿河内上ノ段大ブケ遺跡は、鳥取県西伯郡大山町殿河内912に所在し、下市川下流域左岸の河岸段丘面に立地する。測定対象試料は、土器溜り1出土土器付着炭化物（1456：IAAA-112333）、SI1出土木炭（1767-1：IAAA-112334、1767-2：IAAA-112335）、SI5黒褐色土出土木炭（1768：IAAA-112336）、SI4-P2出土木炭（1769：IAAA-112337）の合計5点である（表56）。

1456は土器の口縁部内面に付着し、その付着状況はタール状と観察されている。「おこげ」と推定されているが、その由来は不明である。1767-1、1767-2は竪穴住居跡SI1の床面を被覆する埋土に含まれていた木炭細片のうちの2片である。1768は竪穴住居跡SI5の床面を被覆する黒褐色土に含まれていた木炭の1片である。1769は竪穴住居跡SI4の柱穴P2の埋土中から出土した木炭である。住居跡床面は弥生時代後期の河川SD1によって削られているが、柱穴埋土は残存していた。1456は炭化物が付着した土器の特徴から縄文時代後期初頭から前葉頃と推定される。また、出土土器の様相から、1767-1、1767-2、1769も同じ時期、1768は後期初頭と推定されている。試料の状態と採取に関するデータを表1に、写真を文末の図版に示した。

表54 1区年代測定試料

測定番号	試料名	試料形態	採取位置・量	色調	状態	付着物	残試料	備考
IAAA-112333	1456	土器付着炭化物	炭化物1辺7mm 1個、1辺2mm 5個のうち、1辺7mm 1個を採取。	黒色	乾	なし	あり	口縁部内面付着。「おこげ」（タール状）。
IAAA-112334	1767-1	木炭	木炭1辺5mm 5個のうち、1個を採取。	黒色	乾	表面一部に土	あり	
IAAA-112335	1767-2	木炭	木炭1辺5mm 4個のうち、1個を採取。	黒色	乾	表面一部に土	あり	
IAAA-112336	1768	木炭	木炭1辺8mm 3個、炭化物1辺5mm以下3個のうち、木炭1辺8mm 1個の一部を採取。	黒色	乾	表面一部に土	あり	
IAAA-112337	1769	木炭	木炭20×10×10mmの一部を採取。	黒色	やや湿	表面全体に土	あり	

2 測定の意義

1456の測定により、土器の絶対年代を得ることで、土器編年に暦年代のものさしを与える。1767-1、1767-2、1768、1769の測定により、遺跡内に位置する複数の住居跡の前後関係および集落の継続期間を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、

超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 57 に記載する。

- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 57)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 2 に、補正していない値を参考値として表 3 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。pMC が小さい (¹⁴C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (¹⁴C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 57 に、補正していない値を参考値として表 58 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1 \sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2 \sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ¹⁴C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ¹⁴C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料中の炭素が大気中の二酸化炭素に由来すると考えられる試料に対して IntCal09 データベースを、大気中の二酸化炭素とは由来の異なる炭素を含むと考えられる試料に対して Marine09 データベースを用い (Reimer et al. 2009)、いずれも OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk

Ramsey 2009) を使用して較正年代を算出することとした。このため、土器付着炭化物 1456 は土器で調理された内容物に海産物が含まれる場合を想定し、IntCal09 と Marine09 の両方による算出結果を示し、その他の試料については IntCal09 により暦年較正を行った。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表3に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の¹⁴C年代は、土器溜1出土土器付着炭化物 1456 が 4010 ± 20 yrBP、SI1 出土木炭 1767-1 が 3200 ± 20 yrBP、1767-2 が 3820 ± 30 yrBP、SI5 黒褐色土出土木炭 1768 が 3930 ± 20 yrBP、SI4-P2 出土木炭 1769 が 3890 ± 20 yrBP である。SI1 の床面を被覆する埋土から出土した 1767-1 と 1767-2 の間には明瞭な年代差が認められる。

1456 の暦年較正年代 (1 σ) は、IntCal09 による値が 2567 ~ 2486cal BC の間に 2 つの範囲、Marine09 による値が 2116 ~ 2021cal BC の範囲となっており、前者は縄文時代中期末葉から後期初頭頃、後者は後期前葉頃に相当する。 $\delta^{13}\text{C}$ 値は $-25.09 \pm 0.54\%$ で、C3 植物やそれを食べる草食動物などの範囲に含まれ、海産物の影響は特に認められない。ただし、「おこげ」には複数のものが混ざっている可能性があるため、この試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値はそれらの平均値と考えられ、1種類の $\delta^{13}\text{C}$ 値との対比で由来を特定できるとは限らない点に注意を要する。また、AMS による $\delta^{13}\text{C}$ 値は十分正確でなく、厳密な議論は質量分析計による値に基づいて行う必要がある。このように、海洋リザーバー効果の影響については明らかでないが、 $\delta^{13}\text{C}$ 値から 100% 海産物由来の炭素とは考え難いため、Marine09 による年代値をそのまま採用することは難しく、より IntCal09 による暦年代範囲に近づいたところに真の値があると考えるのが妥当と見られる。土器の特徴から推定される時期とおおよそ矛盾しない。

IntCal09 によるその他の試料の暦年較正年代 (1 σ) は、1767-1 が 1496 ~ 1448cal BC の範囲、1767-2 が 2294 ~ 2205cal BC の範囲、1768 が 2474 ~ 2349cal BC の間に 3 つの範囲、1769 が 2458 ~ 2341cal BC の範囲で示され、1767-1 が縄文時代後期中葉から後葉頃、1767-2 が後期前葉頃、1768、1769 が後期初頭から前葉頃に相当する。SI1 については、出土土器の特徴から縄文時代後期初頭から前葉と推定されることを前提にすると、1767-2 が妥当な年代値と見られ、1767-1 は混入の可能性を考慮して検討する必要がある。1768、1769 は土器から推定される時期と整合的な値と考えられる。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 55 1 区放射性炭素年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-112333	1456	土器溜り1	土器付着炭化物	AAA	-25.09 ± 0.54	$4,010 \pm 20$	60.74 ± 0.19
IAAA-112334	1767-1	SI1	木炭	AAA	-26.23 ± 0.45	$3,200 \pm 20$	67.12 ± 0.20
IAAA-112335	1767-2	SI1	木炭	AAA	-30.65 ± 0.36	$3,820 \pm 30$	62.15 ± 0.19
IAAA-112336	1768	SI5 黒褐色土	木炭	AAA	-26.83 ± 0.37	$3,930 \pm 20$	61.32 ± 0.19
IAAA-112337	1769	SI4-P2	木炭	AAA	-26.29 ± 0.43	$3,890 \pm 20$	61.65 ± 0.19

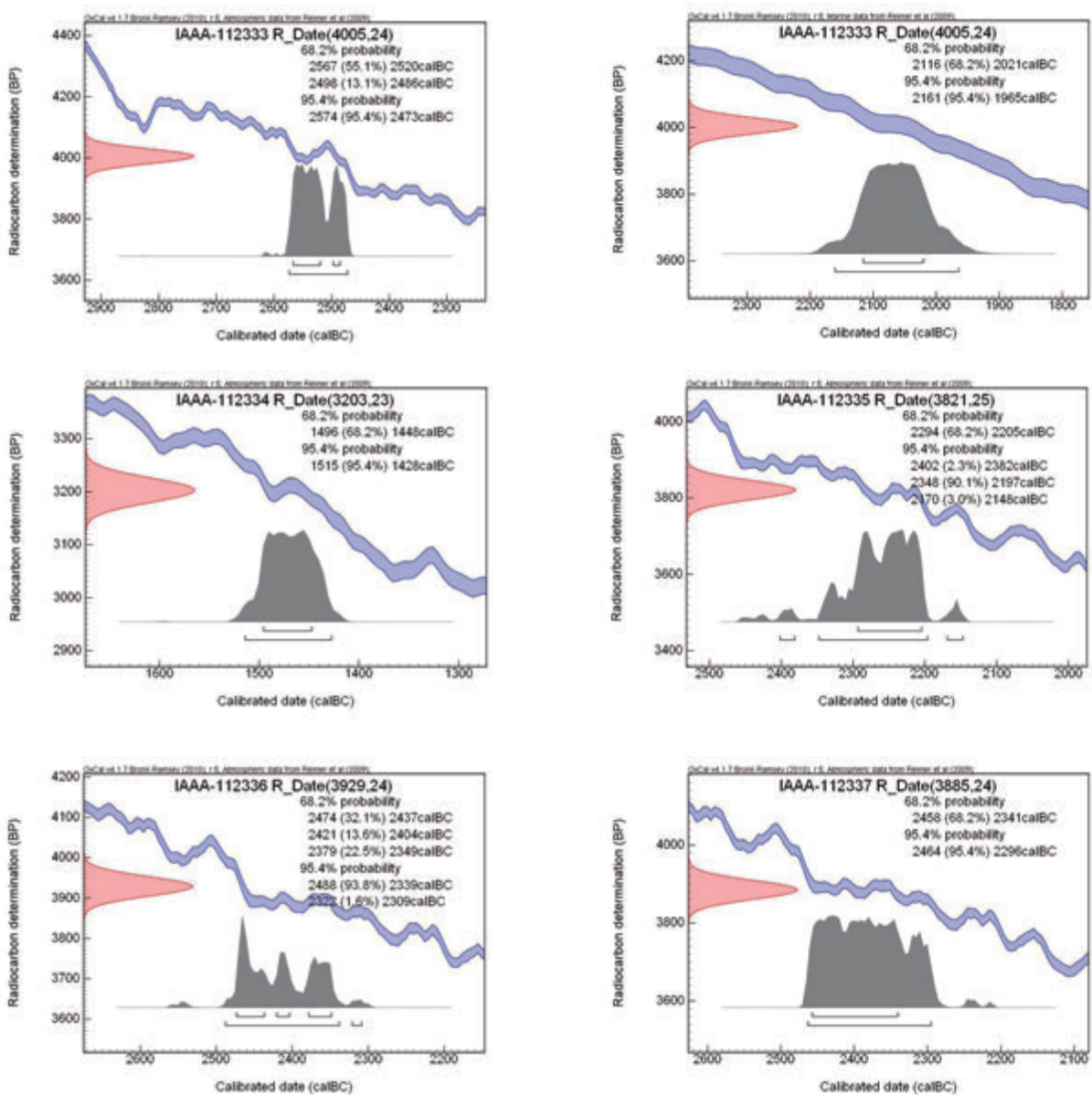
[# 4845]

表 56 1区暦年較正年代

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-112333	4,010 \pm 20	60.73 \pm 0.17	4,005 \pm 24	2,567calBC-2,520calBC (55.1%)	2,574calBC-2,473calBC (95.4%)
				2,498calBC-2,486calBC (13.1%)	
				2,116calBC-2,021calBC (68.2%)*	
IAAA-112334	3,220 \pm 20	66.95 \pm 0.19	3,203 \pm 23	1,496calBC-1,448calBC (68.2%)	1,515calBC-1,428calBC (95.4%)
IAAA-112335	3,910 \pm 20	61.43 \pm 0.19	3,821 \pm 25	2,294calBC-2,205calBC (68.2%)	2,402calBC-2,382calBC (2.3%) 2,348calBC-2,197calBC (90.1%) 2,170calBC-2,148calBC (3.0%)
IAAA-112336	3,960 \pm 20	61.09 \pm 0.18	3,929 \pm 24	2,474calBC-2,437calBC (32.1%)	2,488calBC-2,339calBC (93.8%) 2,322calBC-2,309calBC (1.6%)
				2,421calBC-2,404calBC (13.6%)	
				2,379calBC-2,349calBC (22.5%)	
IAAA-112337	3,910 \pm 20	61.49 \pm 0.18	3,885 \pm 24	2,458calBC-2,341calBC (68.2%)	2,464calBC-2,296calBC (95.4%)

[参考値]

* OxCal v4.1.7 Bronk Ramsey (2010) にて Marine09 marine curve (Reimer et al 2009) を使用し marine100% で較正



参考] 暦年較正年代グラフ (IAAA-112333 は左が InrCal09、右が Marine09 による暦年較正の結果を示す)

第138図 1区暦年較正結果

【文献】

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51 (4), 1111-1150/1767-2 1769 1767-1 1768



1456



1767-1



1767-2



1768



1769

第139図 1区測定対象試料

第2節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡出土試料自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

殿河内上ノ段大ブケ遺跡は、下市川左岸の河岸段丘上にある、縄文時代から中世にかけての集落遺跡である。今回は、SK17の年代を知る目的で放射性炭素年代測定を、流路の古環境を知る目的で、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を実施する。

1 試料

試料は、SK17（土器溜り）の1～3層の各層から採取された炭質物3点（取上 No. 3397、3353、3398）である。取上 No. 3397 は、微細な炭化材片と由来不明の炭質物とが土壤に付着した状態である。可能な限り土壤を外し、炭化材片と炭質物を集めて試料とした。取上 3353 は、土壤塊に炭質物が付着した状態である。炭質物の由来は不明である。土壤を可能な限り外して試料とした。取上 No. 3398 は炭化材である。全量を測定試料とした。試料の状況を表 57 に記す。

珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析は、流路1および流路2のⅡ-3層、流路1および流路2のⅡ-4層より各1点の計4点である。同一層位の試料であるが、珪藻分析は順に試料番号1～4、花粉分析は5～8、植物珪酸体分析は（試料番号9～11）の試料名がふつである。

2 分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定に供する各試料の状況を記載し、写真撮影を行う。試料に土壤や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1 g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃ で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1 mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3 MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシェウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に ¹³C/¹²C の測定も行うため、この値を用いて δ¹³C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma; 68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 珪藻分析

湿重約5gの試料をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4~5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努めた。

珪藻の同定と種の生態性については、Hustedt(1930-1966)、Horst Lange-Bertalot(2000)、Krammer & Lange-Bertalot(1985~1991)、Desikachary(1987)などを参考にした。

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水~汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類し表に示した。また、化石種(絶滅種)については、生存期間(時代)について示した。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が100個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成した。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、2%以上の出現率を示す分類群についてのみ表示した(図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち1%以下の種を、○印は総数100個体未満の場合の産出を示す)。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示した。

(3) 花粉分析

試料約10gについて、フッ化水素酸による泥化、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman(1952、1957)、Faegri and Iversen(1989)などの花粉形態に関する文献や、島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。また、残渣量や花粉化石の保存状態等の情報についても記録する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数

から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(4) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物 1 g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1 g あたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g 未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は 10 の位で丸める。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化から古植生について検討するために、植物珪酸体含量を図示する。

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果を表 58、第 140 図に示す。炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果は、取上 No. 3397 が $2,920 \pm 30BP$ 、取上 No. 3353 が $2,770 \pm 30yBP$ 、取上 No. 3398 が $7,880 \pm 30BP$ であった。また、測定誤差を 2σ で計算した暦年較正結果（確率 1）は、取上 No. 3397 が cal BC1,212-1,015、取上 No. 3353 が cal BC979-836、取上 No. 3398 が cal BC6,829-6,637 である。

SK17（土器溜まり）は、出土土器から縄文時代晩期前半の年代が推定されている。西日本では、縄文時代晩期の年代に関する資料が少ないが、東日本の測定事例では、cal BP3,220~2,350 の値が推定されている（小林、2008）。今回測定を実施した各試料の暦年代（calBP）をみると、取上 No. 3397 と取上 No. 3353 は、縄文時代晩期前半の年代を示しており、調査所見とも調和的である。一方、取上 No. 3398 は、縄文時代早期に相当する年代値が得られている。取上 No. 3398 については、古い時期の炭化材の混入などが疑われる。今後、同層準の炭化物等を用いて、年代測定データを増やして検証することが必要である。

表 57 2区年代測定試料

No.	遺構	層位	取上 No.	種類	心・辺材	状態	重量	試料の大きさ	色	乾湿	付着物の有無	残試料
1	SK17	1層	3397	炭質物	-	炭質物 + 土壌	2 g	-	黒	乾燥	有（土壌）	有（土壌）
2	SK17	2層	3353	炭質物	-	炭質物 + 土壌	2 g	-	黒	微湿	有（土壌）	有（土壌）
3	SK17	3層	3398	炭化材	不明	炭化材	0.4g	0.8 × 0.4 × 0.2cm	黒	乾燥	有（土壌）	無

(2) 珪藻分析

結果は、表 59・60、第 141 図に示した。以下、その特長を試料毎に述べる。

試料番号 1（Ⅱ - 3 層）には、ある程度の量の珪藻化石が含まれており、200 個体以上が検出された。検出された分類群は、淡水生種を主体に、極低率に淡水～汽水生種を伴っている。本試料は、淡

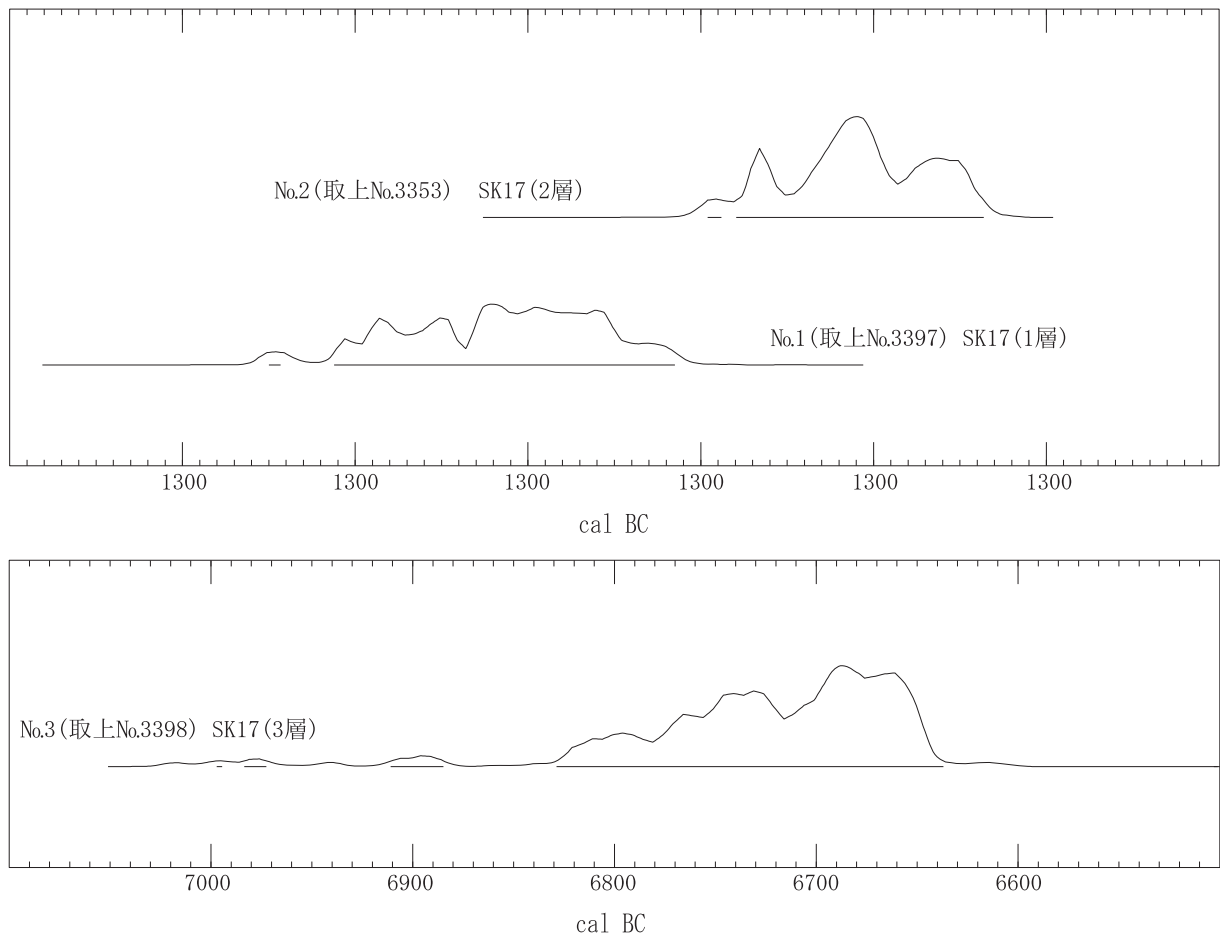
表 58 2区放射性炭素年代測定結果

試料 No. 遺構 層位	種類	処理 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code No.
						誤差	cal BC/AD		cal BP	
No. 3397 SK17 1層	炭質物	AaA	2,920 ± 30	-25.06 ± 0.39	2,920 ± 30 (1,526 ± 22)	σ	cal BC 1,191 - cal BC 1,177	cal BP 3,140 - 3,126	0.099	IAAA- 123408
							cal BC 1,160 - cal BC 1,144	cal BP 3,109 - 3,093	0.124	
						2 σ	cal BC 1,131 - cal BC 1,050	cal BP 3,080 - 2,999	0.778	
							cal BC 1,250 - cal BC 1,243	cal BP 3,199 - 3,192	0.010	
No. 3353 SK17 2層	炭質物	AaA	2,800 ± 30	-26.86 ± 0.48	2,770 ± 30 (1,526 ± 22)	σ	cal BC 971 - cal BC 960	cal BP 2,920 - 2,909	0.107	IAAA- 123409
							cal BC 934 - cal BC 893	cal BP 2,883 - 2,842	0.602	
						2 σ	cal BC 876 - cal BC 847	cal BP 2,825 - 2,796	0.291	
							cal BC 996 - cal BC 988	cal BP 2,945 - 2,937	0.018	
No. 3398 SK17 3層	炭質物	AAA	7,920 ± 30	-27.95 ± 0.47	7,880 ± 30 (1,526 ± 22)	σ	cal BC 6,766 - cal BC 6,765	cal BP 8,715 - 8,714	0.013	IAAA- 123410
							cal BC 6,754 - cal BC 6,718	cal BP 8,703 - 8,667	0.319	
						2 σ	cal BC 6,712 - cal BC 6,649	cal BP 8,661 - 8,598	0.668	
							cal BC 6,997 - cal BC 6,994	cal BP 8,946 - 8,943	0.002	
						2 σ	cal BC 6,983 - cal BC 6,972	cal BP 8,932 - 8,921	0.007	
							cal BC 6,911 - cal BC 6,885	cal BP 8,860 - 8,834	0.021	
cal BC 6,829 - cal BC 6,637	cal BP 8,778 - 8,586	0.971								

- 1) 処理方法の AAA は、酸処理-アルカリ処理-酸処理を示す。アルカリ濃度が 1N 未満の場合は AaA と表記している。
- 2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- 3) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68.3%、2 σ は 95.4% である
- 9) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

水生種が最優占種群 (100 個体以上検出) であることから、淡水生の群集の生態学的特徴 (3 適応性: 塩分・pH・流水) について整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれたほうがよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いあるいは低いといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域であることが多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。結果は、貧塩-不定性種が優占しており、全体の 90% 以上を占めている。他は、貧塩-嫌塩性種と貧塩-好塩性種がそれぞれ 3% 程度の産出率を示している。次に pH に対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。結果は、アルカリ性種が約 80% を占めており、その他は、不定性種と酸性種がそれぞれ 10% 前後産出している。

流水に対する適応性は、流れのある水域の基物 (岩石・大型の藻類・水生植物など) に付着生育する種群であり、特に常時流のあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。結果は、流水不定性種が優占し、全体の約 60% を占めている。他は、



第140図 2区暦年較正結果（確率分布： 2σ ）

好止水性種が20%程度認められる以外、流水性種が20%弱の産出率を示している。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、本試料では、ほとんどが水生珪藻であり、陸生珪藻は数%しか認められない。

多産または特徴的に認められた種は、淡水生種で流水性種の *Cocconeis placentula* var. *euglypta*、*Cocconeis placentula* var. *lineata*、流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Cocconeis placentula*、*Fragilaria ulna*、止水性種の *Achnanthes crenulata* 等である。

試料番号2には、多くの珪藻化石が含まれており、200個体以上が検出された。検出された分類群は、淡水生種を主体に、低率に淡水～汽水生種、極低率に汽水生種を伴っている。本試料は、淡水生種が最優占種群のため、3適応性（塩分・pH・流水）について整理すると、以下のような傾向が認められる。塩類濃度に対する適応性については、貧塩-不定性種が優占しており、70%強を占めている。他は、貧塩-好塩性種が約10%、貧塩-嫌塩性種が約15%、貧塩-不明種が約5%の産出率を示している。pHに対する適応性は、アルカリ性種が約60%を占めている他は、不定性種と酸性種がそれぞれ20%程度産出している。流水に対する適応性は、止水性種が優占しており、全体の48%を占めている。その他は、流水不定性種が約40%、流水性種が10%程度の産出率を示している。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、97%が水生珪藻であり、陸生珪藻は極低率にしか認められない。

表 59 2区珪藻分析結果(1)

種 類	生態性			環境 指標種	流路1 II-3層 No.1	流路2 II-3層 No.2	流路1 II-4層 No.3	流路2 II-4層 No.4
	塩分	pH	流水					
Nitzschia sicula (Castracane) Hustedt	Euh			A	-	1	-	-
Diploneis smithii (Breb. ex W.Smith) Cleve	Euh-Meh			E2	-	1	-	-
Navicula peregrina var. hankensis Skvortzow	Meh			E1orE2	-	1	-	-
Nitzschia obtusa var. scapelliformis Grunow	Meh			E2	-	1	-	-
Opephora martyi Heribaud	Meh			D1	-	-	1	-
Opephora olsenii Moeller	Meh			D1	-	-	2	-
Fragilaria construens fo. subsalina (Hust.) Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	D1-E1	-	3	-	11
Navicula coconeiformis Gregory	Ogh-Meh	ind	r-ph	O,U	-	1	-	-
Pseudostaurosira brevistriata (Grun.) Williams & Round	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	-	16	-	2
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	3	3	-	6
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	22	1	-	5
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	-
Achnanthes japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,T	1	-	-	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	-	1	1
Amphora inariensis Krammer	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	27	3	9	6
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	2	1
Anomoeoneis brachysira (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,T	-	1	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	-	31	-	-
Aulacoseira crassipunctata Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	M,U	-	1	-	-
Aulacoseira distans (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	-	2	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	4	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	1	-	-
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	2
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	3	1	-	1
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	1	1	1	2
Caloneis silicula var. intermedia A.Mayer	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	-	-	1
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	1
Cocconeis disculus (Schumann) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi		-	-	1	-
Cocconeis neodiminuta Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	1	-
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	25	3	24	7
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	8	-	17	-
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	23	3	31	2
Craticula cuspidata (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	13	1	-	1
Cymbella affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-
Cymbella amphicephala Naegeli	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-	-
Cymbella heteropleura var. minor Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	-
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	1	-	-	-
Cymbella minuta Hilse ex Rabenhorst	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	2	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	3	-	2
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	1	1	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	3	-	2	-
Diatoma hyemale var. mesodon (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1	-	-	-
Diploneis finnica (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	1	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	-	3
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	1	1	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	2	-
Encyonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	1	-	-
Encyonema silesiacum (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	3	6	4	-
Epithemia turgida var. westermanni (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1
Epithemia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-
Eunotia diodon Ehrenberg	Ogh-hob	ac-bi	ind	O,U	-	1	-	-
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O,U	1	-	-	-
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	-	-
Eunotia lunaris (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-
Eunotia pectinalis (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	-	3	-	5
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	8	1	22
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	2
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	5	3
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-
Fragilaria capucina var. gracilis (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	-	-
Fragilaria capucina var. rumpens (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	3	-	-
Fragilaria leptostauron (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	21	3	21	6
Fragilaria ulna var. arcus (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	-	-
Fragilaria vaucheriae (Kuetzing) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	5	6	11
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-
Fragilariforma bicapitata (A.Mayer) Williams & Round	Ogh-hob	ind	l-bi	O	-	1	-	1
Fragilariforma virescens var. exigua (Grun.) Poulin	Ogh-ind	ind	l-ph	U	4	3	-	6
Frustulia rhomboides (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P	-	1	-	-
Frustulia rhomboides var. saxonica (Rabenh.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-
Frustulia vulgaris (Thwaites) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Geissleria ignota (Krasske) Lange-Bertalot et Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Gomphonema angustum C.Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	2	-	6
Gomphonema clavatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	1	6	2
Gomphonema clevei var. inaequilongum H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	U	1	-	-	-
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1	1	3

第5章 自然科学分析

表 60 2区珪藻分析結果(2)

種 類	生態性			環境 指標種	流路1 II-3層 No.1	流路2 II-3層 No.2	流路1 II-4層 No.3	流路2 II-4層 No.4
	塩分	pH	流水					
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	3	7	4	22
Gomphonema pumilum (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	1	-	1
Gomphonema sphaerophorum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	1	2	3
Karayevia clevei (Grun.) Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	3	-
Lemnicola hungarica (Grun.) Round & Basson	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Luticola mutica (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RAS	1	1	-	3
Melosira varians C.Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	-	1	-	1
Meridion circulare var. constrictum (Ralfs) Van Heurck	Ogh-ind	al-bi	r-bi	K,T	2	1	3	11
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RBS	1	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	2	-	5
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-
Navicula rhynchocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	1	-	2
Neidium dubium (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	1	-	-
Neidium iridis (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	1	-	-
Neidium productum (W.Smith) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	1	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	-	3	3	13
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	1	3	-	8
Pinnularia braunii (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	-	1	-	-
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O	1	1	-	-
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-
Pinnularia divergens var. decrescens (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	-
Pinnularia divergens var. elliptica (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind	O	-	1	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	2	2	-	-
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	1	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	7	2	-	3
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	1	-	1
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RBS	-	2	-	1
Pinnularia subrupestris Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	1	-	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	N,O,U	-	1	-	-
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	N,O,U	3	1	2	1
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1	1	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		4	2	12	3
Planothidium lanceolatum (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	3	-	4
Reimeria sinuata (Greg.) Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	32	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lang-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	1	-	1
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind	O,U	-	2	-	4
Sellaphora americana (Ehr.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	1	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	-	3	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	1	-	-	-
Stauroneis kriegeri Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	-	1	-	-
Stauroneis nobilis Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	-	2	-	1
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1	-	-
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	-
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2
Stausira construens Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	2	-	-
Stausira construens var. venter (Ehr.) Hamilton	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	17	-	-
Surirella linearis W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	1
Surirella ovata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1
Surirella robusta Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi		-	1	-	-
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
Tabellaria fenestrata (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T	-	1	-	-
Tabellaria flocculosa (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	1	-	-
海水生種					0	1	0	0
海水～汽水生種					0	1	0	0
汽水生種					0	2	3	0
淡水～汽水生種					3	23	0	19
淡水生種					209	208	202	201
珪藻化石総数					212	235	205	220

凡例

塩分：塩分濃度に対する適応性
 Euh：海水生種
 Euh-Meh：海水生種・汽水生種
 Meh：汽水生種
 Ogh-Meh：淡水生種・汽水生種
 Ogh-hil：貧塩好塩性種
 Ogh-ind：貧塩不定性種
 Ogh-hob：貧塩嫌塩性種
 Ogh-unk：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
 al-bi：真アルカリ性種
 al-il：好アルカリ性種
 ind：pH不定性種
 ac-il：好酸性種
 ac-bi：真酸性種
 unk：pH不明種

流水：流水に対する適応性
 l-bi：真止水性種
 l-ph：好止水性種
 ind：流水不定性種
 r-ph：好流水性種
 r-bi：真流水性種
 unk：流水不明種

環境指標種

A：外洋指標種 B：内湾指標種 C1：海水藻場指標種 C2：汽水藻場指標種 D1：海水砂質干潟指標種 D2：汽水砂質干潟指標種
 E1：海水泥質干潟指標種 E2：汽水泥質干潟指標種 F：淡水底生種群 (以上は小杉, 1988)
 G：淡水浮遊生種群 H：河口浮遊性種群 J：上流性河川指標種 K：中～下流性河川指標種 L：最下流性河川指標種群 M：湖沼浮遊性種
 N：湖沼沼沢地指標種 O：沼沢湿地付着生種 P：高層湿原指標種群 Q：陸域指標種群 (以上は安藤, 1990)
 S：好汚濁性種 U：広適応性種 T：好清水性種 (以上は Asai & Watanabe, 1995) R：陸生珪藻 (RA：A群, RB：B群, RI：未区分、伊藤・堀内, 1991)

多産または特徴的に認められた種は、淡水～汽水生種の *Pseudostaurosira brevistriata*、淡水生種で止水性種の *Aulacoseira ambigua*、*Staurosira construens* fo. *venter* 等である。

試料番号3には、比較的多くの珪藻化石が含まれており、200個体以上が検出された。検出された分類群は、淡水生種を主体に、極低率に汽水生種を伴っている。本試料は、淡水生種が最優占種群のため、3適応性（塩分・pH・流水）について整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。塩類濃度に対する適応性については、貧塩－不定性種が優占しており、全体の約90%を占めている。他は、貧塩－不明種が10%の産出率を示している。pHに対する適応性は、アルカリ性種が約65%を占めており、その他は、不定性種が25%、不明種が約10%産出している。流水に対する適応性は、流水が最も優占しており、全体の約50%を占めている。その他は、止水性種が37%程度認められる以外は、止水性種が3%程度、不明種が10%程度の産出している。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、98%が水生珪藻であり、陸生珪藻は2%しか認められない。

多産または特徴的に認められた種は、淡水生種で流水性種の *Cocconeis placentula* var. *euglypta*、*Cocconeis placentula* var. *lineata*、*Reimeria sinuata*、流水不定性種の *Cocconeis placentula*、*Fragilaria ulna* 等である。

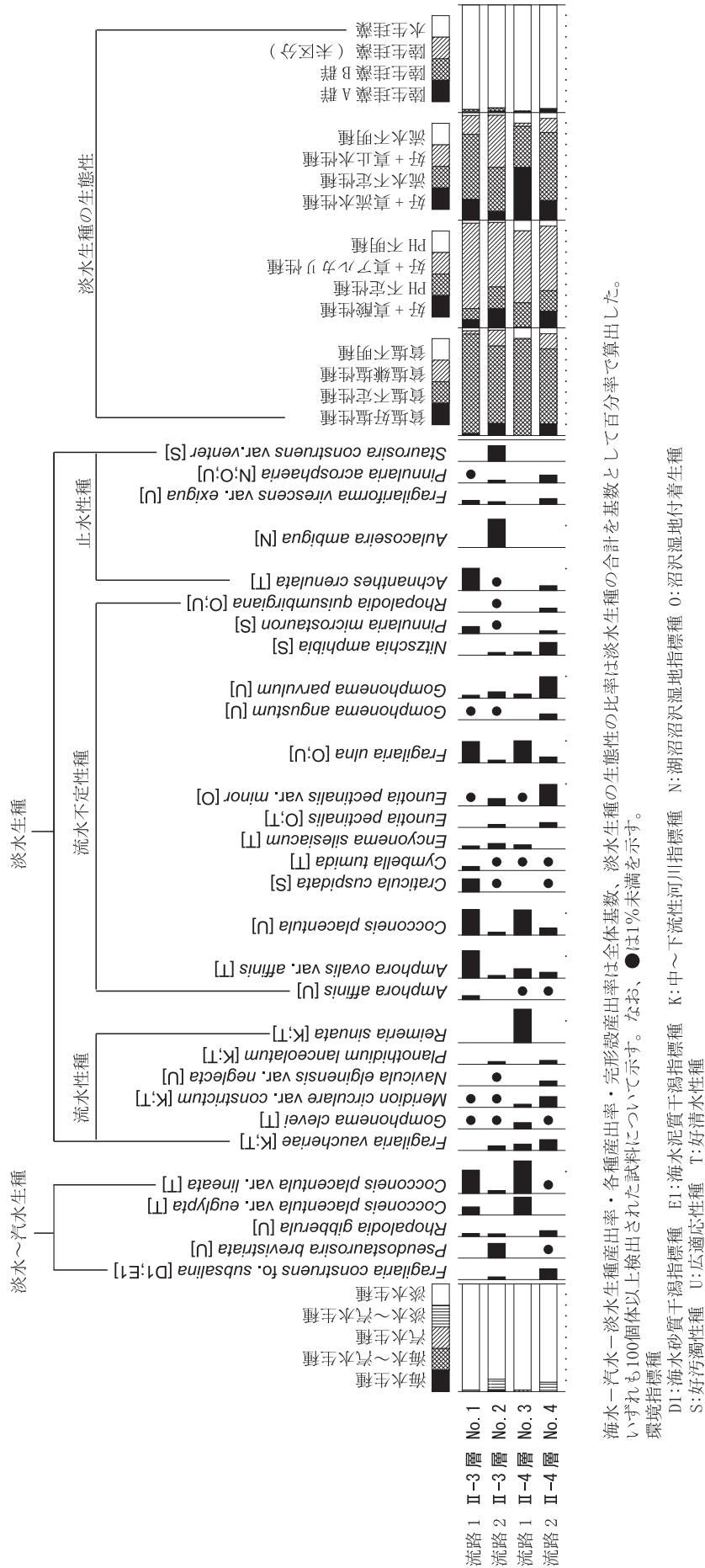
試料番号4は、ある程度の量の珪藻化石が含まれており、200個体以上が検出された。検出された分類群は、淡水生種を主体に、低率に淡水～汽水生種を伴っている。本試料は、淡水生種が最優占種群のため、3適応性（塩分・pH・流水）について整理すると、以下のような傾向が認められる。塩類濃度に対する適応性については、貧塩－不定性種が約70%を占めている。その他は、貧塩－好塩性種が約10%、貧塩－嫌塩性種が約15%、貧塩－不明種が約5%の産出率を示している。pHに対する適応性は、アルカリ性種が最も優占しており、58%を占めている。その他は、不定性種が約20%、酸性種が約15%程度産出している。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占し、約65%を占めている。その他は、流水性種が18%、止水性種が15%程度の産出率を示している。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、98%が水生珪藻であり、陸生珪藻は極低率にしか認められない。

多産または特徴的に認められた種は、淡水～汽水生種の *Fragilaria construens* fo. *subsalina*、淡水生種で流水性種の *Fragilaria vaucheriae*、*Meridion circulae* var. *constrictum*、流水不定性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Gomphonema parvulum*、*Nitzschia amphibia*、止水性種の *Fragilariforma virescens* var. *exigua*、*Pinnularia acrosphaeria*、*Staurosira construens* var. *venter* 等である。

(3) 花粉分析

結果を表61、第142図に示す。流路1および流路2のⅡ－3層（試料番号5、6）と流路1および流路2のⅡ－4層試料番号7、8で、花粉化石の産状が大きく異なる。試料番号5、6では花粉化石が豊富に産出し、保存状態も良好である。検出される花粉化石は2試料とも類似しており、木本花粉ではマツ属が最も多く産出し、次いでモミ属が多く認められる。その他ではツガ属、スギ属、ブナ属、コナラ属、ニレ属－ケヤキ属等を伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科等を伴う。多産するイネ科花粉中にはイネ属型も検出され、イネ科花粉に占めるイネ属型の割合は、試料番号5で約38.4%、試料番号6で約48.0%であった。

試料番号7、8では、花粉化石はほとんどあるいは全く検出されず、試料番号7からはシダ類胞子が、試料番号8からはモミ属、マツ属、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科等の木本花粉、イ



海水～汽水生種産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満を示す。

環境指標種

D1: 海水砂質干潟指標種 E1: 海水泥質干潟指標種

S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種

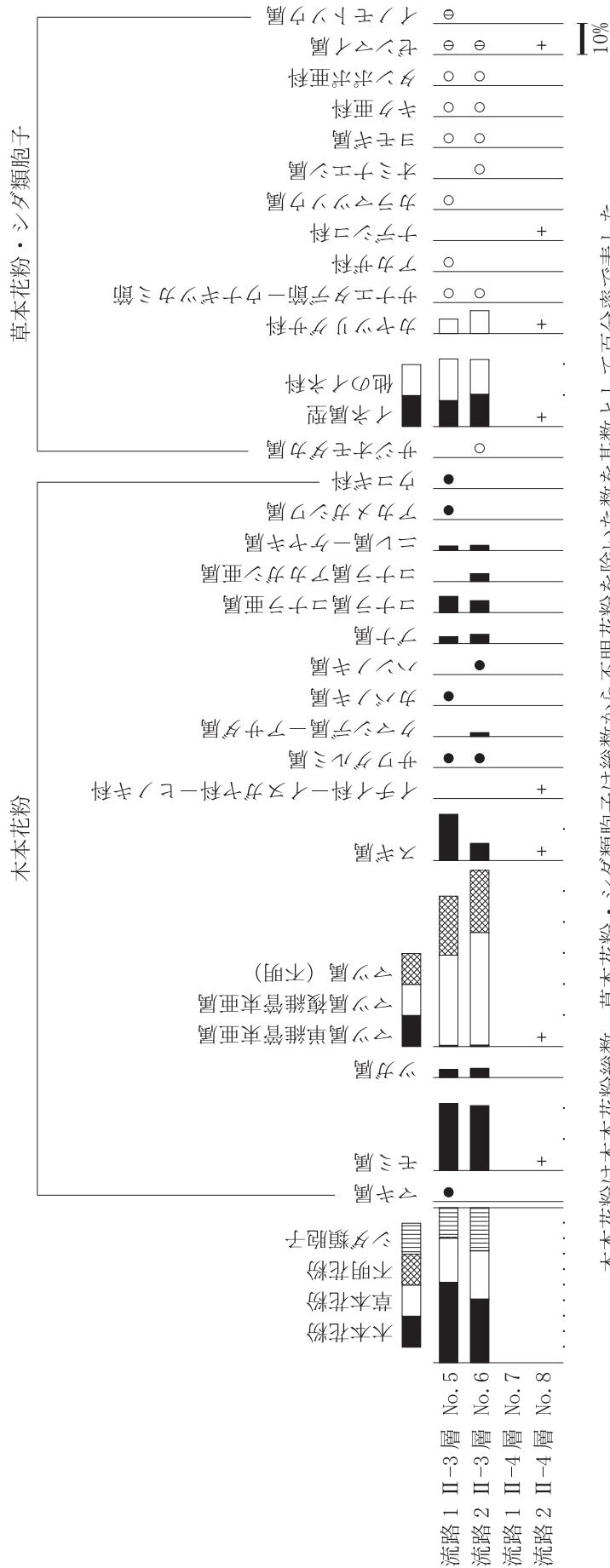
K: 中～下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢地指標種 O: 沼沢地付着生種

第141図 2区主要珪藻化石群集

表 61 2区花粉分析結果

種 類	流路1	流路2	流路1	流路2
	Ⅱ-3層	Ⅱ-3層	Ⅱ-4層	Ⅱ-4層
	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8
木本花粉				
マキ属	2	-	-	-
モミ属	58	49	-	2
ツガ属	7	7	-	-
マツ属単維管束亜属	1	1	-	-
マツ属複維管束亜属	78	85	-	3
マツ属(不明)	51	47	-	4
スギ属	40	13	-	3
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	1
サワグルミ属	2	2	-	-
クマシデ属-アサダ属	-	3	-	-
カバノキ属	2	-	-	-
ハンノキ属	-	1	-	-
ブナ属	6	7	-	-
コナラ属コナラ亜属	14	9	-	-
コナラ属アカガシ亜属	-	6	-	-
ニレ属-ケヤキ属	4	4	-	-
アカメガシワ属	2	-	-	-
ウコギ科	1	-	-	-
草本花粉				
サジオモダカ属	-	1	-	-
イネ属型	43	59	-	-
他のイネ科	69	64	-	6
カヤツリグサ科	24	42	-	3
サナエタデ節-ウナギツカミ節	1	2	-	-
アカザ科	1	-	-	-
ナデシコ科	-	-	-	1
カラマツソウ属	1	-	-	-
オミナエシ属	-	1	-	-
ヨモギ属	2	2	-	-
キク亜科	3	1	-	-
タンポポ亜科	3	5	-	-
不明花粉				
不明花粉	3	1	-	-
シダ類孢子				
ゼンマイ属	3	3	-	1
イノモトソウ属	2	-	-	-
他のシダ類孢子	94	155	1	13
合 計				
木本花粉	268	234	0	13
草本花粉	147	177	0	10
不明花粉	3	1	0	0
シダ類孢子	99	158	1	14
合計(不明を除く)	514	569	1	37

ネ科、カヤツリグサ科、ナデシコ科等の草本花粉が、わずかに認められるのみである。検出された花粉化石の保存状態は、試料番号5、6と比較すると悪い。なお、試料番号8からは、微細な炭化植物片(微粒炭)などの有機物残渣が認められたが、試料番号7では無機物残渣が多量に含まれるのみで、有機物残渣はほとんど検出されなかった。



第142図 2区花粉化石群集の層位分布

表 62 2区植物珪酸体含量

分類群	流路1	流路2	流路1	流路2
	II-3層 No. 9	II-3層 No.10	II-4層 No.11	II-4層 No.12
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	2,500	3,000	-	200
クマザサ属	2,900	4,100	300	1,800
タケ亜科	10,200	9,900	700	1,900
ヨシ属	2,300	1,900	-	700
ウシクサ族ススキ属	100	-	-	<100
イチゴツナギ亜科	200	-	-	<100
不明	3,200	3,200	200	1,800
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	6,300	8,000	-	2,300
クマザサ属	9,600	8,600	400	2,100
タケ亜科	9,800	9,900	600	1,900
ヨシ属	3,200	1,400	-	800
ウシクサ族	-	-	-	<100
不明	4,200	4,900	400	1,200
合計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	21,500	22,100	1,300	6,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	33,100	32,900	1,400	8,200
植物珪酸体含量	54,600	55,000	2,700	14,800

含量は、10の位で丸めている（100単位にする）
<100：100個/g未満

個/g、機動細胞珪酸体が約8,000個/gである。

流路1および流路2のII-4層（試料番号11、12）では、試料番号9や10よりも植物珪酸体含量が少なく、試料番号11が約2,700個/g、試料番号12が約14,800個/gである。試料番号11では、検出される分類群数が少なく、タケ亜科などが見られるに過ぎない。試料番号12では試料番号9や10と同様な産状が見られ、クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。またイネ属も産出し、葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。その含量は、短細胞珪酸体が約200個/g、機動細胞珪酸体が約2,300個/gである。

4 考察

(1) 堆積環境について

流路1の試料番号1（II-3層）の中で、多産または特徴種の生態性を述べる。まず、流水性種の *Cocconeis placentula* var. *euglypta* および *Cocconeis placentula* var. *lineata* は、河川等の流水域の基物（礫等）に大型の藻類と共に付着生育する種である。Asai and Watanebe (1995) は、清浄な水域に生育する種であることから、好清水性種としている。流水不定性種の、*Amphora ovalis* var. *affinis* は、環境に対する適応能力が高い種であり、基本的に淡水生であるが、汽水～淡水のさまざまな環境の水域から認められる。また、殻のシリカに沈着が厚く、堆積後も特に化石として残りやすい種である。流水不定性種の *Cocconeis placentula* は、比較的広範な水域に認められ、広域適応種として認識されている。*Fragilaria ulna* は、貧塩不定性、好アルカリ性および流水不定であり、広域頒布種の一種で広範のさまざまな水域から比較的、高率に見出される。さらに、止水性種の *Achnanthes crenulata* は、貧塩不定、好アルカリ性および好止水性であるが、貧塩好塩—中塩性とし、淡水層から汽水層に認められるとする報告もある（安藤・南雲、1983）。なお、本試料については、比較的、産出種数が多く、極端に多産または卓越した種（20%以上）は認められない。そのため、それぞれの種の産出率は分散

(4) 植物珪酸体分析

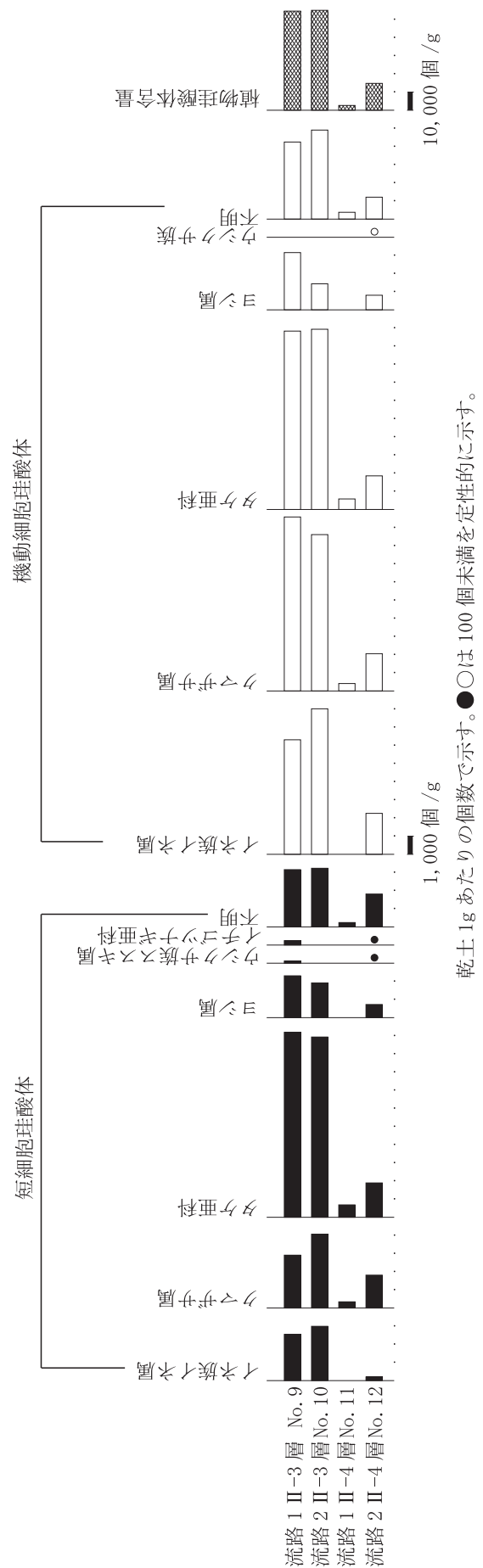
結果を表62、第143図に示す。

流路1および流路2のII-3層（試料番号9、10）では植物珪酸体含量が多く、約55,000個/gである。クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、各試料からは栽培植物であるイネ属も産出し、葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。その含量は、試料番号9の短細胞珪酸体が約2,500個/g、機動細胞珪酸体が約6,300個/g、試料番号10の短細胞珪酸体が約3,000

した感がある。このような群集は、概ね混合群集と考えられる。よって、以上のようなやや卓越した種群の生育環境と混合群集であることを考え合わせると、本試料の堆積時の環境は、基本的には水深の浅い水域であったが、緩やかな水の流れのある流水域の環境下にあったものと推定される。

流路2の試料番号2（Ⅱ-3層）で検出された種類のうち、前述していない種を中心に述べる。淡水～汽水生種の *Pseudostaurosira brevistriata* は、富栄養水域の沿岸部に認められるとされる（Van Landingham, 1970；田中・中島, 1985）他、塩分濃度12～2パーミル程度の水域の泥底に付着生活する種群で淡水の影響により汽水化した塩性湿地に生活することが多く汽水泥質干潟指標種群とする研究者もある（小杉, 1988）。淡水生種で止水性種の *Aulacoseira ambigua* は、浮遊性で富栄養の池・湖の沿岸等に多いとされる（Hustedt, 1930）。また、安藤（1990）によると、湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着性種としても優勢な出現がみられるが、これらの地域以外のところでみられることは希であることから、湖沼、沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。なお、本種は好アルカリとされているが、現生の調査の結果、弱酸性水域に特徴的に認められることが少ない。そのため、基本的に広域適応種であるものの、好酸性の種である可能性がある。さらに、止水性種の *Staurosira construens* var. *venter* は、一般に貧栄養の水域に広く分布する（Patrick and Reimer, 1975）とされる。また、Krammer and Lange-Bertalot（1990）によれば、やや貧栄養な水域でフミン酸濃度の低下した水域（湿原などで腐食を生成するような水域）に認められるとされる。以上のような多産種の生態性と認められた群集の構成から、本試料の堆積時は、水が停滞したことにより水中の塩類濃度が高くなり、後背湿地のような環境下にあったものと推定される。

流路1の試料番号3（Ⅱ-4層）で検出される特



長的な種類を述べる（前述していない種）。流水性種とした *Reimeria sinuata* は、安藤（1990）によれば河川の中～下流域に特徴的に認められることから、中～下流河川指標種群とされる。本種以外の多産種は、前述のⅡ－3層とほぼ同様である。よって、多産種と他の種群を合わせた群集は、本層準では、河川等の流水域に付着生育する流水性種が高率に認められたことから、定常的に流れのある水域（流路）であったものと推定される。

流路2の試料番号4（Ⅱ－4層）で検出される特長的な種類を述べる（前述していない種）。まず、淡水～汽水生種の *Fragilaria construens* fo. *subsalina* は、水中の塩類濃度が高まった水域に生育する種とされる（Krammer and Lange-Bertalot, 1991）。本種は、*Fragilaria brevistriata* に伴って沿岸部の後背湿地や汽水域などで多産する場合が多い。次に淡水生種で流水性種の *Fragilaria vaucheriae* は、安藤（1990）によれば、河川の中～下流部、すなわち、河川沿いに河成段丘、扇状地、自然堤防および後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現し、他の地域には出現しなかったり、出現しても主要でないことから、この地域を指標する可能性が大きい種群とされ、中～下流河川指標種群と呼ばれる。同じく流水性種の *Meridion circularae* var. *constrictum* は、河川等の流水域に生育する種であり、中～下流河川指標種群と呼ばれる（安藤、1990）。中～下流河川指標種群は、河川の中～下流部、すなわち、河川沿いに河成段丘、扇状地、自然堤防および後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現し、他の地域には出現しなかったり、出現しても主要でないことから、この地域を指標する可能性が大きい種群とされ、中～下流河川指標種群とされている。さらに、流水不定性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor* は、普通の水域にも認められるが湿地に多産する種とされる（埼玉県教育委員会、1962）。*Gomphonema parvulum* は、流水に対して不定だけでなく、塩分濃度やpHに対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そのため、Asai and Watanabe（1995）は、広域適応種としている。ただし、経験的には、流水域に多産することが多いことから、以前は流水性種に含められていた種である。*Nitzschia amphibia* は、淡水域でも水の出入りが少なく淀んだ水域に生育していることが多く、Asai & Watanabe（1995）は、好汚濁性種としている。止水性種の *Fragilariforma virescens* var. *exigua* は、流水あるいはpHに対しては、不明な点も多い種であるが、水中の塩類濃度が高まった水域に認められとされる（Krammer and Lange-Bertalot, 1991）。多産する場所は、内陸では排水の悪い湿地、沿岸部では後背湿地に優占種として認められる。止水性種の *Pinnularia acrosphaeria* は、湿地や池沼、湖の沿岸部に見られるとされる（Patrick and Reimer, 1966）が、通常、湿地に爆発的に発生することが多い種である。以上のような多産種の生態性と認められた群集の構成から、本試料の堆積時は、基本的には後背湿地様の環境下にあったものと思われるが、中央付近には水の流れが存在したものと推定される。

（2）古植生について

流路1および流路2のⅡ－4層（試料番号7、8）では、花粉化石がほとんど検出されなかった。花粉化石の産出が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。流路1のⅡ－4層をみると、分析残渣に有機物がほとんど検出されない。珪藻分析の結果をみると、流水生種が多産することから、堆積物中に花粉やシダ類胞子が取り込まれにくかった可能性がある。一方、流路2では花粉化石の保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが認められた。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村、

1967；徳永・山内、1971；三宅・中越、1998 など)。これらのことから、流路2のⅡ－4層では、取り込まれた花粉が経年変化により分解・消失したと推測される。

植物珪酸体も、Ⅲ－4層で少なく、Ⅲ－3層で多い傾向がある。さらに、植物珪酸体で検出されるいずれの種類も増減に正の相関があり、植物珪酸体含量が多い試料では全ての種類で多く、少ない試料では全て種類で少なくなっている。このことから、植物珪酸体の増減は、堆積機構などの化石化の過程に由来すると考えられる。今回植物珪酸体の保存状態が概して悪かった。植物珪酸体は、土壌の風化によって溶解する可能性が指摘されている（近藤、1988）ほか、pH値が高い場所や乾湿を繰り返すような場所において風化が進みやすいと考えられている（江口、1994、1996）。今回調査した各土層でも植物珪酸体の風化の進行状況の違いにより、植物珪酸体量が変化した可能性がある。

このため、Ⅱ－4層における古植生を示す情報は少ないが、Ⅱ－3層で多産する種類が少ないながらも検出されており、Ⅱ－3層とさほどかわらない植生であったと考えられる。

Ⅱ－3層（試料番号5、6）は花粉群集が類似しており、木本類ではマツ属が最も多く産出する。このうち亜属まで同定できたものの多くは、複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸砂丘上など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な陽樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。調査地点は、海岸に近いことから、海岸植生や周囲の二次林として、マツ属が生育していたと考えられる。また、周辺ではモミ属、ツガ属等の針葉樹やコナラ属アカガシ亜属等の常緑広葉樹も分布し、河川沿いなどには、サワグルミ属、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属等が、後背の丘陵部などにブナ属、コナラ亜属等が分布した可能性がある。

草本群集についてみると、イネ科が多産し、次いでカヤツリグサ科が多く認められる。イネ科やカヤツリグサ科には、水湿地生植物も含まれるほか、流路2のⅡ－3層からは抽水～湿性のサジオモダカ属も検出されることから、これらが流路内やその周囲の湿地部に生育していたと考えられる。その他の草本類は、いずれも開けた明るい草地や林縁などに生育する種群が認められることから、遺跡内やその周囲の草地に由来すると思われる。一方、植物珪酸体からは、Ⅱ－3層は、クマザサ属をはじめとして、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科などイネ科植物の生育がうかがえる。

このような組成は、中国地方では近世以降にみられることから、近世以降の新しい堆積物（もしくは攪乱などにより近世遺構の影響を受けている堆積物）といえる。

栽培種をみると、花粉化石ならびに植物珪酸体からイネ属が検出される。水田跡の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている（杉山、2000）。ただし、明確な水田跡が検出されている層準であっても、堆積環境や稲作の様態により、数千～数百個/g程度の含量に止まる場合もある。一方イネ属型花粉も多く含まれており、イネ科花粉中におけるイネ属型の割合は、約38～48%と高い値であった。このことから、Ⅱ－3層には稲粃、稲藁、もしくは水田耕土が流入したと考えられる。一方、Ⅱ－4層からもイネ属の植物珪酸体が検出されており、当時の稲作が推測される。

【引用文献】

- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.
- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *東北地理*, 42 (1990), 73 ~ 88, aNN. Tohoku Geogr. Assoc.
- 安藤一男・南雲 保, 1983, 埼玉県, 荒川低地沖積層のケイソウ. *日本歯科大学紀要*, 1983 (12), 241-249.
- Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at T.T. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates : 401-621.
- 江口誠一, 1994, 沿岸域における植物珪酸体の分布千葉県小櫃川河口域を例にして. *植生誌研究*, 2, 19-27.
- 江口誠一, 1996, 沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物の pH 値. *ペドロジスト*, 40, 81-84.
- Erdtman G., 1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). *Almqvist&Wiksell*, 539p.
- Erdtman G., 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p.
- Feagri K. and Iversen Johs., 1989, Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p.
- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. *アクアコーラル企画*, 155p.
- Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA : Annotated diatom micrographs. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219 plts. 4504 figs, 925 pgs.
- Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
- Hustedt, F., 1937-1938, Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ III . *Arch. Hydrobiol. Suppl.*, 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.
- Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
- Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討 ——陸生珪藻の細分——. *日本珪藻学会第10回大会講演要旨集*, 17.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. *日本珪藻学誌*, 6, 23-44.
- 近藤錬三, 1988, 植物珪酸体 (Opal Phytolith) からみた土壌と年代. *ペドロジスト*, 32, 189-202.
- 近藤 錬三, 2010, *プラント・オパール図譜*. 北海道大学出版会, 387p.
- 小杉正人, 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望—. *植生史研究*, 1, 9-44.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *第四紀研究*, 27, (1), 1-20
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae. *Bibliotheca Diatomologica*, vol. 9, p. 250.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2 (1) : 876p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2 (2) : 596p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2 (3) : 576p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2 (4) : 437p.
- Lowe, R. L., 1974, Environmental requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. In *Environmental Monitoring Ser. EPA-670/4-74-005*. Nat. Environmental Res. Center office of Res. Develop. U. S. Environ. Protect. Agency. Cincinnati. 1-344.
- 三宅 尚・中越信和, 1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態. *植生史研究*, 6, 15-30.
- 中村 純, 1967, 花粉分析. *古今書院*, 232p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版). *大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集*, 91p.
- Patrick, R. and Reimer, C. W., 1966, The diatoms of the United States exclusive of Alaska and Hawaii. Vol. 1, 688p. *Monographs of Acad. Nat. Sci. Philadelphia* 13.

第5章 自然科学分析

Patrick, R. and Reimer, C. W., 1975, The diatoms of the United States exclusive of Alaska and Hawaii. Vol. 2, Part 1, 213p, Monographs of Acad.Nat. Sci. Philadelphia 13.

埼玉県教育委員会, 1962, 埼玉県植物誌. 埼玉県教育科学振興会, 289-313.

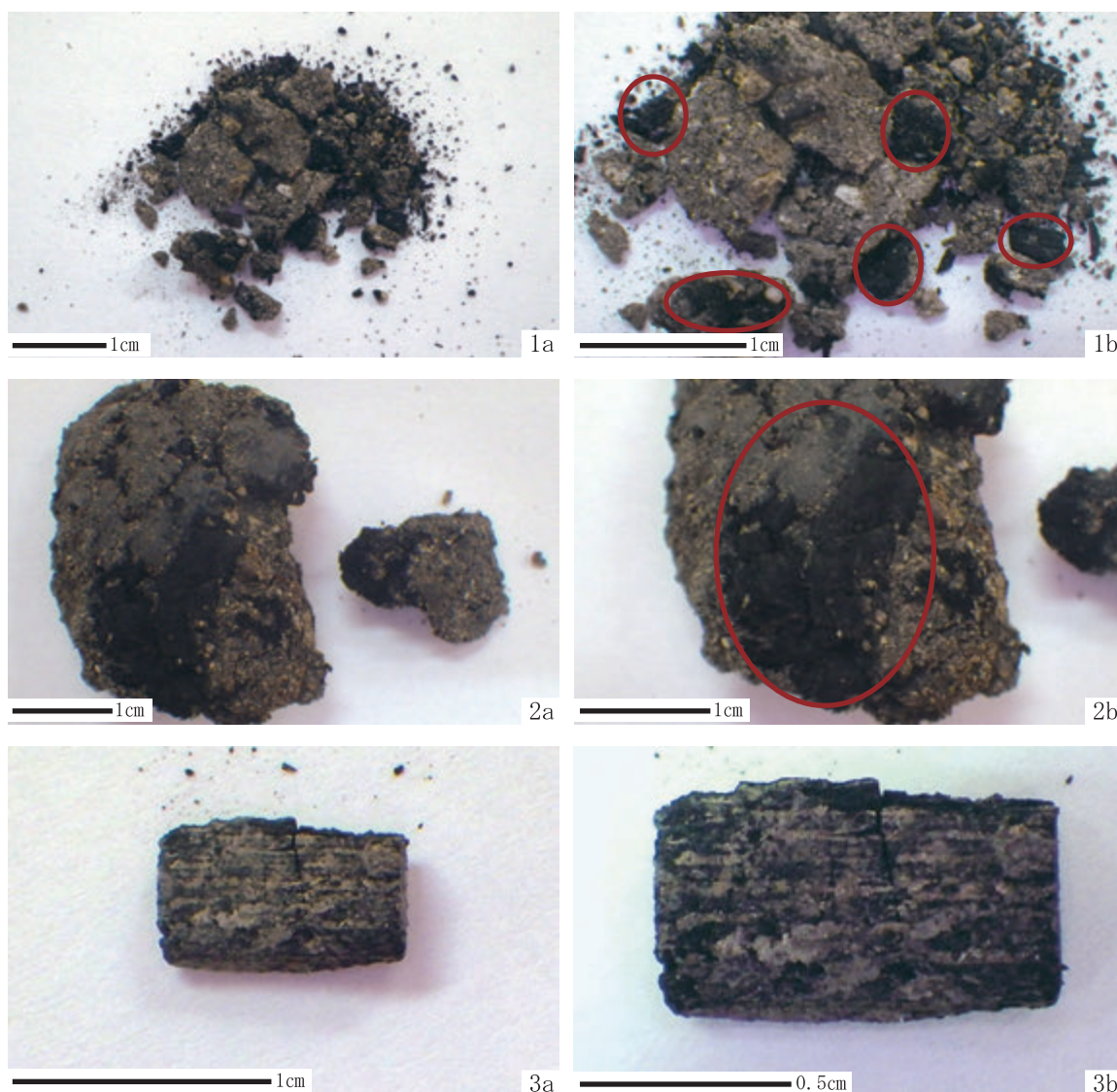
島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.

杉山真二, 2000, 植物珪酸体 (プラント・オパール). 辻 誠一郎 (編著) 考古学と自然科学 3 考古学と植物学, 同成社, 189-213.

田中宏之・中島啓治, 1985, 群馬県老神・奥平・梨木・嶺・赤久縄温泉及び福島県元温泉小屋温泉のケイソウ. 群馬県立博物館紀要, 1985 (6), 1-22.

徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・孢子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

Van Landingham, S.L., 1970, Origin of an early non-Marine Diatomaceae Deposit in Broad water County, Montana, U. S. A. Diatomaceae II Nova Hedwigia Heft 31, p. 449-473.



1. 取上No.3397

2. 取上No.3353

3. 取上No.3398

赤丸で囲った部分より測定試料を採取した。

第144図 2区年代測定試料

第6章 総括

第1節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の縄文時代集落について

1 はじめに

殿河内上ノ段大ブケ遺跡では、縄文時代早期から晩期にかけて、断続的に人間活動の痕跡があったことが判明した。なかでも、縄文時代後期初頭から前葉では、竪穴建物（住居）跡が5基検出されるなど、県内においても有数の縄文集落遺跡であったといえる。ただし、集落域全域が把握されたわけではないので、調査された範囲内で検討することとする。

ここでは、出土土器型式から【Ⅰ期】：縄文時代早期前半（神宮寺式併行）、【Ⅱ期】：早期末から前期初頭（黄島式から西川津式併行）、【Ⅲ期】：中期後葉から末葉（里木Ⅱ式から北白川C式併行）、【Ⅳ期】：縄文時代後期初頭（五明田式併行）、【Ⅴ期】：縄文時代後期初頭（鳥式併行）、【Ⅵ期】：縄文時代後期前葉（布勢式併行）、【Ⅶ期】：縄文時代後期前葉（崎ヶ鼻式併行）、【Ⅷ期】：縄文時代後期後葉（宮滝式併行）、【Ⅸ期】：縄文時代晩期前葉（磨研土器様式第2様式併行）、【Ⅹ期】：縄文時代晩期後葉（突帯文土器様式併行）に分けて集落の変遷をまとめてみたい。

2 集落の変遷について

【Ⅰ期】

この時期は、調査区内においては遺構の存在は確認されなかったが、遺物包含層を中心に神宮寺式のネガティブ楕円押型文土器が1区で1点、2区で1点出土している。出土量的に居住空間が形成されたとは考えにくく、遊動中の一時的な立ち寄りの場であった可能性がある。

【Ⅱ期】

この時期においても、遺物の出土のみで遺構は検出されなかった。黄島式の押型文（山形・ポジティブ楕円文）土器、高山寺式の大型で粗大なポジティブ楕円押型文が施される土器、菱根式と考えられる表裏縄文の繊維土器、西川津式と考えられる表裏条痕文土器がわずかに出土している。

この時期は、土器型式から見ても連続した型式ではなく、断続した型式の土器がかなりの時間幅をもって出土している。土器1型式に相当する遺物出土量も少ないことから、居住空間の形成は考えにくく、遊動中の一時的な立ち寄りが断続的に行われていたものと推定される。

【Ⅲ期】

前期初頭から空白期間があり、再び生活の痕跡が認められる時期である。この時期においても、遺物の出土のみで遺構は検出されなかった。里木Ⅱ式と考えられる縄文・撚糸文土器、北白川C式と考えられる土器片があり、この時期においても、土器1型式に相当する遺物出土量が少ないことから、居住空間の形成は考えにくく、遊動中の一時的な立ち寄りが、断続的に短期間行われたものと推定される。

【Ⅳ期】

後期初頭の空白期間があり（註1）、明瞭な集落が形成されるのが当該期である。この時期は、遺構、遺物の出土状況から、当遺跡で最も集落構造が捉えやすい時期である。なお、Ⅳ期からⅦ期にかけて

第6章 総括

は、土器型式としては連続しているが、実際の集落としては連続しないと考える。

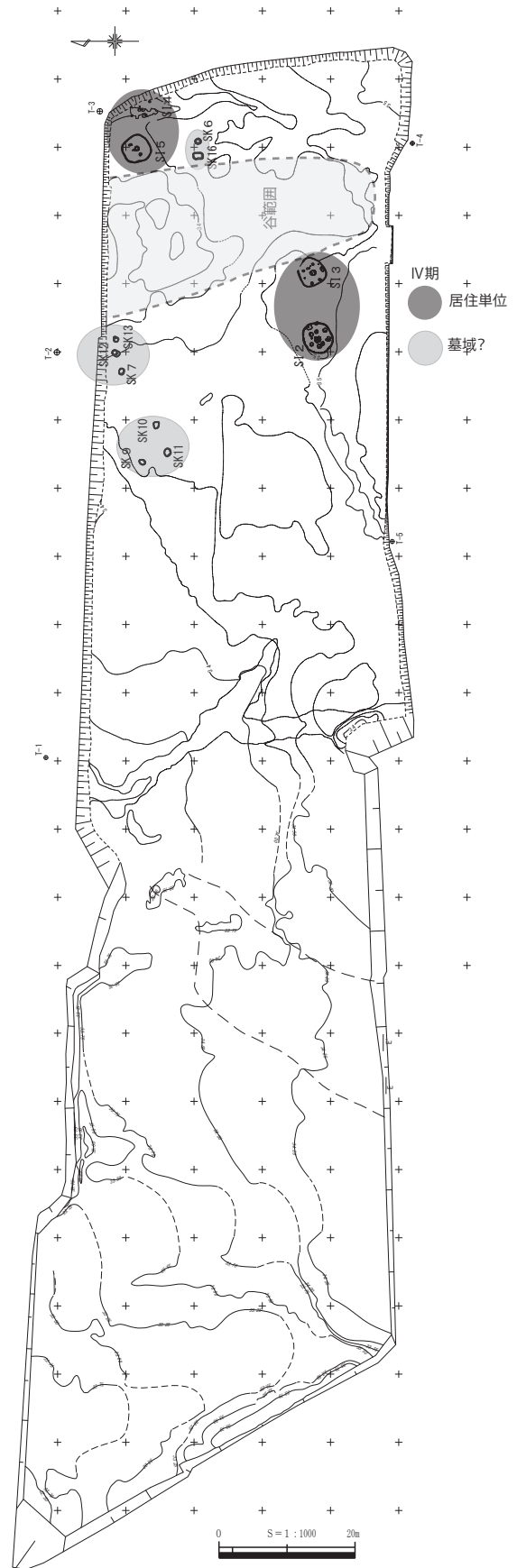
この時期の遺構は、竪穴建物 SI 2・3・5である。いずれも住居と考えられ、床面中央部に安山岩川原石を使用した、基本4石で構成される方形の石囲炉を備えていることが特徴である（註2）。詳細な時期は不明であるが、石囲炉をもつ SI 4もこの時期の可能性はある。

SI 2・3は、構造が類似しており、平面形は多角形で5本柱が基本となる。SI 4も柱穴の配置から復元すると、5本柱の可能性があろう。いずれの住居にも中央に石囲炉が設けられることが大きな特徴である。SI 2は2回の建て替えが認められ、4本柱から5本柱の建物に変遷する。それに対し、SI 5は隅丸方形で2本柱である。SI 2・4・5には床面中央部分に硬化面が形成される。なお、SI 5の石囲炉に接して掘方をもつ扁平な石材が横長に立てられており、明確な用途としては不明であるが、石囲炉を構成するものとして理解したい。

また、SI 3は廃絶後石囲炉の石材が抜き取られ、意図的に割られた土器が置かれた状態で検出されており、住居廃絶時の祭祀の可能性が考えられる。また、土器類の他に、祭祀用と考えられる両刃で細身の磨製石斧が出土している。

これらの住居が同時に存在していた確証はないが、それぞれが切り合うことなく存在することから、同時に建てられていた可能性が高いと考える。また、SI 2と3、SI 4と5は、それぞれ近接した状態で建てられていることから、2棟1対の集団単位の存在が窺われる。

住居以外の遺構については明確ではないが、1区北側で検出された土坑群が、布勢式以前と考えられることから、この時期に帰属する可能性がある。これらの土坑は、平面円形又は楕円形を呈し、規模は長軸0.9～1.4m、短軸0.7～0.8mを測り、深さは0.1～0.4mと浅い。底面はほぼ平坦となるものである。この土坑群は切り合うことなく、SK 7・12・13、SK 9～11、SK 6・16と2～3基が単位となるまとまりが3



第145図 遺跡変遷図(1)

箇所みられる。性格は不明であるが、土壙墓の可能性を考えたい。

集落の範囲としては、2区において当該期の遺構は検出されなかったが、土器がある程度出土しており、西側まで広がっている可能性がある。

この時期の集落は、SI 2のように建て替えが確認された住居跡が存在すること、土壙墓と推察される土坑が存在することから、この時期はある一定期間に亘って集落が造営（註3）されていたものと考えることが可能であろう。縄文集落が定静的なものか、季節性なものか厳密には判別はできないが、土坑群が墓であると考えた場合、一時的な移動はあった可能性があるが、居住単位を拠点に通年的に生活していたものと考えることが可能であろう。

なお、SI 4・5埋土出土炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、SI 4は較正值で $3,890 \pm 20\text{yrBP}$ 、SI 5は $3,930 \pm 20\text{yrBP}$ という値を得ており、それぞれほぼ近似する値であることから、福田K II式（古）段階の絶対年代を推定する上で、参考となるものであろう。

【V期】

当該期では、一定量の遺物の出土は見られるが、明瞭な遺構は1区のSD 3のみである。この溝の性格は不明であるが、ある程度の流水があったと考えられる。

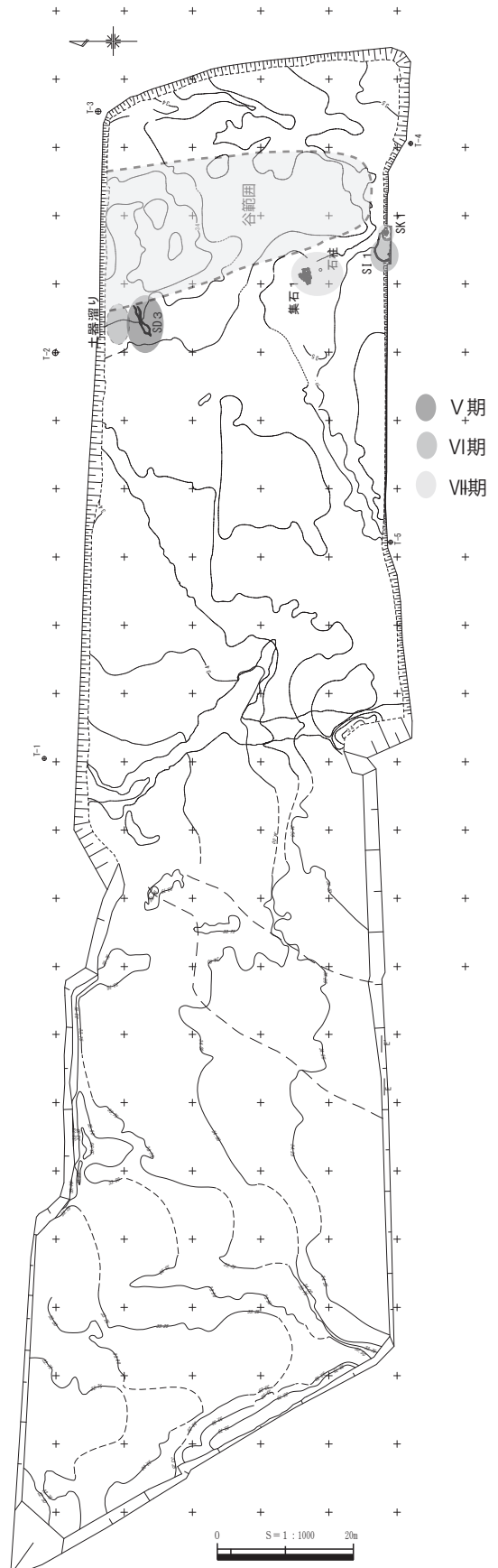
集落本体は、調査区周辺に移動していると考えられるが、2区側では当該期の遺物は検出されていないことから、集落はIV期同様、下市川寄りに営まれた可能性があり、遺物出土量の割合から見ると集落の規模は縮小しているものと推察される。

【VI期】

当該期になると、再び調査区域で集落が営まれるようであるが、調査範囲では竪穴建物は1区で検出したSI 1以外確認できなかった。

SI 1は、平面不整楕円形を呈し、支柱穴は貧弱な4本柱と推定される。中央部には硬化面が形成される。住居中央部の調査は行えなかったため、炉の有無は確認できていない。

その他の遺構としては、1区調査区北側で土器溜り1が検出されている他、2区においても土器が検出されて



第146図 遺跡変遷図(2)

第6章 総括

いることから、IV期同様の範囲で集落が形成されている可能性がある。集落本体としては、調査地の北・南側に展開するものとする。土器溜り1では、土器類のほかにサヌカイト製削器、楔形石器、黒曜石製石鏃が出土している。

なお、炭化物の放射性炭素年代測定によると、SI 1埋土出土炭化物は $3,820 \pm 30\text{yrBP}$ 、土器溜り1出土深鉢74付着炭化物は $4,010 \pm 20\text{yrBP}$ という年代値であった。深鉢74付着炭化物についてMarine09による暦年較正值が、2116～2021calBCとなり土器型式に近い値と考えられる。

【Ⅶ期】

この時期は、竪穴住居跡自体は検出されなかったが、1区において、祭祀関連遺構と考えられる集石遺構1、石柱1が検出された。集石遺構1は明確な掘り込みはないが、SI 3廃絶後に拳大から人頭大の円礫が本来は数段積まれていたものと思われる。近辺に、やはりSI 3廃絶後に石柱1が立てられていたと考えられる。また、詳細な時期は特定できないが、1区の土坑SK 1もこの時期の可能性があり、一体として祭祀関連の遺構が形成されていたものと考えられる。

その他、包含層からわずかではあるが当該期の土器片が出土していることから、調査区周辺（主に調査区南側）に集落が展開しているものと推定される。

【Ⅷ期】

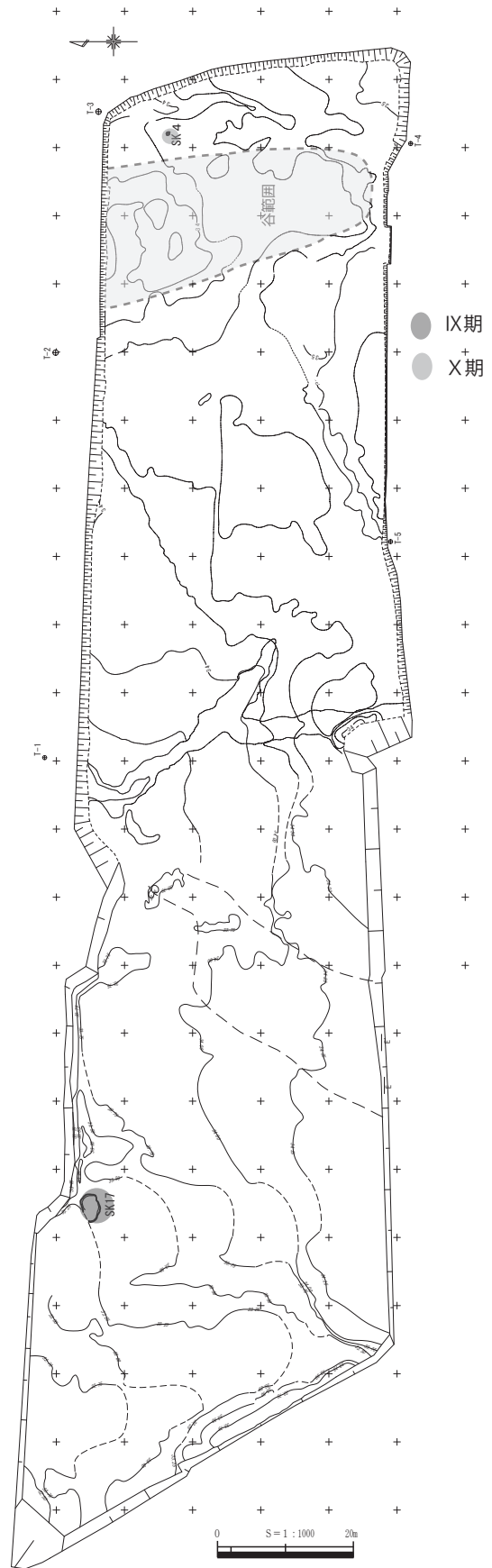
この時期は、2区において土器片のみが出土している。出土量もごくわずかで、集落が形成されていたとは考えにくく、一時的な立ち寄りの場であったものと考えられる。

【Ⅸ期】

この時期についても、竪穴住居跡は検出されていないが、わずかに2区の廃棄土坑SK17が検出された。出土遺物から濱田編年晩期Ⅲ期ごろのものと考えられ、前時期とは土器型式から見ても連続しない。調査区周辺に集落が展開しているものと推察される。

【Ⅹ期】

明確な遺構は、1区の土器埋設土坑SK 4のみである。SK 4の掘方は、ほぼ土器の形状に合わせて掘り込まれ



第147図 遺跡変遷図(3)

たもので、出土土器は、口縁部を欠くものの底部は完存し、砲弾形の底部の形状から突帯文期のものと推定されるものである。山田分類のI Aa 1類に分類されると思われる（山田2001）。住居跡からは遊離し、単独で存在することから、土器棺の可能性もある。1・2区合わせてこの時期に該当すると考えられる出土遺物（粗製土器）が最も多いことから、調査区周辺域で集落が営まれている可能性は高く、規模も最も大きくなっているものと思われる。当該期では、調査区内において圃場整備工事等の影響で遺構がほとんど遺存していないのが残念である。

なお、特筆される遺物として、古墳時代後期に完全に埋没している流路1から出土した人面土製品がある。帰属時期については不明な点があるが、流路1自体は縄文時代早期から埋没を繰り返し、人面土器が縄文時代晩期後葉（突帯文土器様式期）の遺物とともに出土していること、胎土が縄文土器のものに近いことから、縄文時代晩期まで遡る可能性を指摘しておきたい。

3 竪穴建物跡について

殿河内上ノ段大ブケ遺跡の竪穴建物跡についてみると、五明田式併行期の竪穴建物跡は、石囲炉を備え4～5本の主柱をもつ平面不整多角形を呈すもの（SI 2・3・4）と、石囲炉を備え2本の主柱をもつ平面不整楕円形を呈すもの（SI 5）に分類される。布勢式段階の竪穴住居跡は、不明瞭な平面形に不明瞭な柱穴をもつSI 1がある。

大山町域では、縄文時代の集落遺跡がわずかではあるが確認されている（第148図）。名和川の形成する段丘上にある南川遺跡、海岸に近い台地上にある大塚第3遺跡（註4）である。

南川遺跡では、五明田式併行の竪穴建物跡1基が調査されている。上部が削平されており、平面形及び規模は不明であるが、5石からなる石囲炉が検出されている。柱穴は明確ではない。

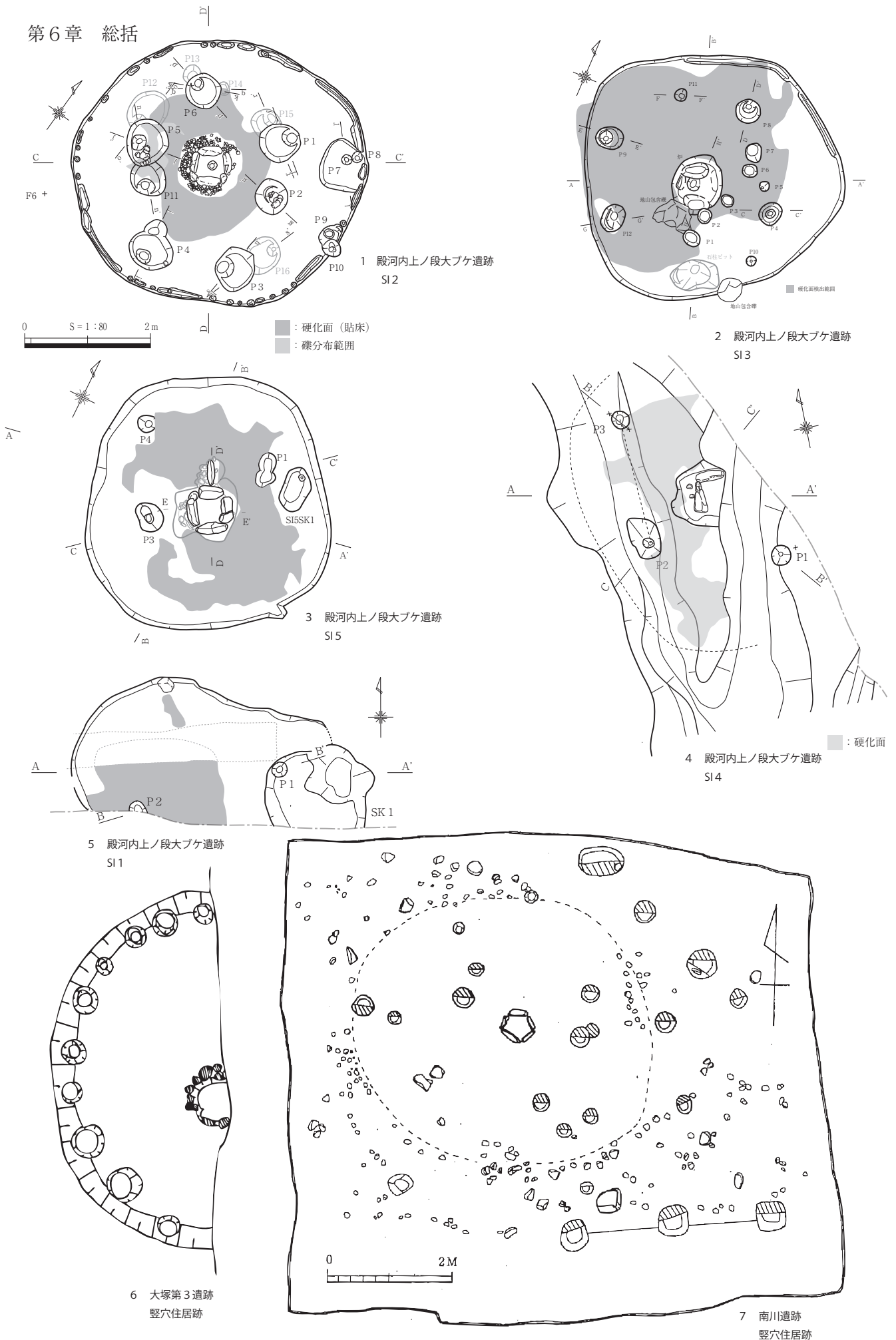
大塚第3遺跡では、試掘トレンチで住居の約半分が調査されている。図上で測定すると長軸3.4m、短軸1.6m以上、深さ約0.2mの規模を測る円形の竪穴建物跡である。中央には10石以上の礫（小石）を並べた石囲炉をもち、周壁際に径15～30cm前後のピットが10基、30～50cm間隔で検出されている。明確な時期は特定できないが、後期の粗製土器が出土している。

また、琴浦町の西側、大山町との境付近では南原千軒遺跡で中津新式段階の竪穴建物跡が1基（SI 5）調査されている。長軸5.25m、短軸3.6m、深さ5～8cmの規模を測る平面不整楕円形を呈すものである。床面中央やや西寄りに大型礫を組み合わせた石囲炉をもち、明確な柱穴は検出されなかった。

県内の縄文時代の建物跡（表63・64）のうち、竪穴建物跡は34基検出されている。このうち、石囲炉を有する建物跡は可能性があるものを含めて21基あり、中期末から後期中葉に限られているのが特徴である。大山町内の竪穴建物跡も例外ではない。主柱穴は不明瞭なものが多く、しっかりとした主柱をもつものは、県内では中期末以降の智頭枕田遺跡SI-1（旧）や津田峰遺跡A-3号住居址、殿河内上ノ段大ブケ遺跡SI5の2本柱のもの、久古第3遺跡第1竪穴住居跡の4本柱のもの、殿河内上ノ段大ブケ遺跡SI 2・3・4の4～5本柱のものがある他、形態的には異なるが、大塚第3遺跡のように壁際に柱穴が連続するものがある程度で、あまり例がない。構造的にしっかりとした建物は、殿河内上ノ段大ブケ遺跡SI 2のように建て替えが認められるものがあり、長期に亘って通年的に使用された可能性がある。反面、主柱穴の不明瞭な建物は、平地式建物同様、短期間の造営又は季節的な移動に伴う建物であった可能性を指摘しておく。

住居の規模は、早期末の智頭枕田遺跡SI-3が例外的に34.8㎡と大型であるが、その他のものは15

第6章 総括



第148図 大山町域縄文住居跡

第1節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の縄文時代集落について

表63 鳥取県内縄文住居跡一覧表(1)

遺跡名	所在地	住居数	遺構名	時期	土器形式等	形式	平面形	規模(m)	深さ(cm)	床面積(m ²)	柱穴数(主柱穴)	炉	周溝	備考
殿河内上ノ段大ブケ遺跡	西伯郡大山町	5	SI 1	後期前葉	布勢式	竪穴	楕円形?	4.0 × 2.2以上	10	6.8以上	4~5?	?	無	貼床あり。
			SI 2	後期前葉	福田K II式(古)段階	竪穴	楕円形	4.7 × 4.1	10	14.2	4→5	石囲炉	有	貼床あり。床面に焼土あり。建て替え2回
			SI 3	後期前葉	福田K II式(古)段階	竪穴	不明	4.05 × 3.85	11	12.0	5?	石囲炉か	有	貼床あり。
			SI 4	後期?	福田K II式(古)段階?	竪穴	不明	不明	-	-	4~5	石囲炉	無	貼床あり。弥生時代に流出。
			SI 5	後期前葉	福田K II式(古)段階	竪穴	不整形	4.0 × 3.8	10	11.5	2	石囲炉	無	貼床あり。
智頭枕田遺跡	八頭郡智頭町	15	SI-3	早期	黄島式段階	竪穴	不整形	8.8 × 7.2	51	34.8	0	なし	無	
			SI-1(旧)	中期末~後期初頭	北白川C式段階	竪穴	台形状隅丸方形	5.7 × 4.7	30	18	2	石囲埋燵炉	有	
			SI-8			竪穴	隅丸方形	6.0 × 5.2		(28.1)	(2)	石囲炉	有	
			SI-4			竪穴	(隅丸方形)	(4.8) × ?			2	石囲炉		
			SI-5		中津式段階	竪穴	(隅丸方形)	(4.7) × (4.2)		(17.6)	(2)	石囲炉		
			SI-7			竪穴	(隅丸方形)	(4.2) × ?			(2?)	石囲炉		
			SI-9			竪穴	方形	4.2 × 3.7		(15.1)	(2?)	-	有	
			SI-1(新)			竪穴	(隅丸方形)	(5.5) × 4.5			2	石囲炉		
			SI-6			竪穴	(隅丸方形)	5.5 × 5.1		(24.6)	2	石囲炉		
			SI-10			竪穴	(隅丸方形)	(4.5) × ?			(2)	石囲炉		
			SI-12			竪穴	(隅丸方形)	(5.8) × (4.9)		(26.1)	(2)	石囲炉		
			SI-14			竪穴	(隅丸方形)	? × (3.4)			(2)	石囲炉		
			掘立柱建物跡			平地	長方形	8.2 × 3.2			26.2		無	無
SI-2	後期前葉~中葉	縁帯文段階	竪穴	(隅丸方形)				(14)	(2?)	石囲炉				
	晚期	凸帯文段階	竪穴	円形						地床炉	?	5棟程度		
取木遺跡	倉吉市	2	竪穴状遺構	早期	大川式段階	竪穴	隅丸方形	3.2 × 2.7 + 2.2 × 1.7	11	10.7	8 + 2	なし	無	張り出し部あり。
			ビット群			平地	円形	2.1 × 2.0	-	3.1	5?	なし	無	礎群(屋外炉?)に隣接。
津田峰遺跡	倉吉市	1	A-3号住居址	後期前葉~中葉	縁帯文段階	竪穴	方形	3.5 × ?	30	(12.2)	(2)	石囲炉	無	
横峯遺跡	倉吉市関金町	1	SI-05	後期初頭	福田K II式段階	竪穴?	?				(4)	地床炉?	無	
南原千軒遺跡	東伯郡琴浦町	1	SI-5	後期初頭	中津式段階	竪穴	楕円形	5.2 × 3.6		13.9		石囲炉		
森藤第2遺跡	東伯郡琴浦町	2	SI-01	後期前葉	布勢式	竪穴	隅丸方形	4.0 × ?	21	(15)	1-	石囲炉	無	
			SI-02	後期前葉	布勢式	竪穴	隅丸方形	4.0 × ?	14	(16)		石囲炉?	無	テラス部あり。
大仙峯遺跡	倉吉市	1	2号土坑	後期中葉~後葉	元住吉山I~II式段階	竪穴	不整形	3.4 × 3.2	20	8.5	4?	地床炉?	無	
大塚第3遺跡	西伯郡大山町	1	縄文住居跡	後期	-	竪穴	円形	3.4 × ?	20	(7)	10-	石囲炉	無	壁際に沿って柱穴あり。
南川遺跡	西伯郡大山町	1	住居跡	後期初頭	福田K II式段階	竪穴?	(円形)	(4.5) × (4.5)	-	(17)	多数	石囲炉	無	床硬化面あり。
百塚第7遺跡	米子市淀江町	1	SI-01	後期前葉~中葉	崎ヶ鼻式段階	竪穴	隅丸方形	4.3 × 3.6	70	(16)	7(4)	地床炉	無	北東側に盛り土あり。
大下畑遺跡	米子市淀江町	1	SI-27	後期前葉~中葉	崎ヶ鼻式段階	竪穴	隅丸方形?				3	地床炉	有	
喜多原第4遺跡	米子市	1	掘立柱建物	後期前葉~中葉	崎ヶ鼻式段階	平地	不整形楕円形	11.0 × 4.3	-	43.8	18	なし	無	
泉前田遺跡	米子市淀江町	1	SI-09	早期?	高山寺式段階?	竪穴	楕円形	4.2 × 3.5	14	10.7	36	地床炉?	無	壁際に沿って柱穴あり。
長山馬籠遺跡	西伯郡伯耆町	2	JSI-01	早期末~前期初頭	長山式段階	竪穴	楕円形	4.2 × 3.6	60	9.5	11?	なし	無	石器製作址?中央部にテラス状の掘り込みあり。
			JSI-02	早期末~前期初頭	長山式段階	竪穴	楕円形	3.3 × 2.6	23	4.1	4	なし	無	石器製作址?突出部、中央ビット状遺構あり。
代遺跡	西伯郡伯耆町	4	JSI-1	前期?	-	平地	楕円形	6.2 × 4.6	-	22.4	12	なし	無	
			JSI-2	前期?	-	平地	楕円形	4.5 × 4.0	-	14.7	10	なし	無	
			JSI-3	前期?	-	平地	楕円形	4.7 × 3.9	-	14.2	14	なし	無	
			JSI-4	前期?	-	平地	楕円形	5.2 × 3.3	-	13.6	16	なし	無	
久古第3遺跡	西伯郡伯耆町	1	第1竪穴住居跡	晚期	滋賀里III a式段階	竪穴	円形	5.3 × 4.9	25	18.4	4	なし	無	弥生時代以降の可能性もあり。
三部野遺跡	西伯郡伯耆町	1	SI-01	晚期	古海式段階	平地?	?	5.6 × 5.6	-	(17.6)	5	なし	無	
鶴田荒神ノ峯遺跡	西伯郡南部町	1	SI-01	晚期	篠原式段階	平地?	円形	4.6 × ?		(15.1)	6	なし	無	
早田第1遺跡	西伯郡南部町	9	SI-01	早期末~前期初頭	長山式段階	平地	楕円形	4.9 × 4.3	-	17.9	7	なし	無	
			SI-02			平地	円形	5.6 × 5.1	-	22.4	6	なし	無	
			SI-03			平地	円形	6.5 × 6.5	-	38.4	8	なし	無	
			SI-04			平地	楕円形	6.9 × (5.8)	-	30	9	なし	無	
			SI-05			平地	円形	4.0 × 4.0	-	13	7	なし	無	
			SI-06			平地	円形	4.9 × 4.5	-	17.8	7	なし	無	
			SI-07			平地	楕円形	5.2 × 4.2	-	17.5	8	地床炉?	無	
			SI-08			平地	楕円形	5.7 × 4.0	-	17.2	7	地床炉?	無	
			SI-09			平地	円形	4.0 × 3.6	-	11.2	7	なし	無	
石脇第3遺跡 操り地区	東伯郡湯梨浜町	1	SI01	縄文?	-	平地?	不整形	6.5 × 6.5		33.9	12(8)	なし	無	

表64 鳥取県内縄文住居跡一覧表(2)

遺跡名	所在地	住居数	遺構名	時期	土器形式等	形式	平面形	規模(m)	深さ(cm)	床面積(m ²)	柱穴数(主柱穴)	炉	周壁溝	備考
岡成第9遺跡	米子市	2	SB-01	縄文?	-	平地	方形+不整形	(11.5) × 3.9		41	15-(6?)	なし	無	
			SB-02	縄文?	-	平地	方形+台形	7.2 × 3.3		22.8	8(6?)	なし	無	
上菅荒神原遺跡	日野郡日野町	16	SB-01	不明	不明	平地	長方形	5.8 × 3.3	-	18.5	16	なし	無	
			SB-02	不明	不明	平地	楕円形?	4.0 × 2.8	-	8.6	9	なし	無	P4、P5は立て替え?
			SB-03	不明	不明	平地	楕円形?	4.0 × 2.6	-	8.4	12	なし	無	
			SB-04	不明	不明	平地	不整形?	2.2 × 1.6	-	2.8	10	なし	無	
			SB-05	不明	不明	平地	円形?	6.0 × 4.9	-	24.7	10	なし	無	
			SB-06	不明	不明	平地	楕円形?	3.4 × 2.6	-	6.9	9	なし	無	
			SB-07	不明	不明	平地	楕円形?	? × 3.5	-		8-	なし	無	
			SB-08	不明	不明	平地	方形?	3.2 × 2.7	-	8.2	9	なし	無	
			SB-09	不明	不明	平地	楕円形?	4.5 × 3.8	-	15.3	12	なし	無	
			SB-10	不明	不明	平地	不整形楕円形?	5.9 × 3.8	-	17.8	11	なし	無	
			SB-11	不明	不明	平地	長方形?	8.0 × 4.7	-	35.2	21?	なし	無	
			SB-12	不明	不明	平地	円形?	3.0 × 2.7	-	6.3	9	なし	無	
			SB-13	不明	不明	平地	楕円形?	5.1 × 3.7	-	15	12	なし	無	
			SB-14	不明	不明	平地	不整形楕円形?	5.0 × 3.8	-	16.2	11?	なし	無	
			SB-15	不明	不明	平地	円形?	4.4 × 3.5	-	12	10	なし	無	
			SB-16	不明	不明	平地	円形?	4.5 × 3.9	-	14.2	8	なし	無	P5、P6は立て替え?
SH-01~53	不明	不明	平地?	-	-	-	-	-	-	-	-	参考		

m²未満のものが大半で、県内の竪穴建物跡は縄文時代を通じて小規模な住居形態であったことが窺える。殿河内上ノ段大ブケ遺跡のものも例外ではなく、1棟当たりの成員(家族体?)はかなり小規模であった可能性が考えられる。

また、殿河内上ノ段大ブケ遺跡 SI 2の床面上に形成された焼土層の存在や、SI 3の石囲炉解体後の土器配置のような、炉の解体、住居の廃絶時に行われたと考えられる儀礼の痕跡は、県内の他の竪穴建物跡には確認されておらず、山陰地方では邑南町五明田遺跡 SI01~04で確認された火入れ行為が知られているに過ぎない(山田 2001)。今後、類例の増加を待って再検討が必要であろう。

4 殿河内上ノ段大ブケ遺跡と周辺遺跡

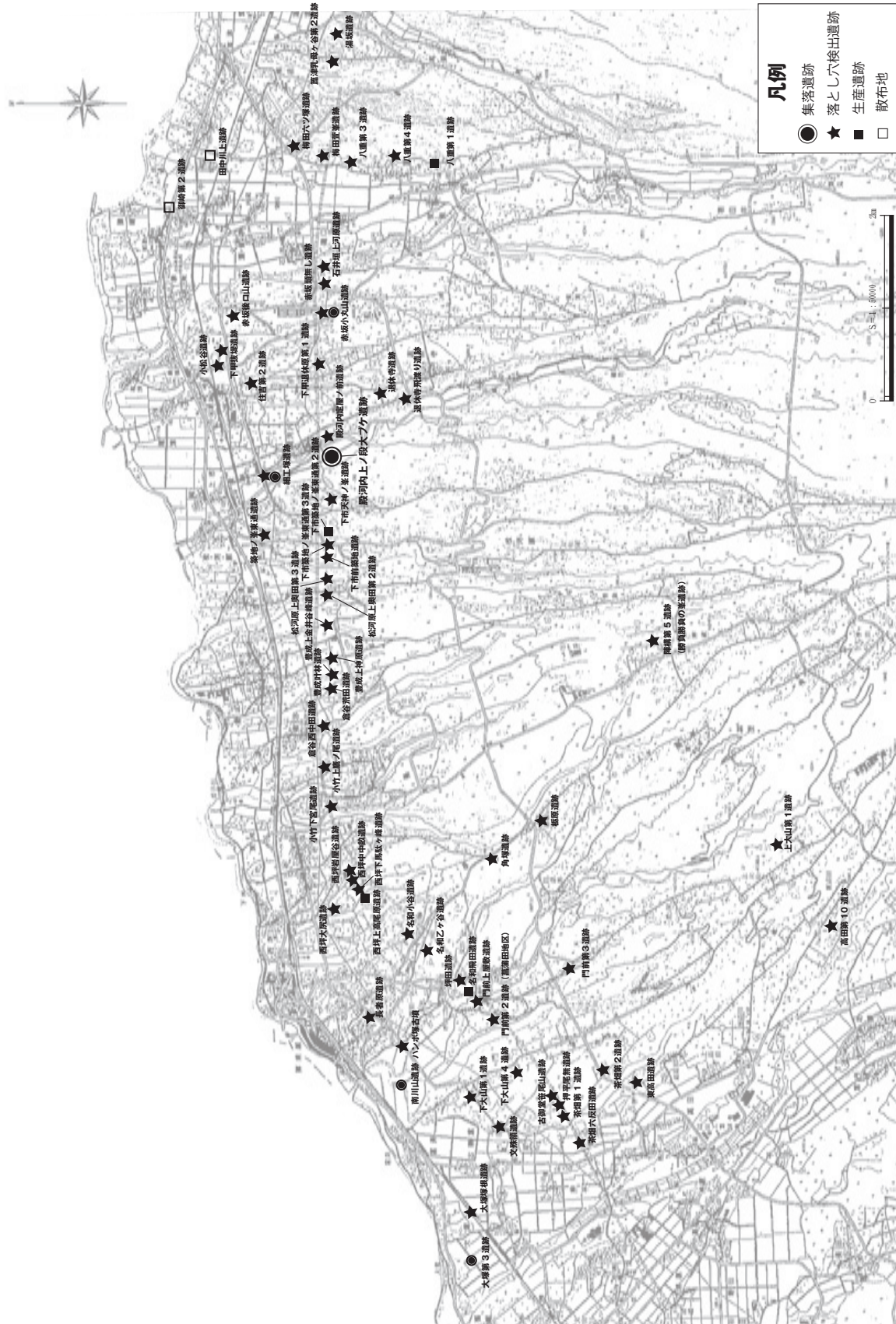
殿河内地区においては、当該遺跡のほか殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡が調査されているが、大山町域を見渡すと、早期から晩期の集落関係の遺跡が確認されている。

早期末から前期初頭では、住居等の遺構は検出されていないが、黒曜石を中心とした石器製作址と考えられている下市築地ノ峯東通第2遺跡、名和飛田遺跡があり、同時期の拠点的な遺跡と考えられている。西坪上高尾原遺跡も黒曜石製石鏃の製作址と考えられているが、量的には少なくキャンプサイト的な性格が考えられている。下市前築地遺跡では、縄文時代早期から前期中葉を中心とする縄文土器が約300点まとまって出土しており、下市築地ノ峯東通第2遺跡から派生したキャンプサイトではないかと考えられている。同時期の殿河内上ノ段大ブケ遺跡においても、石器製作の痕跡はないが一時的な立ち寄りの場であった可能性があり、同時期に拠点的な下市築地ノ峯東通第2遺跡から派生するキャンプサイト的な性格が想定できよう。その他、細工塚遺跡では、前期初頭から前半の遺物とともに土坑が検出されており、近辺に居住域が存在する可能性がある。

中期末では、赤坂小丸山遺跡で集石土坑・遺物が検出されている他、晩期の遺物が多量に出土しており、近辺に居住域が存在するものと考えられる。

後期では、大塚第3遺跡、後期初頭(五明田式併行)と考えられる南川遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡で集落が確認されている。また、近接する琴浦町域には、殿河内上ノ段大ブケ遺跡に近いところでは後期初頭(中津新式併行)の南原千軒遺跡がある。

第1節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の縄文時代集落について



第149図 縄文時代周辺遺跡分布図

第6章 総括

晩期後半では、田中川上遺跡や御崎第2遺跡で土器がまとまって出土しており、調査地周辺に同時期の居住域が存在する可能性がある。

また、集落以外の落とし穴が検出された遺跡のうち、殿河内上ノ段大ブケ遺跡と時期を同じくする遺跡は、近辺では当遺跡から下市川を挟んで約200m離れた東側丘陵上に展開する殿河内定屋ノ前遺跡がある。この遺跡では、出土遺物や放射性炭素年代測定の結果、縄文時代中期から後晩期ごろと考えられる落とし穴が計19基調査されている。概ね、大ブケで集落が形成された時期と重なっており、大ブケ集落の住人が、定屋ノ前に落とし穴を設置した可能性がある。この場合、居住域と狩猟場との距離が近くなるが、間には下市川が流れており、見た目以上の隔絶感があり、獲物も近寄りやすくなっていたものと思われ、狩猟場として利用されたものと考えられる。

また、殿河内ウルミ谷遺跡では、明確な遺構は検出されていないが、縄文時代後期末の凹線文土器様式の浅鉢片、縄文時代晩期の深鉢片、縄文時代と考えられる石鏃が出土している。これらの遺跡は、時期は不明ながらも、主に狩猟場として利用されたものと思われ、やはり殿河内上ノ段大ブケ遺跡の集落造営期間と重なる。

その他、当該遺跡周辺では、落とし穴が検出された遺跡が多数存在している（第149図、表65）。落とし穴の時期を特定できるものはほとんどないが、早期から晩期にかけて造営されたものと考えられている（中四国縄文研究会2013）。当該地域は、縄文人が獲物を追って長期間に亘って遊動し、良好な狩猟場となっていたことを物語るものである。

その中であって、名和飛田遺跡・下市築地ノ峯東通第2遺跡は早期末から前期にかけて、赤坂小丸山遺跡は中期末・晩期、殿河内上ノ段大ブケ遺跡や南川遺跡・大塚第3遺跡は後期初頭から後期前葉・晩期における居住の拠点であったと考えることが可能であろう。なお、落とし穴が検出される遺跡には、同時期の明確な集落関連遺構は検出されず、落とし穴のみ検出される場合が多い。細工塚遺跡や赤坂小丸山遺跡、下甲退休原第1遺跡、下市前築地遺跡のように生活痕跡、土壙墓や土坑・集石遺構が伴い周辺に居住域の存在が考えられる遺跡に存在する落とし穴遺構は、遺構の性格上、居住域の時期とは異なる時期のものと考えられる（註5）。

5 おわりに

殿河内上ノ段大ブケ遺跡では、縄文時代早期から晩期に亘って、縄文人の足跡が窺える。特に縄文時代後期から晩期にかけては、居住域を替えながら小規模な集落が、断続的に営まれていたと考えられ、良好な居住地として選ばれた場所であったといえる。さらに、後期初頭（五明田式併行）では、集落を構成する上でも重要な貯蔵施設は確認されていないが、居住単位・墓域が形成され、一定期間の定住が行われていたものと考えられる。居住の単位は2棟1単位となるものが2単位はあり、同時に存在していた可能性があるが、規模としては小規模な集落形態であったといえる（註6）。晩期段階においては、明確な遺構はないものの、遺物量が多いことから集落として一定期間造営されていたものと考えられる。なお、全時期に亘って遺跡内からは周辺遺跡で多数検出される落とし穴遺構は検出されていないことから、この地が人間活動（居住）の場であり、獲物となる動物があまり寄り付かない場所であったことが窺われる。

また、遺跡内では、多量の石鏃類、打製石鏃や石皿、わずかではあるが切れ目状・打ち欠き石錘なども出土していることから、堅果類の採取・調理、石器製作、漁労、開墾、場合によっては作物栽培

表65 大山町域落とし穴一覧（中四国縄文研究会2013の表を一部改変）

遺跡名	立地	標高 (m)	落とし穴 (基数)							総数
			草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	
八重第3遺跡	丘陵	82～93							38	38
八重第4遺跡	丘陵	100							3	3
赤坂後口山遺跡	丘陵	40～42							18	18
赤坂小丸山遺跡	丘陵	61～73			4	1			19	24
赤坂頭無し遺跡	丘陵	65～75			4		1		3	8
石井垣上河原遺跡	丘陵	69～73			1		1		1	3
下甲抜堤遺跡	丘陵	37～38							11	11
下甲退休原第1遺跡	丘陵	70～74					2	2	22	26
小松谷遺跡	丘陵	46							4	4
住吉第2遺跡	丘陵	34～36							5	5
退休寺遺跡	丘陵	58～80							6	6
殿河内定屋ノ前遺跡	丘陵	47～59			1	1	1	2	14	19
細工塚遺跡	丘陵	27～32			1	1				2
下市天神ノ峯遺跡	丘陵	72							1	1
築地ノ峯東通遺跡	丘陵	55							1	1
下市築地ノ峯東通第3遺跡	丘陵	68～75		1	1	2	3		16	23
下市前築地遺跡	段丘	50～55				1			3	4
松河原上奥田第3遺跡	丘陵	70							1	1
豊成上金井谷峰遺跡	丘陵	62～70					1		9	10
豊成上神原遺跡	丘陵	63～68							7	7
豊成叶林遺跡	丘陵	57～65							3	3
勝負勝負の峰遺跡	丘陵	211							3	3
倉谷荒田遺跡	丘陵	55～63		1	1				5	7
倉谷西中田遺跡	丘陵	49～61					2	3	26	31
小竹上鷹ノ尾遺跡	丘陵	48～52			1	2	1		35	39
小竹下宮尾遺跡	丘陵	45							6	6
栃原遺跡	丘陵	105							1	1
西坪岩屋谷遺跡	丘陵	50							3	3
西坪中中畝遺跡	丘陵	48～53					12		30	42
西坪下馬駄ヶ峰遺跡	丘陵	50～56							14	14
西坪大尻遺跡	丘陵	42～46							1	1
角塚遺跡	丘陵	80～100							2	2
名和猪子谷遺跡	丘陵	83							1	1
名和小谷遺跡	丘陵	55～61							3	3
名和乙ヶ谷遺跡	丘陵	59～62							3	3
名和飛田遺跡	低位段丘	25～30							1	1
坪田遺跡	河岸段丘	25～30					1		12	13
長者原遺跡	丘陵	35～38							1	1
ハンボ塚古墳	丘陵裾部	17							1	1
御来屋所在遺跡	丘陵	27							1	1
上大山第1遺跡	台地	200							3	3
高田第10遺跡	丘陵	157～180							5	5
門前上屋敷遺跡	河岸段丘	27～38			1				10	11
門前第2遺跡 (菖蒲田地区)	丘陵	44～55					2		20	22
門前第3遺跡	丘陵	73～118							7	7
下大山第4遺跡	丘陵	47							2	2
下大山第1遺跡 (山村遺跡)	丘陵	35～38							1	1
古御堂笹尾山遺跡	丘陵	50～56			1				24	25
文殊領遺跡	丘陵	35～40							12	12
茶畑第2遺跡	丘陵	74							1	1
茶畑六反田遺跡	丘陵	55～59							6	6
東高田遺跡	丘陵	77～84							26	26
押平尾無遺跡	丘陵	46～56			1				13	14
茶畑第1遺跡	丘陵	54～56			8	1		2	71	82
大塚塚根遺跡	丘陵	32～36							1	1
赤松中楨原遺跡	丘陵斜面	280～295							5	5
妻木晩田遺跡	丘陵	80～180			2		1	2	672	677
妻木法大神遺跡	氾濫原	32～36					1		2	3
計			0	2	28	9	24	15	1,215	1,293

第6章 総括

なども行っていた可能性もある他、当該遺跡周辺には、数多くの落とし穴が検出された遺跡が存在していることから、少なくとも縄文時代後期初頭段階においては、殿河内上ノ段大ブケ遺跡を居住の拠点とし、活発に狩猟活動が行われていたものと考えられ、当該遺跡周辺の遺跡と考え合わせると、縄文人の暮らしぶりを考える上で、良好な資料であると考えられる。

【註】

- (1) 殿河内上ノ段大ブケ遺跡では、中津式Ⅰ・Ⅱ式の土器は確認されていない。
- (2) SI 3では、石囲炉は直接検出されなかったが、石を据えた痕跡があり、本来は石囲炉があったものと考えられる。
- (3) 矢野健一氏は、「定着」という用語を用いて、定住の様子を表現している（矢野 2009）。
- (4) 試掘調査報告書では大塚遺跡群という名称で記載されているが、遺跡地図上では大塚第3遺跡となっており、この名称を使用することとする。
- (5) 落とし穴猟の主な獲物は、イノシシと考えられる。イノシシは極端に人間の臭いを嫌う性質があり、人間の居住域にはほとんど近づかないといわれる。集落遺構が検出される遺跡には、基本的に同時期の落とし穴の存在は考えにくい。
集落遺跡と落とし穴遺構が近接するとされる遺跡として、下市前築地遺跡や琴浦町森藤第2遺跡などがある。森藤第2遺跡では、縄文時代後期前葉（布勢式期）の住居跡、晩期後半（突帯文期）の土坑群と落とし穴が並存している。落とし穴は出土土器から晩期後半（土坑7）と考えられているが、この時期は落とし穴以外の土坑群が形成され人間活動するエリアとなっていること、土坑7が晩期の別の土坑と重複している可能性があり、出土遺物はこの別の土坑に伴う可能性があることから、落とし穴は人間活動期以前に形成されたものと考えたほうがよいと思う。
下市前築地遺跡では、遺構は伴わないものの縄文時代早期から前期中葉の土器がまとまって出土し、中期の落とし穴1基、時期不明のもの3基が検出されている。また、下甲退休原第1遺跡では、早期の集石遺構2基と後・晩期の落とし穴4基が検出されている。赤坂小丸山遺跡では、縄文時代早期末から前期を中心に落とし穴25基と縄文時代中期から晩期にかけて明瞭な居住域は晩期以外には認められないが、前期中葉から後葉の集石土坑などがあり、周辺域に断続的に集落が形成されていたと考えられる。これらの遺跡は、生活空間の時期と狩猟場になる間には、かなりの時間差が認められる例である。
- (6) 縄文時代後期の集落形態については、中国地方の集落を検討した山田が、住居2棟程度に土坑が付随する形態が一般的と指摘しており（山田 2002）、当該遺跡についてもこのことが当てはまる。しかし、五明田式期においては、最大4棟の住居が同時並存していた可能性もあり、集落形態について再考されるものと考えられる。

【参考文献】

- 稲田陽介 2010 「山陰地方の縄文後・晩期集落」『シンポジウム記録7 西日本の縄文集落 古墳時代の首長居館をめぐる諸問題 吉備のムラと役所』考古学研究会例会委員会編
- 財団法人鳥取県教育文化財団 2005 『名和飛田遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 104
- 中四国縄文研究会 2010 『遺構から見た中四国地方の縄文集落像 発表資料集』第21回中四国縄文研究会 鳥根大会
- 中四国縄文研究会 2013 『中四国地方における縄文時代の落とし穴』第24回中四国縄文研究会 鳥取大会
- 東伯町教育委員会 1987 『森藤第1・森藤第2遺跡発掘調査報告書 鳥取県営畑地帯総合土地改良事業に伴う発掘調査報告2』東伯町文化財発掘調査報告書第10集
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2011 『西坪上高尾原遺跡 西坪下馬駄ヶ峰遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 35
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2012 『殿河内定屋ノ前遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 45
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2015 『下甲退休原第1遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 56
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2014 『殿河内ウルミ谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 57
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2015 『赤坂小丸山遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 58
- 名和町教育委員会 1994 『名和町内遺跡分布調査報告書』名和町文化財調査報告書第14集
- 柳浦俊一 2010 「山陰」『西日本の縄文土器 後期』真陽社
- 矢野健一 2009 「小規模集落の長期定着性」『関西縄文時代の集落と地域社会 第10回記念研究集会 発表要旨集・資料集』関西縄文文化研究会
- 山田康弘 2001 「山陰地方における縄文時代遺跡研究の展望—鳥根県を中心に—」『鳥根考古学会誌第18集』鳥根考古学会
- 山田康弘 2002 「中国地方の縄文時代集落」『鳥根考古学会誌 第19集』鳥根考古学会

第2節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡出土石器について

本遺跡では1区から約2500点、2区から約2800点の剥片石器および剥離物が出土している。このうち溝や流路以外の遺構から出土したものは、複数の竪穴建物をもつ1区においてさえ僅か6%程度であり、それも埋土中からの出土が大半で、厳密に遺構に伴うと見なされるものは非常に少ない。したがって、個々の石器の年代や石器群の正確な組成を知ることは困難である。しかしながら、縄文時代後期から晩期という遺跡の年代から明らかに外れる石器がほとんどないことと、流路等から出土した石器に転磨による損傷がほとんど見られないことなどから、本遺跡の石器群からは、遺跡およびその周辺で行われた活動や生業をある程度窺うことが可能であると思われる。ここでは煩雑さを避けるため、1区と2区、遺構出土と包含層等の遺構外出土をまとめて扱う。

1 剥離物

本遺跡の石材利用状況には大きな特徴がある。玉髄や水晶の剥片や碎片が僅かに出土しているものの、黒曜石とサヌカイト以外の石材はほぼ用いられていない。黒曜石とサヌカイトの比率は、点数でも重量でもおよそ4:6で、プライマリーな状態により近いと考えられる1区においては黒曜石の割合は重量で約3分の1である。黒曜石よりもかなり遠隔地の石材であるサヌカイトを主体として利用する点からは、瀬戸内地域との深い関係と安定した交易が想定される。

縄文時代以降の他の遺跡と同様に、本遺跡でも、台石上での挟み撃ちによる両極打撃の特徴を示す剥離物が多数認められる。製作実験において両極打撃で剥離した剥片の多くが、対向打瘤や直線的な側面観などの、この技法を識別するための特徴を必ずしも示すわけではないことを考慮すれば、実際にはずっと多くの剥片が両極打撃によって生産されているであろう。あるいは、石核に認められる両極打撃と他の打撃の比率が実際の割合に近いかもしれない。なおここでは、楔形石器という型式を用いずに、両極調整体と呼んでいる。これはこの種の遺物が、楔として用いたというよりも、むしろ押圧を加える前に石器素材を断面凸レンズ状に整えておいたものであることが、石鏃や石鏃未成品を構成する剥離面の観察から推定されるからである。小さな剥片しか取られていない薄いものを両極調整体、石鏃の素材となりうるような大きめの剥片を剥離した痕跡をもつ厚いものを両極石核としたが、境界に近いものでどちらに分類するか悩んだものがある。

黒曜石製石核では両極打撃によらないものが3分の2を占める一方で、サヌカイト製石核は88%が両極打撃を受けている。これは次のような点を反映していると考えられる。まず、黒曜石では石器素材の生産に両極打撃を用いない場合が多いということである。おそらく、サヌカイトの両極打撃に慣れた割り手にとっては、石核から石器素材を取るのにはこの技法では黒曜石は繊細すぎたのであろう。次に、サヌカイトの場合は、石核の素材となる剥片の生産が主に遺跡外で行われていることを示していると考えられる。通常サヌカイトは板状に割れ、その過程で一定量の薄い剥片や特徴的な折れ片や石核が生じるが、本遺跡ではそのような剥離物はほとんど認められない。したがって、本遺跡のサヌカイトは、大型の調整体などのある程度整えられた形態で搬入されている可能性が高い。2区SK17から出土した調整体はこのような素材の形態を示す一例と考えられる。

熱による剥離の痕跡を示す剥離物は、より感受性の高い黒曜石においても、重量でわずか3.3%にすぎない。

表66 殿河内上ノ段大ブケ遺跡石器集計表(1)

剥片石器

	剥離物										石器										計	総計		
	剥片	碎片	石核	面極		石核	熱		石匙	石錐	削器	加工剥片	調整体	石鋸	石鏃			計						
				剥片・剥片	調整体		剥片	剥離物							完形	使用破損	欠損		未成	破片				
黒曜石	点数	593	1,001	39	78	75	20	16	1,822	5	4	38	3		47	19	11	43	15	6	141	191	2,013	
	(g)	1,713.7	4,548	388.4	181.5	212.3	138.4	108.4	3,197.5	12.8	12.9	10.3	11.6		34.2	14.3	11.6	30.0	14.6	2.7	107.5	155.0	3,352.5	
サカハ	点数	753	1,948	4	136	113	22	4	2,980	7	13	21	3		118	14	21	71	23	13	260	309	3,289	
	(g)	2,250.3	1,049.6	337.3	383.7	376.5	285.1	17.5	4,700.0	68.5	114.8	87.7	40.7		90.2	15.8	18.4	55.9	29.6	6.8	216.7	537.9	5,237.9	
その他	点数	13	5	3		1			22		1			1								2	24	
	(g)	38.6	3.5	34.6		3.5			80.2		2.4			2.9									5.3	85.5
総計	点数	1,359	2,954	46	214	189	42	20	4,824	7	10	59	6	1	165	33	32	114	38	19	401	502	5,326	
	(g)	4,002.6	1,507.9	760.3	565.2	592.3	423.5	125.9	7,977.7	68.5	22.3	98.0	52.3	2.9	1,244	30.1	30.0	85.9	44.2	9.5	324.2	698.2	8,675.9	

表67 殿河内上ノ段大ブケ遺跡石器集計表(2)

礫石器

	磨製石斧				石鏃				石錐		計	
	完形	破片	剥片	完形	破片	剥片	打欠	切目	磨石	敲石		
												凹石
安山岩	点数	1	2	25	73	268						369
	(g)	2.2	5.9	10,205.5	21,638.5	1,791.0						33,643.1
玄武岩	点数	4	13									17
	(g)	201.6	84.2									285.8
閃緑岩	点数	1	2						1			11
	(g)	30.0	575.8	29.9					666.0			1,301.7
結晶片岩	点数		1		1	1	1					4
	(g)		40.3		55.3	21.0	41.0					157.6
アイサイト	点数	1				2	4		11			51
	(g)	86.0				192.0	292.0		8,443.0			29,993.0
砂岩	点数	3	1									4
	(g)	526.3	2.8									529.1
凝灰岩	点数								1			1
	(g)								19.7			19.7
総計	点数	1	15	19	74	271	4	1	22	12	11	456
	(g)	30.0	1,392.9	163.1	10,205.5	21,693.8	2,004.0	292.0	41.0	14,948.7	5,663.0	65,931.0

2 剥片石器

ここでは、黒曜石やサヌカイトで作られた石器を、石斧や石鋏など大型の礫石器と区別する意味で、便宜的に剥片石器と総称することにする。剥片石器の大半は石鋏で、401点が出土し79.9%を占める。石鋏における黒曜石の割合は35.2%で、これは1区における剥離物の重量構成比に近い。石鋏は、鋭さが求められるが一度発射すれば壊れることを前提としたパーツであり、鋭くて脆い黒曜石の方がより向いていると思われる。それにもかかわらず本遺跡では、作り分けをせずに石材の比率のままにサヌカイトを支配的に利用するという事は、製作者がサヌカイトを使うことに慣れていることを示していると考えられる。

今回は、石鋏を破損状況等から6種類に分類した。このうち製作事故に分類したものは、押圧剥離面末端から生じた割れや、押圧の行き過ぎによる先端や脚部などの破損などをもつものである。明らかな製作事故によるものは、全体の8.2%と少ない。これはサヌカイトが黒曜石に比べて硬く、多くの例のように調整が素材の周縁にとどまる限りにおいては剥離事故を引き起こしにくいことが関係していると思われる。実際、サヌカイト製石鋏では、全く破損の認められないものが118点も出土している。使用破損に分類したものには、特定の動きに由来すると推定される特徴的な剥離面が認められる。先端方向から始まり側縁を細長く取り去る剥離面や、先端を階段状に潰す剥離面群は、対象物との接触による衝撃剥離と考えられる。脚部の側縁からの割れには衝撃剥離の他に、対象物から引き抜いた際のもものが含まれる推定され、両脚を欠損する例が少なからず存在することが注目される。8.0%と比率は高くないが一定量含まれることから、狩りの際に破損した石器の交換が行われていることがわかる。製作事故とも使用破損とも識別しがたいものは欠損品として扱う。28.4%が欠損品であるが、平面形が整ったものが多いことを考慮すると、かなりの割合で使用破損品が含まれていると思われる。未成品は全体形や先端などが明らかに仕上げられていないもののみを分類したもので、9.5%である。一方、押圧を加えない刃角が鈍いものや不整形で厚いものなどは学習品の可能性が高くかなりの数が存在するが、その区別は主観的で難しいので、他の分類に含めている。なお、使用破損の中には学習品と考えられるものはほとんどない。製作事故品や未成品や学習品の存在は、石鋏の製作とその学習が行われたことを裏付けるものである。

その他の石器では、石匙と削器にはサヌカイトが好まれる一方で、二次加工のある剥片には黒曜石が多く用いられる。前者としては耐久性が、後者としては鋭さが重視されているものと考えられる。石錐については、サヌカイト製のものには重度の使用を示す摩滅をもつものがあるのに対し、黒曜石にはないことから、加工対象物や使用方法に違いがあるのかもしれない。

3 礫石器

礫石器は、166点、64kgが出土した。その中で、多くの石鋏とその製作に由来する安山岩の剥片が出土していることが最大の特徴である。石鋏とその破片は99点、約32kgを数える。素材の安山岩は流路の埋土にも含まれる在地の石材であり、剥片の存在と合わせれば、遺跡内で石材の調達から使用と廃棄までを一貫して行っていることになる。石鋏には先端に激しい使用を示す重度の摩滅や、欠損や、先端の再刃付けをもつものも多く、おそらく開墾のための消耗品として扱われたことを物語る。特に突帯文土器を多数出土した2区に多く見られることから、農耕との関連が想起される。

対照的なのは磨製石斧で、主に玄武岩や閃緑岩など近傍にない石材を用い、その剥片にもすべて研

第6章 総括

磨面が付着するので、製品として搬入されたことが明らかである。完形品は1点しかなく、破損品には敲石などに再利用されたものがある。

磨石・凹石・敲石は、あわせて45点、29kgが出土し、石鍬に次ぐ数量を数える。それぞれが複合したものも少なからずある。石材としては、ほとんどが在地のデイサイト類を利用する。堅果類の処理など、調査地内を貫流していた河川を舞台にした活動を反映しているであろう。

An aerial photograph of a rural landscape. The foreground shows a large, dark, rectangular area, possibly a construction site or a cleared field, with some debris and a small cluster of buildings. To the right, there are several large, rectangular fields, some of which appear to be covered with plastic mulch. A dense forest of trees is visible in the middle ground, separating the foreground from the background. In the distance, a small town or village is visible, with several buildings and a church spire. The sky is overcast and grey.

PLATE